

Milesight



VS125-LW

AIステレオビジョン人流計測システム

VS125-LW ユーザーガイド

目次

第1章 はじめに	4
第2章 製品紹介	6
概要.....	6
梱包明細書.....	7
ハードウェア構成.....	8
電源.....	10
配線図.....	11
第3章 設置	12
設置ガイド.....	12
推奨される設置シナリオ.....	12
検知エリアの参考.....	12
SIMカードの取り付け（セルラー版のみ）.....	16
デバイスの設置.....	17
インストール後のプレビュー異常のトラブルシューティング.....	21
第4章 Web設定	23
デバイスへのアクセス.....	23
ダッシュボードを確認してください.....	29
ルールの設定.....	32
基本カウント機能の設定.....	32
属性認識機能の設定.....	50
デジタル出力トリガーの設定.....	62
ヒートマップの設定.....	63
複数のデバイスを結合する.....	64
通信パラメータの設定.....	70

ネットワークパラメータの設定.....	71
データ受信者を追加する.....	78
MQTT API パラメータの設定（セルラー版のみ）.....	84
レポートを生成する.....	86
画像パラメータの設定.....	88
ビデオ検証の設定.....	89
システムパラメータの設定.....	92
デバイスパラメータの設定.....	92
ユーザーパラメータの設定.....	93
時間パラメータの設定.....	97
リモート管理パラメータの設定.....	98
システムメンテナンスパラメータの設定.....	100
第5章 アップリンクデータとダウンリンクコマンド.....	102
アップリンクデータ.....	102
リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例.....	102
定期レポート用のアップリンクデータ例.....	109
アラーム報告のためのアップリンクデータの例.....	109
MQTT API コマンド.....	112
第6章 サービス.....	121

第1章 はじめに

著作権表示

本ガイドは、Xiamen Milesight IoT Co., Ltd（以下、「Milesight」といいます）の事前の書面による許可なく、いかなる形式または手段によっても複製したり、翻訳、改変、翻案などの派生作品を作成したりすることはできません。本ドキュメントの日本語版は、Milesight社の許諾のもと、ウェーブクレスト株式会社により翻訳されたものです。本書の記載内容と英語版の原本との間に相違や齟齬がある場合は、英語版の内容が優先されるものとします。

Milesight 当社は、事前の通知なしに本ガイドおよび仕様を変更する権利を留保いたします。すべてのMilesight製品の最新仕様およびユーザーマニュアルは、当社の公式ウェブサイト <http://www.milesight.com> でご覧いただけます。

安全上の注意

Milesightは、操作ガイドの指示に従わなかったことにより生じた損失または損害について、一切の責任を負いません。

Warning :

これらの警告を無視した場合、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 本機器の設置は、現地の電気安全規制を厳守し、有資格者によって行われることを確認してください。
- 火災や感電を防ぐため、設置前は本製品を雨や湿気から遠ざけてください。
- 高温になっている部分には触れないでください。
- 電源プラグがコンセントにしっかりと差し込まれていることを確認してください。
- 本体がしっかりと固定されていることを確認してください。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。

CAUTION :

これらの注意事項を無視すると、怪我や機器の損傷を引き起こす恐れがあります。

- 本機器は、指定された温度範囲外で動作しないでください。
- 本製品に衝撃を与えないでください。
- レーザー機器がある環境での本装置の動作は避けてください。
- 過熱を防ぐため、本機の周囲に十分な換気を行ってください。



- レンズの清掃には、柔らかく乾いた布をご使用ください。頑固な汚れの場合は、布を中性洗剤の溶液で湿らせ、レンズを拭いた後、すぐにしっかりと乾かしてください。
- アルコール、ベンゼン、シンナーなどの揮発性溶剤は、装置の表面を損傷する恐れがありますので、使用しないでください。

性別に関する声明

Milesightは、ジェンダー表現のスペクトラム上のあらゆる位置、あるいはその枠を超えたものを含め、多様性のあらゆる側面を尊重し、受け入れています。

技術的な理由により、本デバイスに組み込まれたアルゴリズムは、性別分類（女性／男性）において、視覚的に識別可能な特徴のみを認識します。個人の生物学的性別の確実な検出は不可能であり、またその意図もありません。私たちは、性別が個人のアイデンティティであることを十分に認識し、尊重しており、本技術の出力は、それを軽視したり無効化したりすることを意図したものではありません。

変更履歴

Data	Doc Version	Description
Sept. 22, 2025	V1.0	Initial version

第2章 製品紹介

この章では、製品の基本情報について説明します。

概要

VS125は、ディープラーニングAIと双眼ステレオビジョン技術を採用した、プロフェッショナル向けの人数カウントセンサーです。最大**99.8%**という驚異的なピープルカウンティング精度を誇り、低照度環境や完全な暗闇の中でも安定した性能を発揮します。さらに、性別、子供、スタッフなどの属性認識にも対応しています。プライバシー・バイ・デザイン（Privacy by Design）のアーキテクチャを採用しており、GDPRに準拠しています。

VS125は、ネットワーク接続用にセルラーおよびPoEインターフェースを、外部機器との連携用にRS485、DO、DIインターフェースに対応しています。設置が簡単なため、小売店、ショッピングモール、オフィス、地下鉄駅など、さまざまな用途に適しています。

本製品には以下の特徴があります：

- **信頼性の高い性能：**

- AIとステレオビジョン技術により、最大**99.8%**のピープルカウンティング精度を実現しています。
- 暗闇を含む様々な照明条件下でも、安定した性能を維持します。

- **設置の柔軟性と自動校正技術：**

- 最適な検知性能を維持するため、自動傾斜補正および赤外線調整に対応しています。
- 最低設置高さは**1.9 m**に対応しており、高さ**3.5 m**の位置で最大**40 m²**の検知エリアを確保します。

- **主な機能：**

- ライン越えによるピープルカウンティング、エリア別人流計測、および滞在時間検出に対応しています。
- 性別、グループ人数の計測、子供、スタッフの識別などの属性認識機能に対応し、より深い洞察を提供します。
- 人流の密度や分布を分析するためのヒートマップ機能に対応しています。
- 複数デバイスの映像合成に対応しています。最大**16台**のデバイスを合成し、カバーエリアを拡大できます。

- **複数のインターフェース：**

- 複数の接続オプション（PoE、セルラー）を提供します。
- 外部機器との連携のために、RS485、DI、およびDOインターフェースに対応しています。
- HTTP(s)/MQTT(s)プロトコルおよびAPIとの高い互換性を備え、カスタマイズされたプッシュコンテンツ配信方法に対応しています。

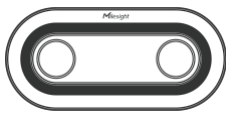
- **デバイス管理とデータセキュリティ：**

- Milesight DevicehubおよびMilesight Development Platformを通じて、迅速かつ簡単に管理できます。
- お客様が設定できるプレビューのプライバシー設定です。個人情報は一切送信されないため、GDPRへの準拠が確保されます。
- 安全なデータ収集のため、ローカルデータ保存およびデータの再送信に対応しています。

梱包明細書

この章では、同梱品リストについて説明します。以下のリストと照らし合わせて内容を確認し、すべての品目が揃っているかご確認ください。もし不足や破損がある場合は、担当の営業担当者までご連絡ください。

汎用アクセサリ



VS125 デバイス × 1



4 × 天井取り付けキット



1 × マルチインターフェースケーブル

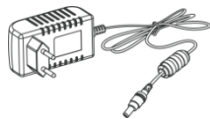


1 × 保証書



クイックガイド × 1

セルラー版専用アクセサリ

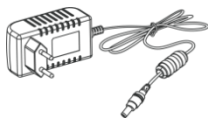


1 × 電源アダプター



SIMカード取り出しツール × 1

PoEモデル専用アクセサリ



電源アダプター × 1 (オプション)

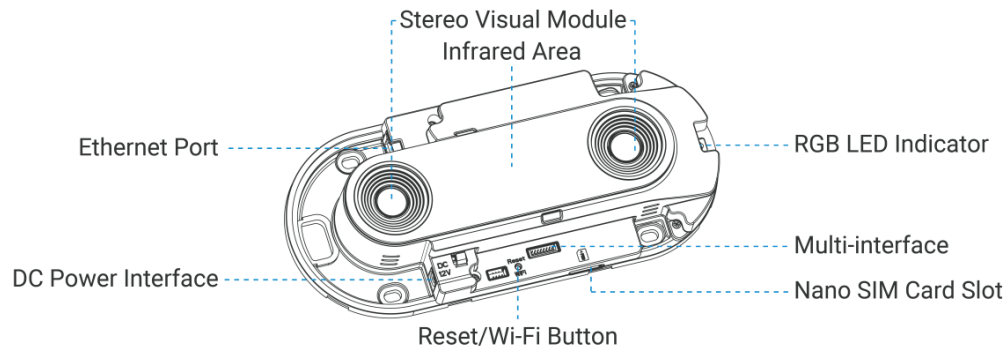
本製品は、別途購入可能な複数の取り付けキットやアクセサリにも対応しています。詳細については、[「Accessories for Milesight People Counters」](#) をご参照ください。

ハードウェア構成

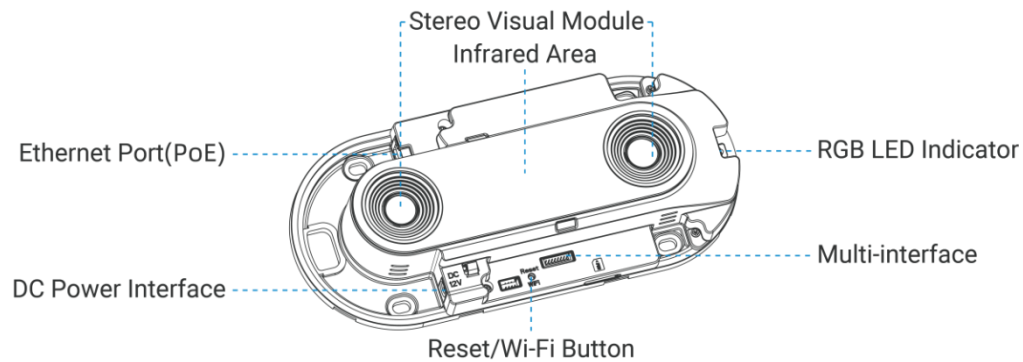
主要コンポーネント

次の図は、本デバイスの主要コンポーネントを示しています。

セルラー版：



PoEバージョン：



各コンポーネントの説明については、以下の表をご参照ください：

Name	Description
Ethernet Port	データ通信および複数デバイスのステッチング機能を提供します。 Power over Ethernet (PoE) に対応している場合、同じポートからデバイスへの給電も可能です。
DC Power Interface	外部DC電源アダプタを接続することで、デバイスへの電源供給を行います。
Stereo Visual Module	立体画像を撮影・処理するデュアルカメラモジュールです。

Name	Description
Infrared Area	目に見えない赤外線を照射してシーンを照らし、暗視機能を提供します。
RGB LED Indicator	多色LEDによる視覚的なステータス表示を行います。
Multi-interface	外部デバイス用の物理的な接続端子を備えています。
Nano SIM Card Slot	Nano-SIMカードを挿入して、携帯電話ネットワーク接続を確立するためのスロットです。
Reset/Wi-Fi Button	デバイスのリセットとWi-Fiペアリングモードの起動を行うデュアル機能ボタンです。

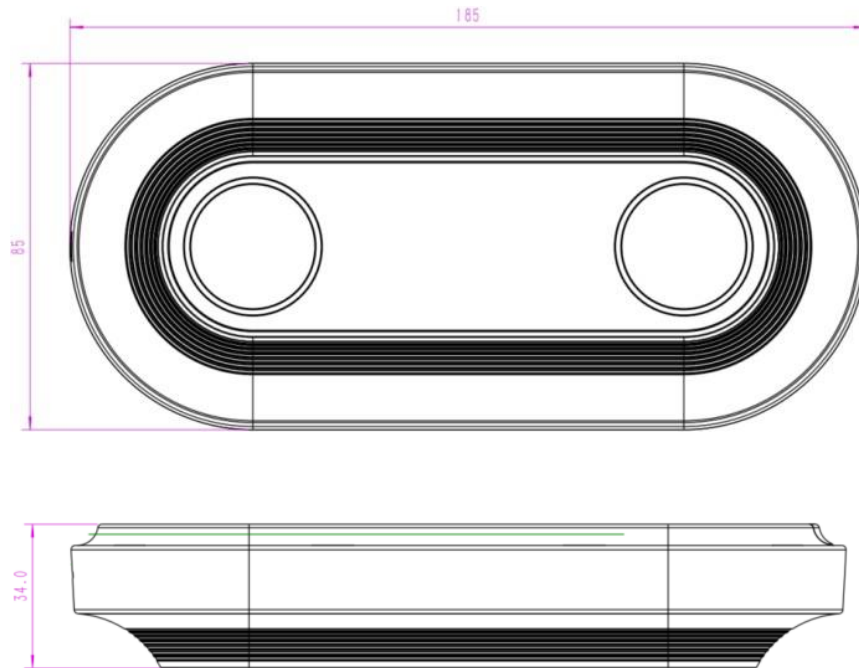
電源ボタンとLEDインジケータ

本デバイスには、電源ボタンと、Wi-Fiのオン/オフおよびリセット機能を示すLEDインジケータが搭載されています。電源ボタンの機能および対応するLEDインジケータの状態については、以下の表をご参照ください。

Function	Action	LED Indicator
Enable/Disable Wi-Fi	電源ボタンを3秒間長押ししてください。	有効/無効：青いライトが3秒間点滅します。Wi-Fi有効：青いライトが点灯しています。 Wi-Fi 無効：緑色のライトが点灯します。
Reset the device	電源ボタンを10秒間長押ししてください。	リセット処理が完了するまで、緑色のライトが点滅します。
Module or algorithm detection error	/	赤いランプが点灯しています。

外形寸法

次の図は、デバイスの外形寸法（単位：mm）を示しています



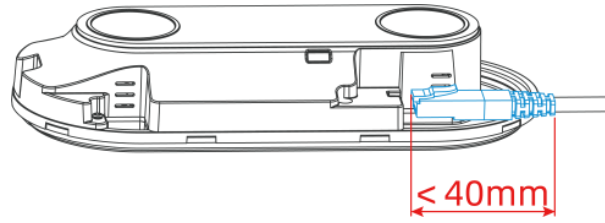
電源

本装置は、DC電源アダプタ（12V、1A）で動作させることができます。



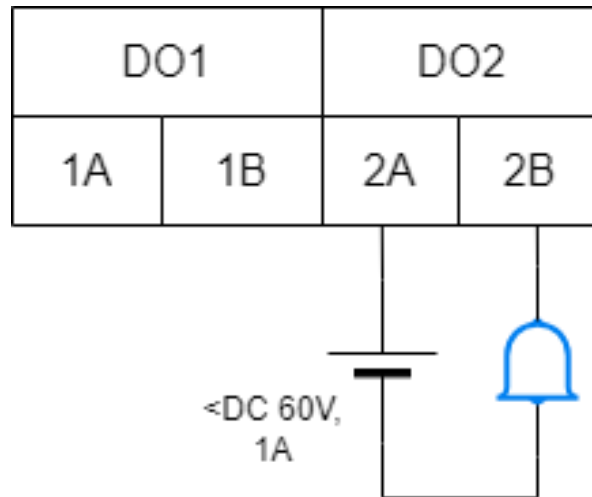
本デバイスは、PoEスイッチ（802.3af準拠）から給電可能です。これはPoEバージョンのみに適用されません。イーサネットケーブルのコネクタ端子の長さは40mm未満である必要があります。





配線図

次の図は配線図を示しています。



第3章 設置

設置ガイド

このセクションでは、推奨される設置シナリオ、精度に影響を与える要因、および検知範囲について説明します。

推奨される設置シナリオ

以下の表は、本デバイスの推奨および非推奨の適用シナリオを一覧にしたものです。本デバイスは多くのシナリオに適用可能です。表には代表的な適用例のみを記載しています。記載されていないシナリオについては、詳細をMilesightまでお問い合わせください。

推奨事項	設置シナリオ	例
推奨	各種公共スペースおよびその出入口	ショッピングモール、 小売店
	スペースの有効活用が必要なエリア	オフィス、図書館
	人員のスケジュール管理や配置が必要なエリア	駅、空港
非推奨	本機が雨にさらされる可能性のある場所	公園
	プライベートエリア	Bathrooms

検知エリアの参考

次の表は、検知エリアの計算に関連するパラメータについて説明しています。

1 台のデバイス単位

表 1. パラメータの定義

Parameters	説明	Value
H	設置高さ	1.9~3.5 m 属性識別が必要な場合は、設置高さの要件について以下の表をご参照ください：

Parameters	説明	値	
		属性識別	設置高さ
		子供用・大人用の区別	1.9~3.3 m
		性別認識	1.9 - 3.3 m
		スタッフ検知	1.9 - 3.3 m
		グループ計数	1.9 - 3.5 m
		視線方向の検知	1.9~3.3 m
h	対象物の高さ	例：1.7 m	
α	水平視野角	130°	
β	垂直視野角	117°	
x	検知範囲の長さ	$2 \times \tan(\alpha/2) \times (H-h+0.05)^*$	
y	検出範囲の幅	$2 \times \tan(\beta/2) \times (H-h+0.05)^*$	

* 式中の「+0.05」は、天井面からの装置の取り付けオフセットを考慮したものです。

検知範囲は、装置の視野角、設置高さ、および対象物の高さに依存します。次の図では、説明のために、水平視野角、設置高さ3メートル、対象物の高さを例として示しています。

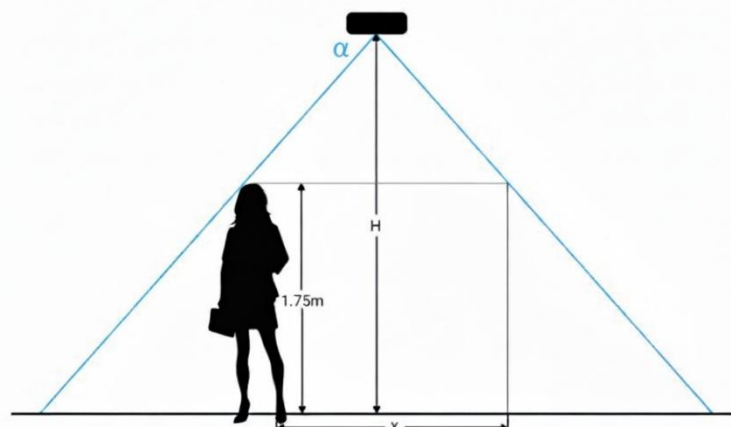


表2. 検知エリア

設置高さ	検出範囲
1.9 m	$0.86 \times 0.65 \text{ m}^2$
2.0 m	$1.28 \times 0.98 \text{ m}^2$
2.2 m	$2.14 \times 1.63 \text{ m}^2$
2.5 m	$3.43 \times 2.61 \text{ m}^2$
3.0 m	$5.57 \times 4.24 \text{ m}^2$
3.5 m	$7.71 \times 5.87 \text{ m}^2$

マルチデバイスユニット

表3. パラメータの定義

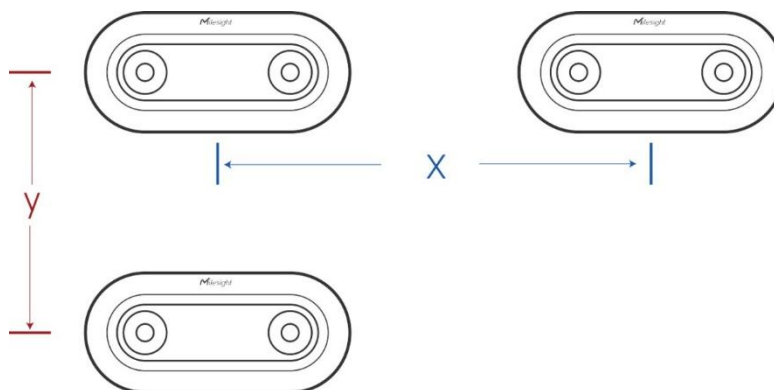
Parameters	説明	Value		
H	設置高さ	1.9~3.5 m 属性の特定が必要な場合は、設置高さの要件について以下の表をご参照ください：		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性識別</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Children&Adult Differentiation</td> <td>1.9~3.3 m</td> </tr> </tbody> </table>	属性識別	設置高さ
属性識別	設置高さ			
Children&Adult Differentiation	1.9~3.3 m			

Parameters	説明	値	
		属性識別	設置高さ
		性別認識	1.9 - 3.3 m
		スタッフ検知	1.9 - 3.3 m
		グループカウント	1.9 - 3.5 m
		視線方向の検知	1.9~3.3 m
h	対象物の高さ	例 : 1.7 m	
α	各デバイスの水平視野角	130°	
β	各デバイスの垂直視野角	117°	
x	各デバイスの検知範囲の長さ	$x = 2 \times \tan(\alpha/2) \times (H-h+0.05)$ (各デバイスにつき)	
y	各デバイスの検知範囲の幅	$y = 2 \times \tan(\beta/2) \times (H-h+0.05)$ (各デバイスにつき)	
a	カバレッジ長に沿って必要なデバイスの数	カバレッジ長 \div x、導入要件に基づき、最も近い整数に丸めます	
b	カバレッジ幅に沿って必要なデバイス数	カバレッジ幅 \div y、導入要件に基づき、最も近い整数に丸めます	

例 : カバレッジ領域が 6m×3m (カバレッジ長さ×カバレッジ幅) で、VS125-LW-P デバイスを高さ 3m (H) に設置し、目標高さ (h) が 1.75m の場合 :

x = 5.57 m、a: カバレッジ長 \div x = 6 \div 5.57 \approx 1.08、a = [1.08] \approx 2 台 y =

4.24 m、b: カバレッジ幅 \div y = 3 \div 4.24 \approx 0.71、b = [0.71] \approx 1 台



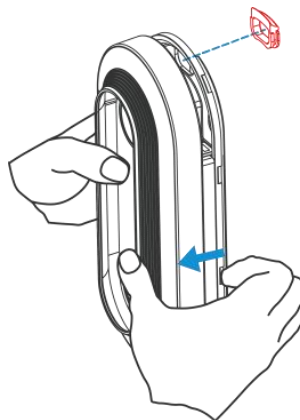
結論 : 6m×3mのエリアを完全にカバーするには、2台のデバイスが必要です。

SIMカードの取り付け（セルラー版のみ）

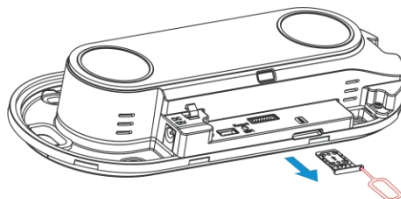
このセクションでは、セルラー版に必要なSIMカードの挿入方法について説明します。

手順 :

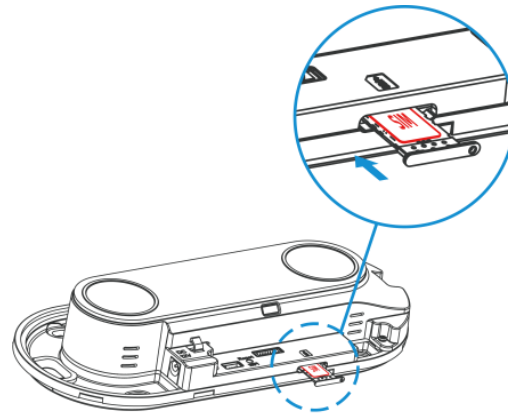
1. カバーを取り外します :
 - a. 両手の親指を赤外線センサー部分に当ててください。
 - b. 残りの4本の指を外側カバーの端に沿わせて対応してください。
 - c. 両手を使って、矢印の方向に押して、背面カバーを取り外します。



2. SIM取り出しツールを使用して、SIMトレイを取り出してください。



3. Nano SIMカードをトレイにセットし、トレイを端末に完全に差し込んでください。



デバイスの設置

このセクションでは、本機を天井に取り付ける方法について説明します。また、[設置動画](#)をご覧ください。ながら設置することも可能です。

必要条件：

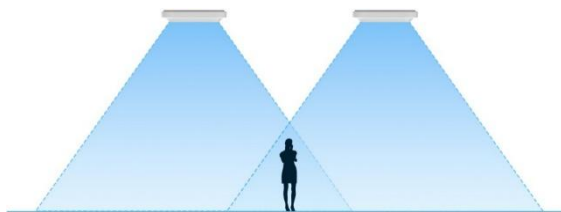
設置場所の要件：

- 照明が安定しており、環境テクスチャが豊富な場所（模様のある床や壁など）。
- 反射面（ガラスや鏡など）がない場所。
- 視界が遮られない場所。
- 開き戸の上の天井への設置：本装置は、ドアの固定側（蝶番側）の上にある天井部分に設置してください。

天井の要件： 平らな天井、最小厚さ：30 mm、傾斜角度：10°以下。

複数台でのステッチング要件：

- 設置高さ：すべてのデバイスは同じ高さに設置する必要があります。
- ソフトウェアのバージョン：すべてのデバイスで同じソフトウェアバージョンを実行する必要があります。
- 接続方式：PoEまたはセルラー接続に対応しており、ハイブリッドな組み合わせも対応しています。
- 接続方法：隣接設置による連続的なカバレッジ。

**注：**

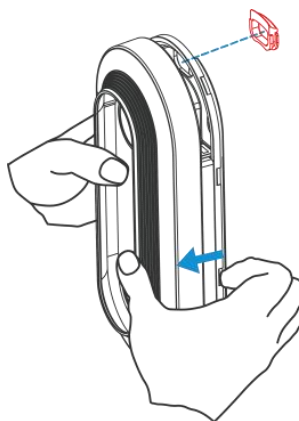
最適なステッチングを行うには、両方の視野の端付近にあるターゲットが、同時に完全に捕捉・検出できることを確認してください。

準備：

- 梱包明細書に基づき、機器と付属品がすべて揃っていることを確認してください。
- 撮影対象者にご連絡の上、画像収集への同意を得てください。また、オプトアウトの権利についてもご説明ください。
- オプションの付属品をご購入された場合は、動作手順について「ACCESSORIES」をご参照ください。

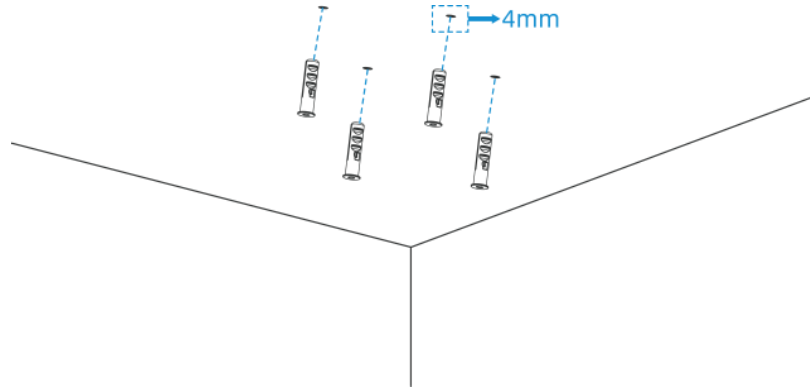
手順：

1. カバーを取り外してください：
 - a. 両手の親指を赤外線センサー部分に当ててください。
 - b. 残りの4本の指を外側カバーの縁に沿わせて対応してください。
 - c. 両手を使って、矢印の方向に押し、背面カバーを取り外してください。

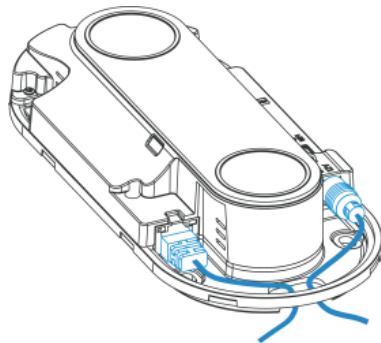


2. (任意) ケーブルを装置の側面から通す場合は、ゴム製プラグを取り外してください。
3. 拡張スリーブを取り付けてください。

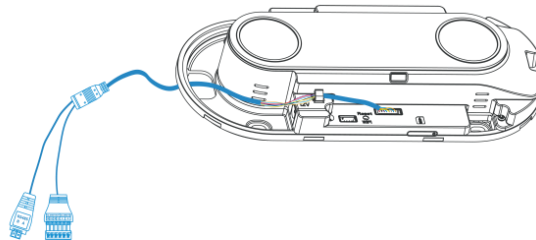
- a. マーカーペンまたはその他の適切な道具を使用して、本体の取り付け穴に合わせて天井に穴あけ位置を印付けしてください。
- b. 印をつけた位置に合わせて、天井に 4 mm の穴を 4 箇所開けてください。
- c. 天井の穴に拡張スリーブを挿入します。



4. (任意) ケーブルを天井を通して配線する場合は、希望の位置に印を付けて、アクセス用の穴を開けてください。
5. ケーブルを通し、デバイスに接続してください。

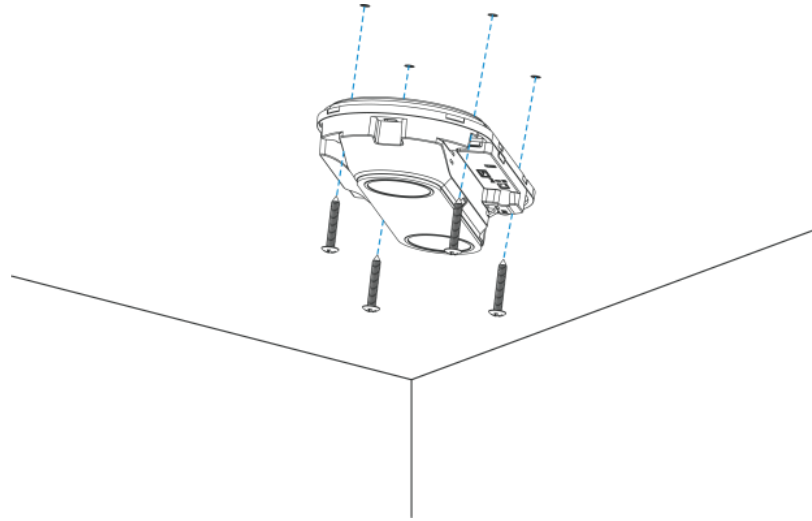


(オプション) アラームI/Oを使用するには、マルチインターフェースケーブルをデバイスに接続する必要があります。



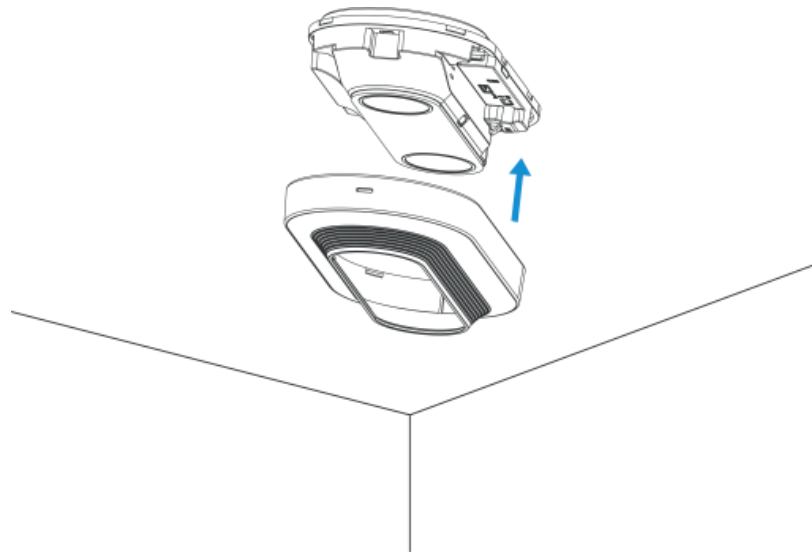
あります。

6. 取り付けネジを使用して、デバイスを天井に固定してください。



7. レンズの保護フィルムをはがしてください。

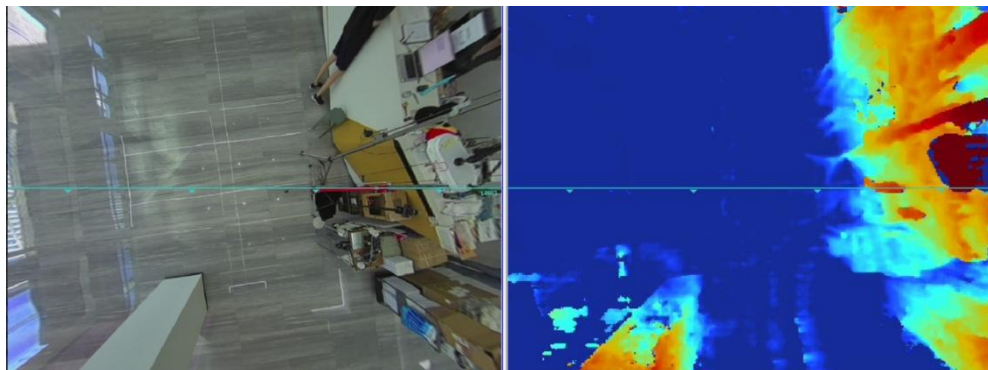
8. カバーをデバイスに取り付けてください。



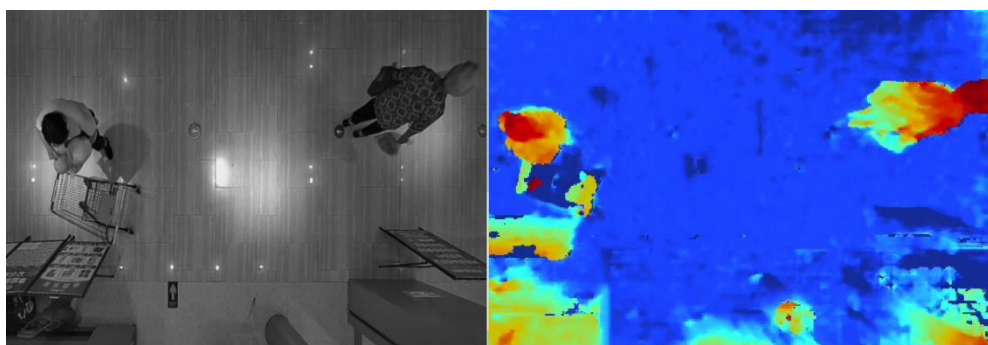
9. (オプション) 複数のデバイスを設置する場合は、手順1から8を繰り返してください。

10. [Web GUI](#) にログインし、[ダッシュボードページ](#)でプレビューを確認してください。

- 通常的环境における表示効果は以下の通りです。地面は水色または青色の斑点模様で描画されます。オブジェクトには高さに応じて色のグラデーションが適用され、背の高いオブジェクトほど赤みが強くなります。



- 通常のターゲットに対する表示効果は以下の通りです。検出されたターゲットに表示される鮮やかな色のグラデーションは、効果的な奥行き認識を示しています。



Troubleshooting :

ダッシュボードページのプレビューに異常が見られる場合は、「[Troubleshoot an Abnormal Preview after Installation](#)」を参照して、トラブルシューティングを行ってください。

11. (任意) 複数のデバイスを使用する場合、隣接するデバイスの両方の視野の端付近にあるターゲットが、同時に完全に捕捉され、検出されることを確認してください。

インストール後のプレビュー異常のトラブルシューティング

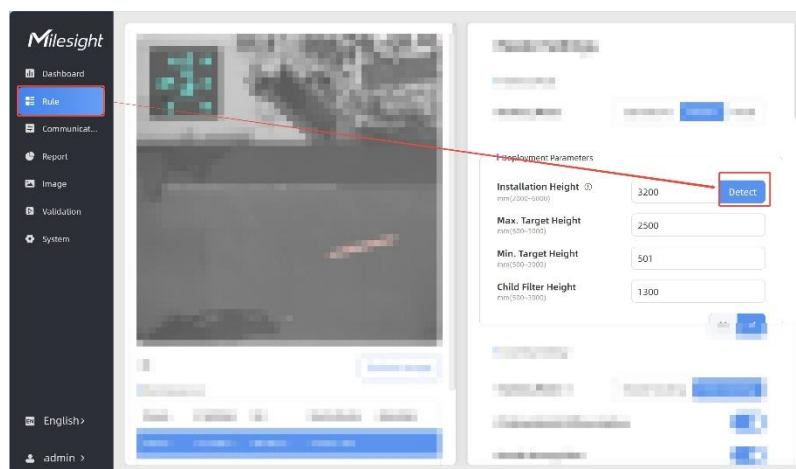
このセクションでは、デバイスの設置後にダッシュボードのプレビューに異常が生じた場合のトラブルシューティング方法について説明します。

手順 :

1. レンズ保護フィルムが剥がされていることを確認してください。
2. 本体が水平 ($\pm 10^\circ$ 以内) に設置されていることを確認してください。
3. 本装置に近すぎる、または視野を遮っている物体 (ペンダントライトやダウンライトなど) を特定し、取り除いてください。

4. Web GUI を使用して設置高さを調整してください。Web へのログイン方法については、「Access the Device」を参照してください。

- a. Web GUIの「Rule」ページで、「Detect」をクリックすると、自動的に検出された高さの値が使用されます。



- b. 「Dashboard」ページに切り替えてプレビューを確認し、必要に応じて以下の調整を行ってください：

- 深度マップが主に青色の場合 → 「Rule」ページに切り替えてください → 設置高さを50 mm ずつ増やしてください（推奨）。
- 深度マップが主に赤色になっている場合 → 「Rule」ページに切り替えてください → 設置高さを50mmずつ下げてみてください（推奨）。

5. 外見上の損傷が見られない場合でも、レンズがしっかりと固定されており、ハウジングに変形がないことを確認してください。

6. 問題が解決しない場合は、Milesightの営業担当者までご連絡ください。

第4章 Web設定

本デバイスはWeb経由で設定できます。このセクションでは、Web設定について説明します。

デバイスへのアクセス

本デバイスは、Wi-Fi またはイーサネット経由でアクセス可能な Web GUI を通じて設定できます。このセクションでは、これら 2 つの方法を使用してデバイスにアクセスする方法について説明します。

準備： コンピュータとネットワークケーブル

手順：

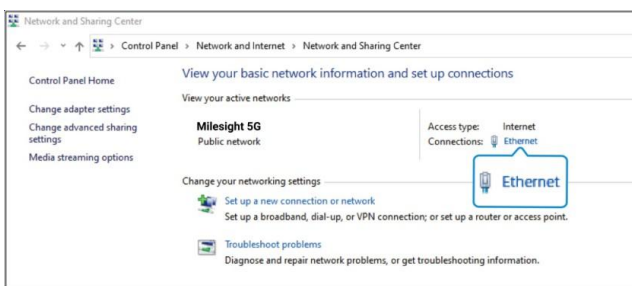
1. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

◦ ワイヤレスネットワーク経由でデバイスにアクセスする場合は：

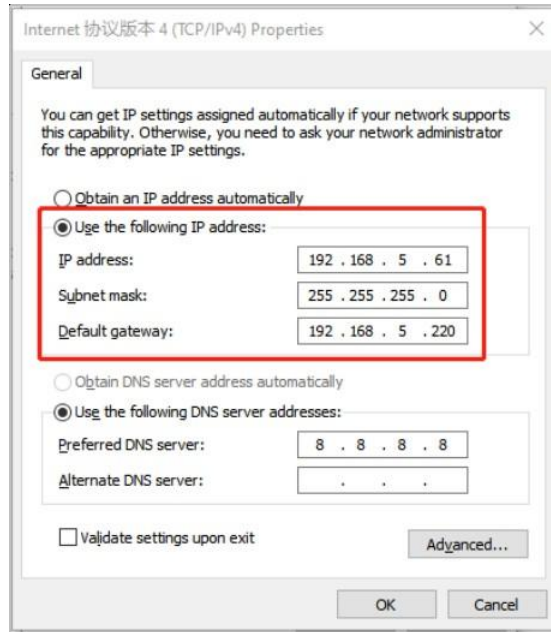
- a. コンピュータで無線ネットワーク接続を有効にしてください。
- b. デバイスのWi-Fi SSIDを検索し、コンピュータに接続してください。Wi-Fi SSIDは「People Counter_xxxxxx」という形式で、デバイスの物理ラベルに記載されています。
- c. ブラウザを開き、Wi-Fi IPアドレス「192.168.1.1」を入力してください。「Activation」ダイアログボックスが表示されます。

◦ イーサネットポート経由でデバイスにアクセスする場合：

- a. ネットワークケーブルを使用して、デバイスとコンピュータを接続してください。
- b. **[Start]** → **[Control Panel]** → **[Network and Internet]** → **[Network and Sharing Center]** をクリックします。



- c. **[Ethernet]** → **[Properties]** をクリックし、**[Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)]** をダブルクリックします。**[Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4) Properties]** ダイアログボックスが表示されます。



d. **[Use the following IP address]** をクリックします。

e. **[Use the following IP address]** エリアで、以下の動作を行ってください。

- i. デバイスと同じサブネットにある IP アドレス (192.168.5.61 など) を入力します。



注：

この IP アドレスは一意である必要があり、ネットワーク上の他のデバイスで使用されていない必要があります。


- ii. 「**Subnet Mask**」を **255.255.255.0** に設定します。

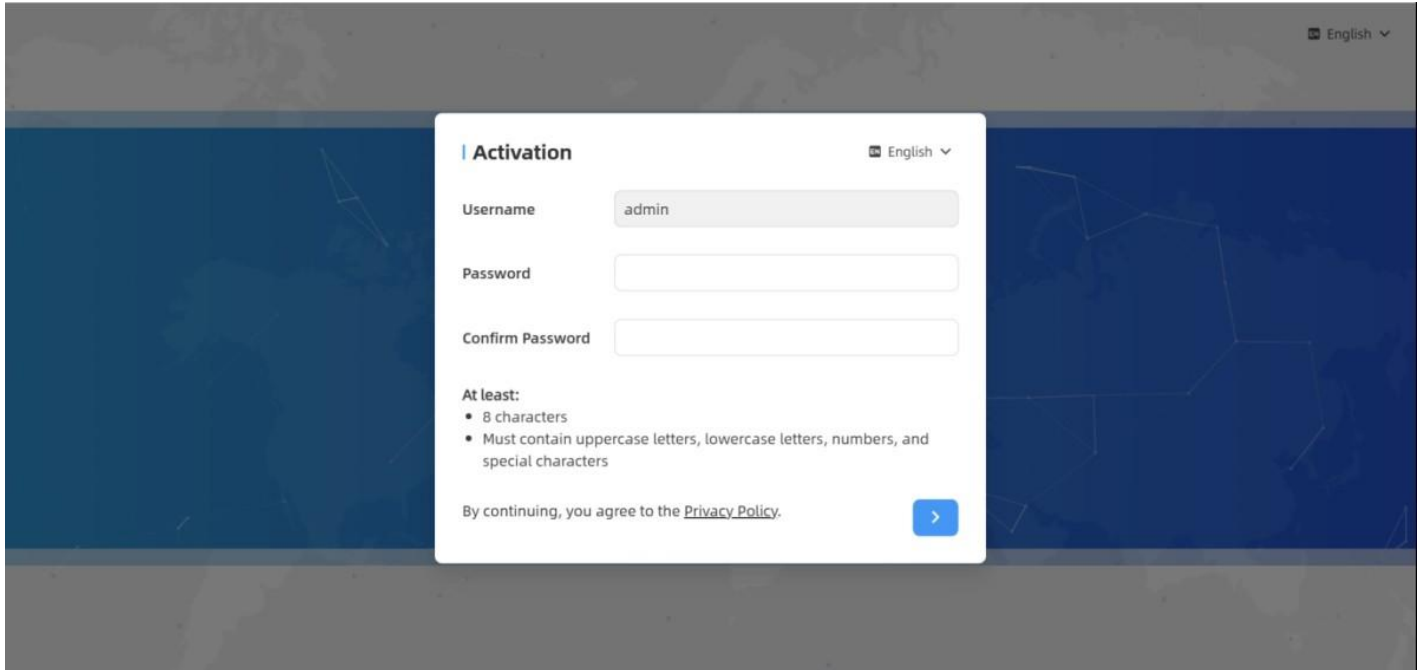
- iii. デフォルトゲートウェイを **192.168.5.220** に設定してください。

f. **[OK]** をクリックします。

g. ブラウザを開き、イーサネット IP アドレス **192.168.5.220** を入力します。

「**Activation**」ダイアログボックスが表示されます。

2. ログインパスワードを設定し、「」をクリックします。「**Set Security Questions**」ダイアログボックスが表示されます。



English

Activation

English

Username


Password

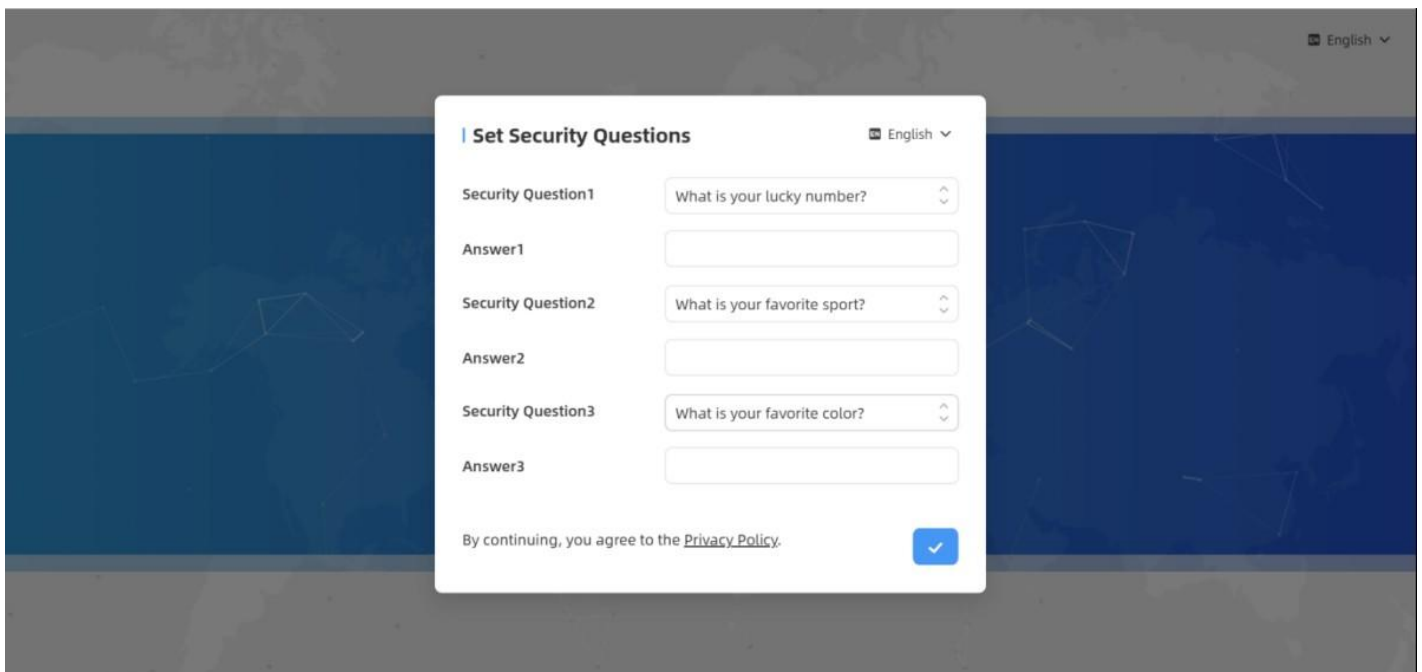
Confirm Password

At least:

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters

By continuing, you agree to the [Privacy Policy](#).

3. デバイスを初めて使用する場合は、3 つのセキュリティの質問を設定し、「」をクリックしてください。
[Privacy Settings] ダイアログボックスが表示されます。



English

Set Security Questions

English

Security Question1

Answer1

Security Question2

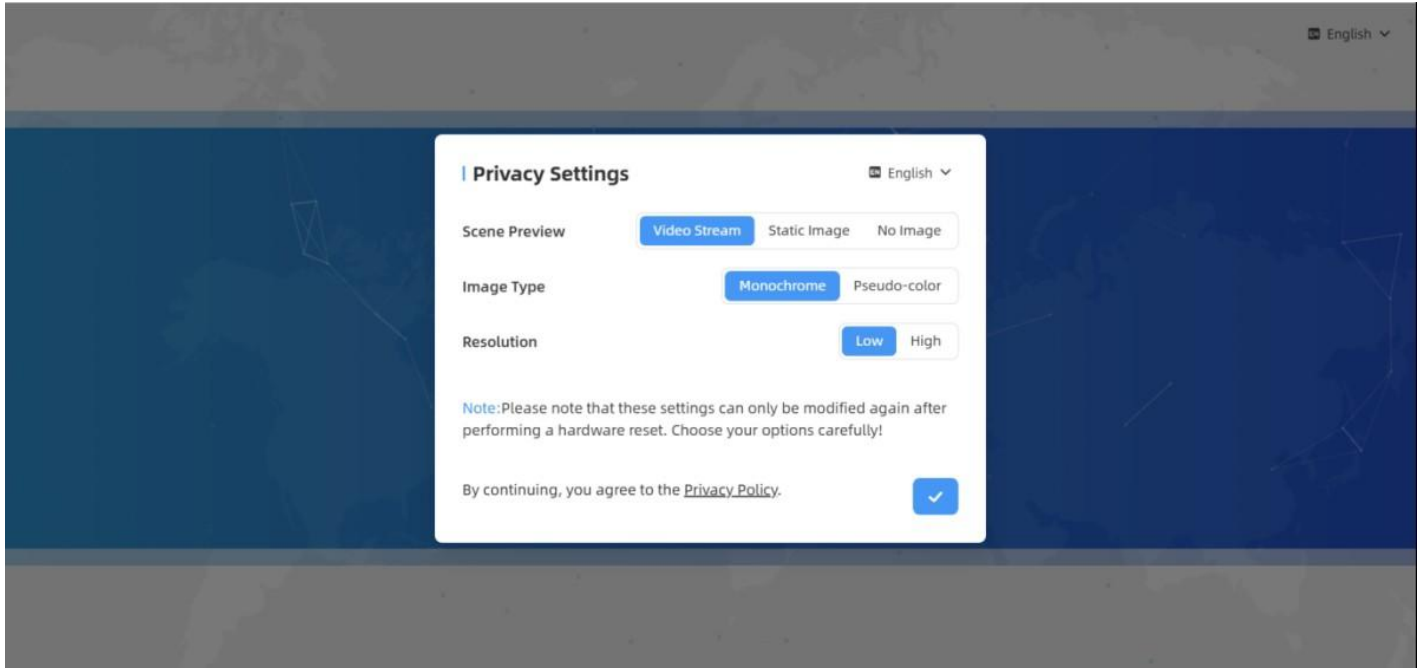
Answer2

Security Question3

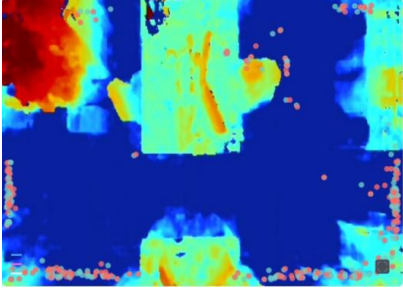

Answer3


By continuing, you agree to the [Privacy Policy](#).

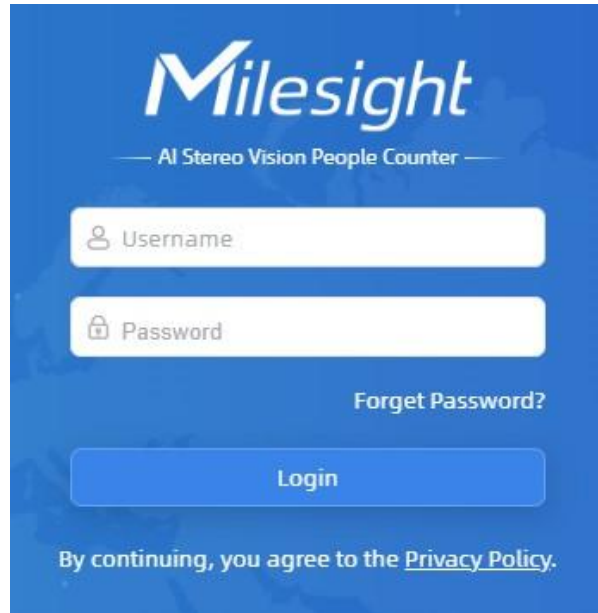
4. ダッシュボードにプレビュー画像を表示するには、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。今後モードを切り替えたい場合は、「**Privacy Settings**」へお進みください。



Parameters	説明
<p>Scene Preview</p>	<p>オプション : Video Stream、Static Image、No Image。</p> <ul style="list-style-type: none"> - VideoStream : カメラの視野のライブ映像プレビュー。 - StaticImage : シーンの静止画スナップショット。 - No Image : 画像は表示されません。
<p>Image Type</p>	<p>オプション : MonochromeまたはPseudo-color。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Monochrome : 画像をグレースケール（黒、白、グレー）で表示します。 

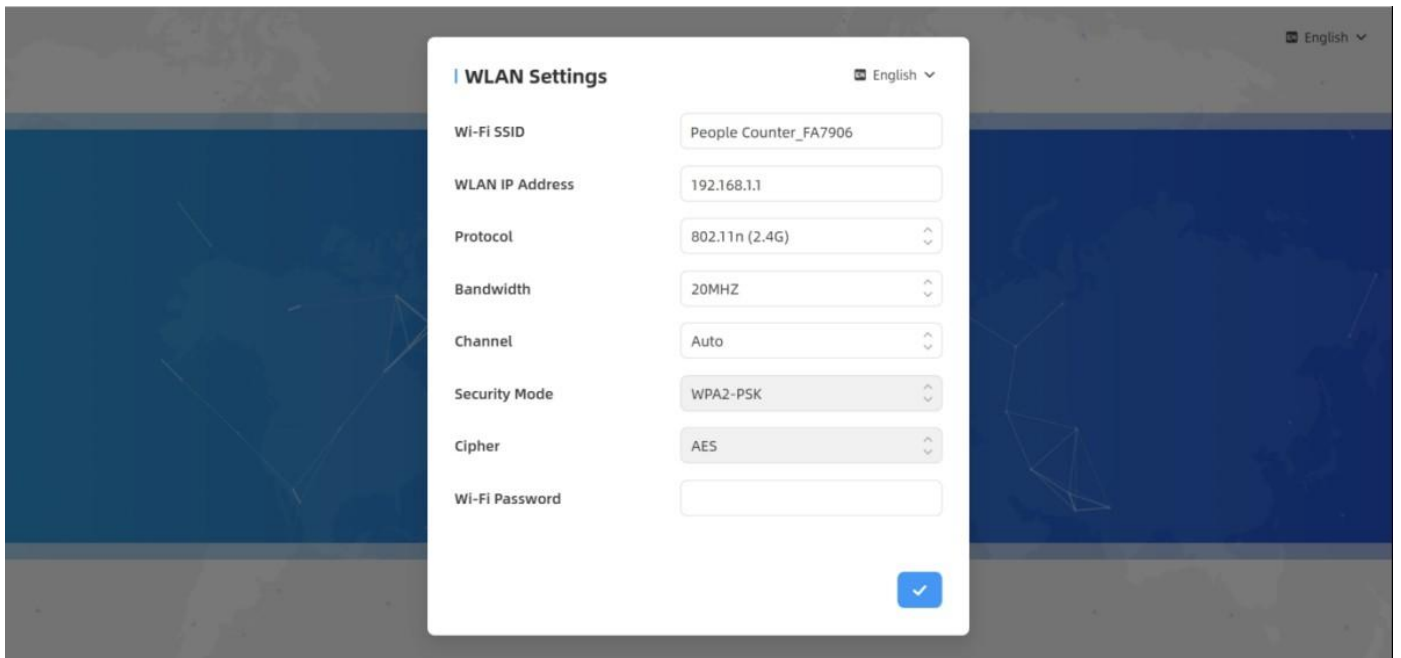
Parameters	説明
	<p>- Pseudo-color : グレースケールの濃淡を色域にマッピングすることで、画像の細部を強調します。</p> 
<p>Resolution</p>	<p> 注 : このパラメータの選択は、Monochrome画像タイプの場合にのみ必要です。</p> <p>オプション : Low、High。</p> <p>Low : 帯域幅をあまり使用しない低品質の画像を提供し、基本的なシーンの監視や動きの検出に適しています。</p> <p>High : 顔の特徴などの細部を識別するために必要な、高品質で鮮明な画像を提供します。</p>

5. [ をクリックして設定を保存します。次のページが表示されます。



The image shows the Milesight login interface. At the top, the Milesight logo is displayed in white on a blue background, with the tagline "AI Stereo Vision People Counter" below it. There are two input fields: "Username" and "Password". Below the password field is a link for "Forget Password?". A blue "Login" button is centered below the fields. At the bottom, a line of text states "By continuing, you agree to the [Privacy Policy](#)."

6. ユーザー名 (admin) とログインパスワードを入力してください。「WLAN Settings」ダイアログボックスが表示されます。
7. Wi-Fi パスワードを設定し、 をクリックして設定を保存します。



The image shows a "WLAN Settings" dialog box overlaid on a blurred background. The dialog box has a title bar with "WLAN Settings" and a language dropdown set to "English". The settings are as follows:

Setting	Value
Wi-Fi SSID	People Counter_FA7906
WLAN IP Address	192.168.1.1
Protocol	802.11n (2.4G)
Bandwidth	20MHZ
Channel	Auto
Security Mode	WPA2-PSK
Cipher	AES
Wi-Fi Password	

At the bottom right of the dialog box, there is a blue checkmark button to save the settings.



注：

1. ログインパスワードとWi-Fiパスワードは、8文字から63文字で、数字、小文字、大文字、および特殊文字を含んでいる必要があります。パスワードを5回間違えて入力すると、アカウントは10分間ロックされます。
2. デバイスのセキュリティを強化し、不正アクセスを防ぐため、ユーザーは定期的にパスワードを更新することをお勧めします。
3. 事前にセキュリティの質問を設定しておけば、パスワードを忘れた際にログインページの「**Forget Password?**」をクリックし、3つのセキュリティの質問に答えることでパスワードをリセットできます。

ダッシュボードを確認してください




基本的なカウント機能と高度なAI再コロニー化機能の両方を設定すると、本デバイスはダッシュボード、レポート、コマンドライン出力など、複数のデータ表示オプションを提供します。

ダッシュボードは、重要なデータを一元化されたリアルタイムのレイアウトで可視化し、一目で状況を確認できるようにします。このセクションでは、説明の例としてマスターデバイスのダッシュボードを取り上げます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックします。**Dashboard**ページが表示されます。
2. 必要に応じてデータを確認するか、動作を行ってください。**Dashboard**ページの説明については、以下の表をご参照ください。



NO.	項目	説明
1	Line, Region, Attention Region data display area	<p>Line Cross Counting、「Region Monitoring」、「View Directionの各機能が設定されると、この領域に、対応するライン、領域、および注視領域のデータが表示されます。</p> <p> Hide/Show Capacity : データカウントの合計能力を表示または非表示にします。</p> <p> DetectionIncluded/Excluded : 統計データに子供のデータを含めるか、除外するかを選択します。</p> <p> nIncluded/Excluded : 統計データにスタッフデータを含めるか、除外するかを選択します。</p>
2	Preview	リアルタイムのビデオ表示エリアです。
3	Reset Count	蓄積されたピープルカウンティング値をすべてクリアします。

NO.	項目	説明
4	Digital Output	「Manual DO」が有効になっている場合、これをクリックすると、マルチインターフェースを介してハイレベル信号が出力されます。
5	Edit Preview Layout	<p>「」をクリックします。「Edit Preview Layout」ダイアログボックスが表示されます。必要に応じて、プレビューに表示する項目を選択してください。ここに表示される項目は、有効になっている機能によって異なります。</p> <p>Real-timeTrackLine : プレビューにターゲットの追跡ラインを表示または非表示にします。</p> <p>StaticTrackLine : プレビューにターゲットの追跡ラインの履歴を表示または非表示にします。最大 1000 件の追跡履歴に対応しています。ページを更新すると、履歴はクリアされます。</p> <p>Visual Configuration</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Detection Line <input checked="" type="checkbox"/> U-turn Area <input checked="" type="checkbox"/> Detection Region <input checked="" type="checkbox"/> View Direction Related Region <p>AI Result</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Real-time Track Line <input checked="" type="checkbox"/> Static Track Line <input checked="" type="checkbox"/> View Direction <p>Other</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Track Start  / Stop  Points <div data-bbox="597 1115 1057 1402" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>Start Time</p> <p><input type="text" value="2026-02-24 12:01"/></p> <p>End Time</p> <p><input type="text" value="2026-02-27 02:10"/></p> <p><input type="checkbox"/> End at current time</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="x"/> <input checked="" type="button" value="✓"/></p> </div>
6	Multi-Device Frame	マルチデバイスプレビューに切り替えます。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。
7	Master Device Frame	マスターデバイスのプレビューに切り替わります。これは、デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。
8	Refresh Image	クリックすると画像が更新されます。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。
9	Stitched Devices Preview	すべてのステッチされたデバイスの位置を表示します。デバイスの動作モードが「Master」の場合にのみ表示されます。

ルールの設定

このセクションでは、「Rule」ページで基本的なカウント機能やAI認識機能を設定し、複数のデバイスをステッチする方法について説明します。

基本カウント機能の設定

デバイスを正常に動作させるためには、まず基本的なカウント機能を設定する必要があります。これには、展開パラメータ、デバイス戦略、ライン越えカウント、およびエリア監視の設定が含まれます。このセクションでは、それらの設定方法について説明します。

制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

以下のターゲットに関連する要因は、ピープルカウンティングの精度に影響を与える可能性があります。これらは制御不能な要因であり、事前に予測したり防止したりすることはできません。

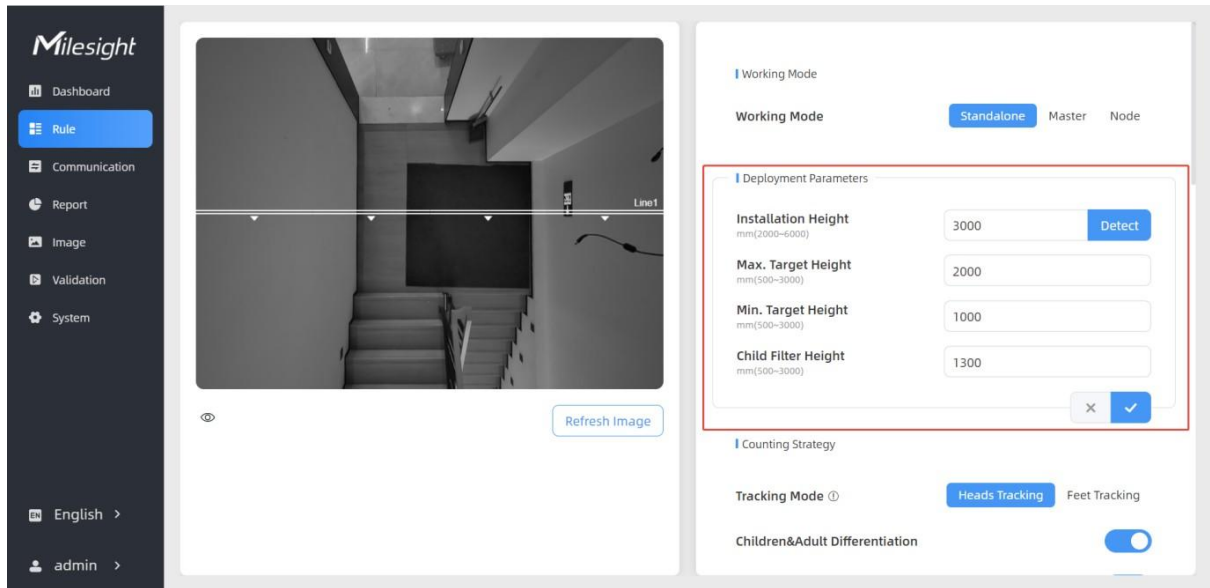
- **対象物の外観と特性：**
 - **色のコントラストが低い場合：**対象物と床の色が似ている場合、認識が困難になります。
 - **形状の類似性：**人間のようなシルエットを持つ非生物の物体が、誤検知を引き起こす可能性があります。
 - **背の低い対象の検知漏れ：**本装置を3.3～3.5メートルの高さに設置した場合、背の低い対象（子供など）の検知漏れが生じやすくなります。
- **対象物の動きと密度：**
 - **高速移動：**時速2.5メートルを超える速度で歩行している場合、追跡精度が低下する可能性があります。
 - **密集状態：**ターゲット間の距離が30 cm未満の場合、精度が低下します。
- **特定の状況：**
 - **部分的な遮蔽：**対象が他の物体に遮られる割合が大きくなるほど、検知漏れが発生するリスクが高まります。
 - **同時双方向通過：**2人が反対方向に、かつ至近距離で同時に検知ラインを通過した場合、両者ともカウント漏れとなる可能性があります。
 - **FOVの端におけるIDの継承：**FOVの端では、あるターゲットが消え、別のターゲットが現れることが同時に起こると、トラッキングIDの継承が生じる可能性があります。

デプロイメントパラメータの設定

このセクションでは、デプロイメントパラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。



2. 右側の「Deployment Parameters」領域で、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Installation Height	<p>デバイスの設置高さを手動または自動で設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高さを手動で設定する場合：1900～3500 mm の値を入力してください。 <p>注： 属性認識機能（性別認識、子供と大人の判別、スタッフ検知、視線方向検知）を最適に動作させるためには、設置高さは3.3メートルを超えてはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高さを自動的に設定するには：「Detect」をクリックして、現在の設置高さを検出してください。 <p>注： 地表のテクスチャが乏しい場合や、夜間などの低照度環境では、自動高さ検出の精度が低下する可能性があります。</p>
Max. Target Height	<p>最大ターゲット高さを設定します。この値より上で検出されたオブジェクトは、デバイスによって無視されます。範囲：500～3000 mm。</p>

Parameters	説明
Min. Target Height	最小ターゲット高さを設定します。この値より下で検出された対象物は、本装置によって無視されます。範囲：500～3000 mm。
Child Filter Height	このパラメータは、 Children&Adult Differentiation 機能が有効になっている場合にのみ表示されます。これは、小児の最大身長を設定するものです。範囲：500～3000 mm。設定の詳細については、「 Configure Children & Adult Differentiation 」を参照してください。

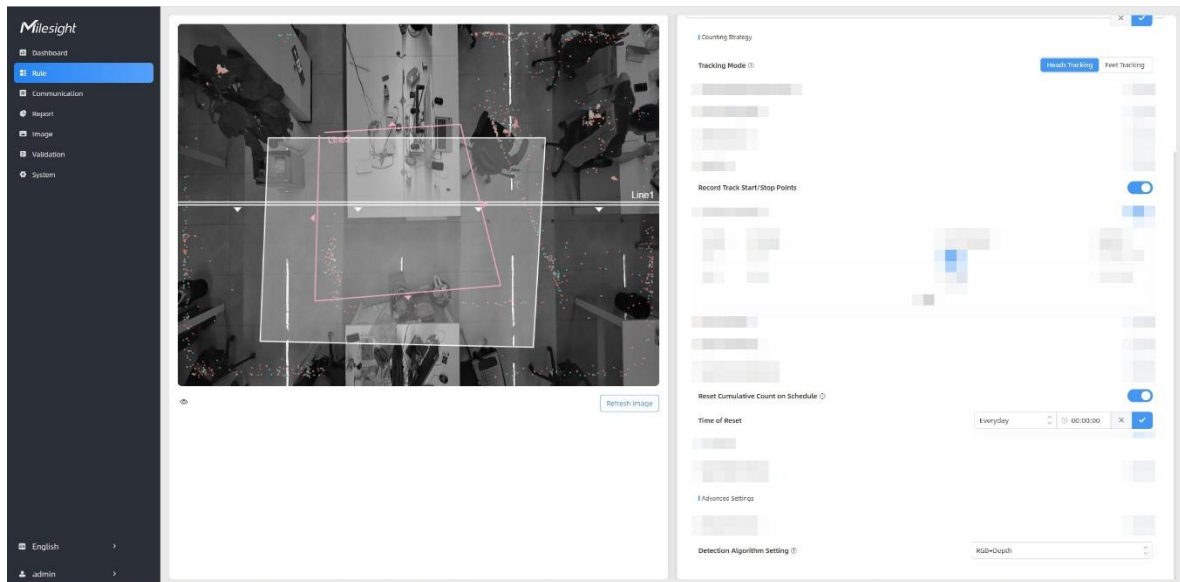
3. クリックして をクリックして設定を保存します。

デバイス戦略の設定

このセクションでは、**Working Mode, Tracking Mode, Record Track Start/Stop Points, Detection Algorithm Setting、Reset Cumulative Count on Schedule**を含む、デバイス戦略の設定方法について説明します。

手順：

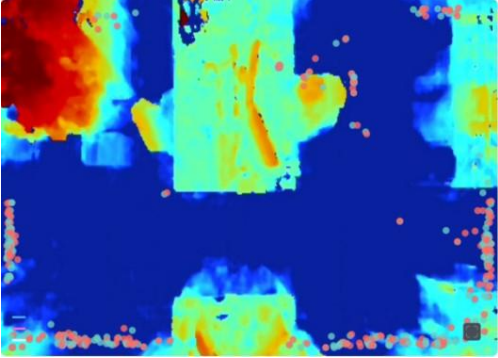
1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。



2. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Working Mode	オプション：Standalone、Master、Node。

Parameters	説明
	<ul style="list-style-type: none"> - Standalone : デバイスは独立して動作します。 - Master : マスターデバイスが、すべての機能設定、カウント、およびデータ送信を処理します。複数のデバイスを接続するには、この設定が必須です。詳細については、「Stitch Multiple Devices」を参照してください。 - Node : その主な機能は、検知範囲全体を拡大することです。複数のデバイスを結合するには、この設定が必須となります。詳細については、「Stitch Multiple Devices」をご参照ください。
Tracking Mode	<p>カウントの追跡モードを設定します。オプション : Heads Tracking と Feet Tracking。</p> <p>HeadsTracking : 視野 (FOV) 内でターゲットの頭部と肩を検知すると、デバイスはその移動経路に基づいて軌跡線を生成します。このモードは、ほとんどの検知シナリオに適用されます。</p> <p>Feet Tracking : 対象の両足が視野 (FOV) 内に検出された場合、デバイスはその移動経路に基づいて軌跡線を生成します。他の検出シナリオでは、ほとんど使用されません。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e0f2f1; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> 注 : マルチデバイススティッチング動作モードでは、足追跡モードのみが対応しています。</p> </div>
Detection Algorithm Setting	<p>具体的な利用シーンに合わせて、検出アルゴリズムを設定してください。</p> <p>RGB+Depth : ほとんどのシナリオに適しています。</p> <p>RGB : 高度な属性分析を可能にします。このモードは、多くの無生物が誤って人物と識別されてしまう環境において、誤検知を減らすために使用できます。例えば、持ち運ばれている物が誤って人物と識別されてしまうような倉庫の出入り口などが挙げられます。</p> <p>深度Depth : プライバシーが重視される環境に最適です。このモードは、</p>

Parameters	説明
	<p>人型静止物が高密度に存在する環境。マネキンや人形が置かれている人形店のような環境において、誤認識を効果的に最小限に抑えます。</p>
<p>Record Track Start/Stop Points</p>	<p>このパラメータを有効にすると、検出ラインの調整のために、ライブビュー上で人物の軌跡の開始点と終了点を記録できます。システムは最大5,000個の追跡ポイントを保存でき、緑色は開始点を、赤色は終了点を示します。</p> 
<p>Reset Cumulative Count on Schedule</p>	<p>a. このパラメータを有効にすると、設定されたスケジュールに従って累積カウントが定期的のリセットされます。最大5つのリセットスケジュールが対応されています。累積カウントには以下が含まれます：</p> <ul style="list-style-type: none"> - TotalIn/Outcountingofeach detectionline - Max./Avg. Dwell Time of each detectionregion - Total EffectiveAudienceandAvg.AttentionTimeof each attentionregionTimeof Reset <p>- 時間を設定し、「<input checked="" type="checkbox"/>」をクリックしてください。</p>

ライン横断カウントの設定

このセクションでは、ライン通過カウント機能の設定方法について説明します。

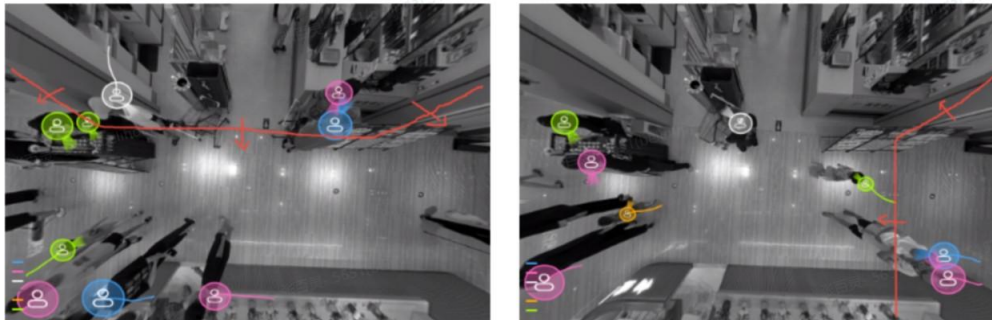
検知ラインの追加

このセクションでは、入退場者数をカウントするための検知ラインの描画方法について説明します。

検知ラインの描画要件：

検知精度を高めるためには、検知ラインは以下の要件を満たす必要があります：

- 対象物が完全に通過すること。
- 移動方向に対して垂直であること。
- 検知エリアの中央に配置されていること。
- 隣接する障害物がないこと。
- プレビュー画面の中心にできるだけ近い位置にあること。
- 両側に十分な識別スペースを確保してください。

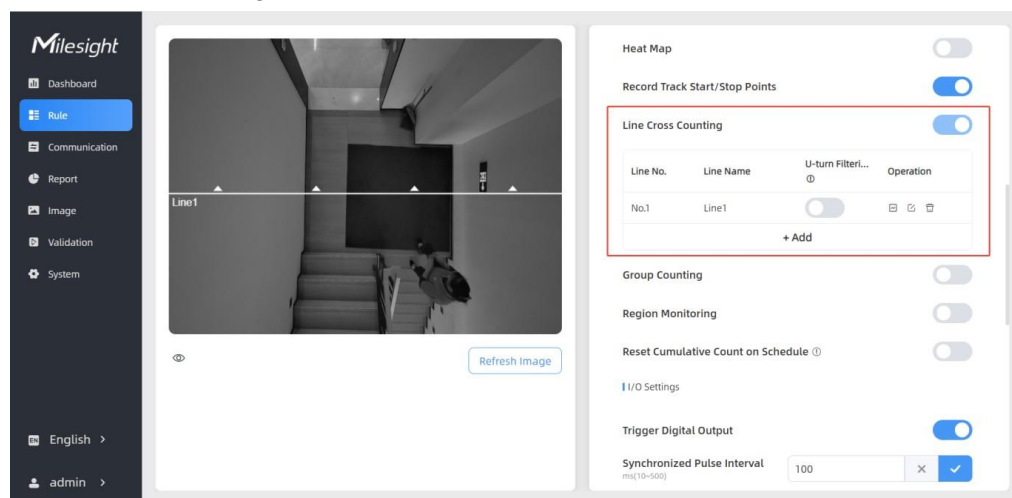


前提条件：

展開パラメータとデバイス戦略が設定されています。

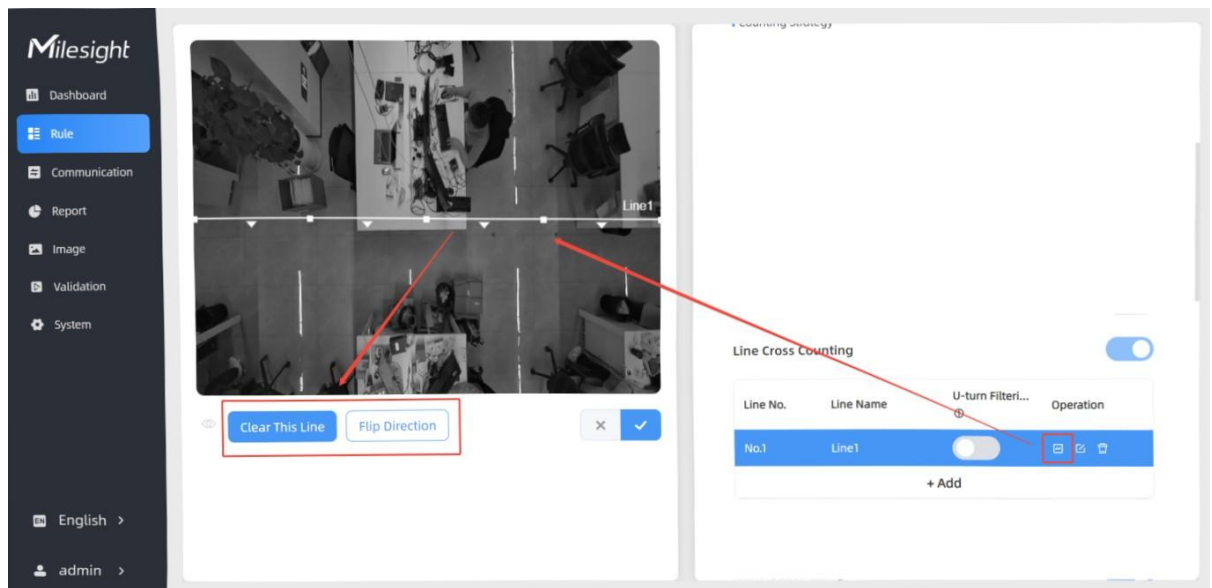
手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。
2. 右側の「Line Cross Counting」エリアで、「+Add」をクリックします。



3. プレビュー画面に検知ラインを描画します。最大4本のポリラインを描画でき、各ポリラインにつき最大9つの線分を含めることができます：

- a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。線分の中央にある矢印は、入力方向を示しています。
- b. 左クリックで頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
- c. 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画してください。
- d. 右クリックして終了します。
- e. (オプション) ドラッグして線の位置や長さを調整します。
- f. (任意) 線を再描画するには、「Clear This Line」をクリックしてください。
- g. (任意) 線の向きを反転させるには、「Flip Direction」をクリックしてください。



- h. [] をクリックして設定を保存します。

4. 線情報は、「Line Cross Counting」エリアに一覧表示されます。

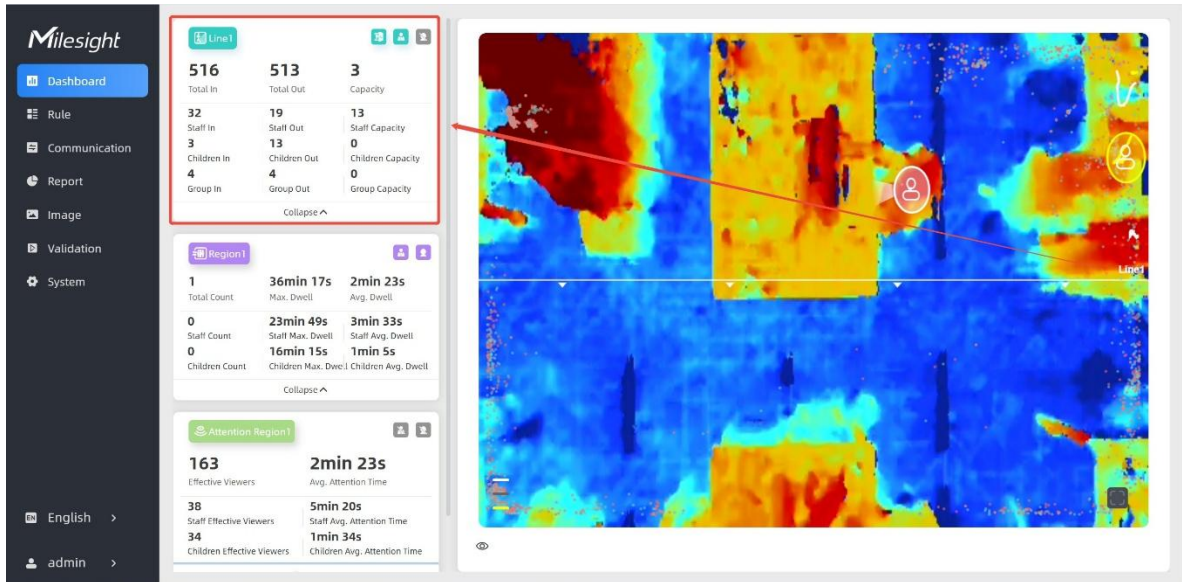
Line Cross Counting

Line No.	Line Name	U-turn Filtering	Operation
No.1	Line1	<input type="checkbox"/>	
No.2	Line2	<input type="checkbox"/>	

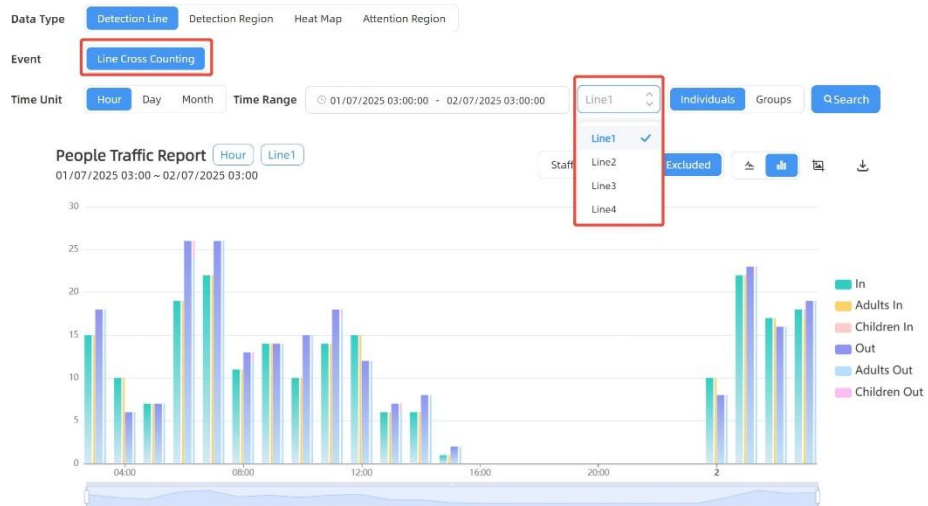
+ Add

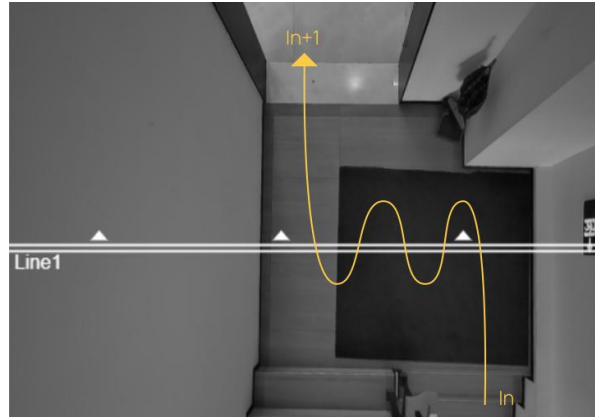
5. (オプション) をクリックして、ライン名をカスタマイズします。
6. (オプション) **U-turn Filtering**を有効にするには、 をクリックしてください。詳細な設定については、「Configure U-turn Filtering」を参照してください。
7. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから **[Dashboard]** をクリックしてください。



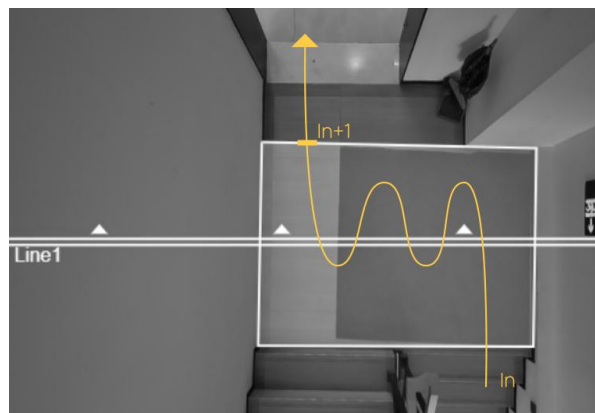
- 特定の期間のラインデータを表示し、レポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから **「Report」** をクリックしてください。詳細については、「**Generate Reports**」を参照してください。





- Uターンフィルタリングが有効で、検出ラインのUターンエリアが描画されている場合の集計例：

統計情報の適時性を重視する場合は、Uターンエリアを描画することができます。

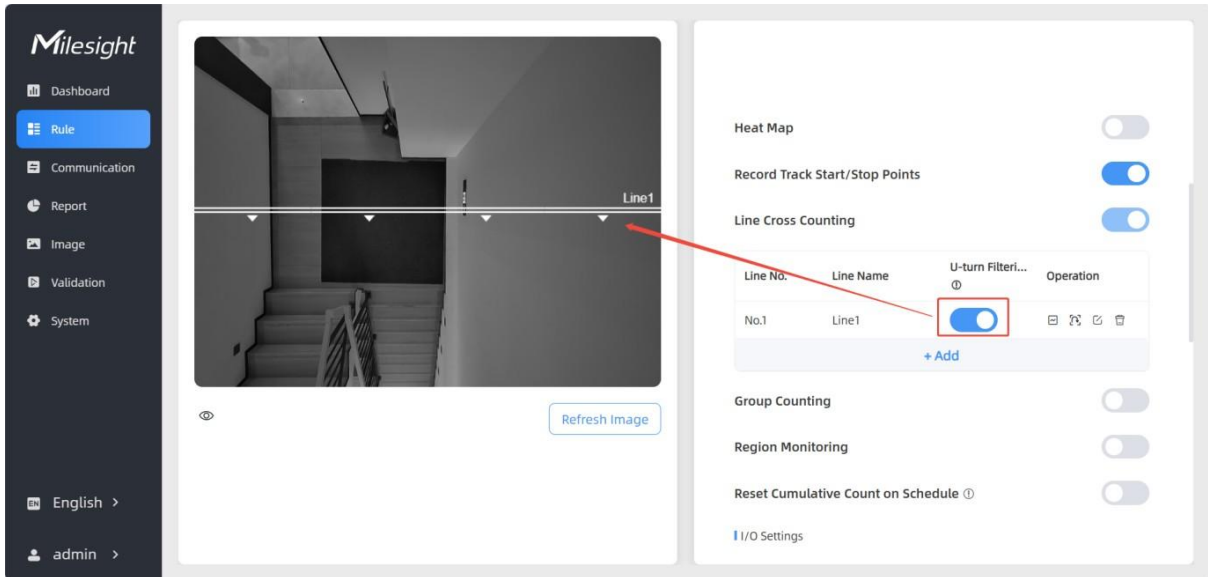




前提条件：

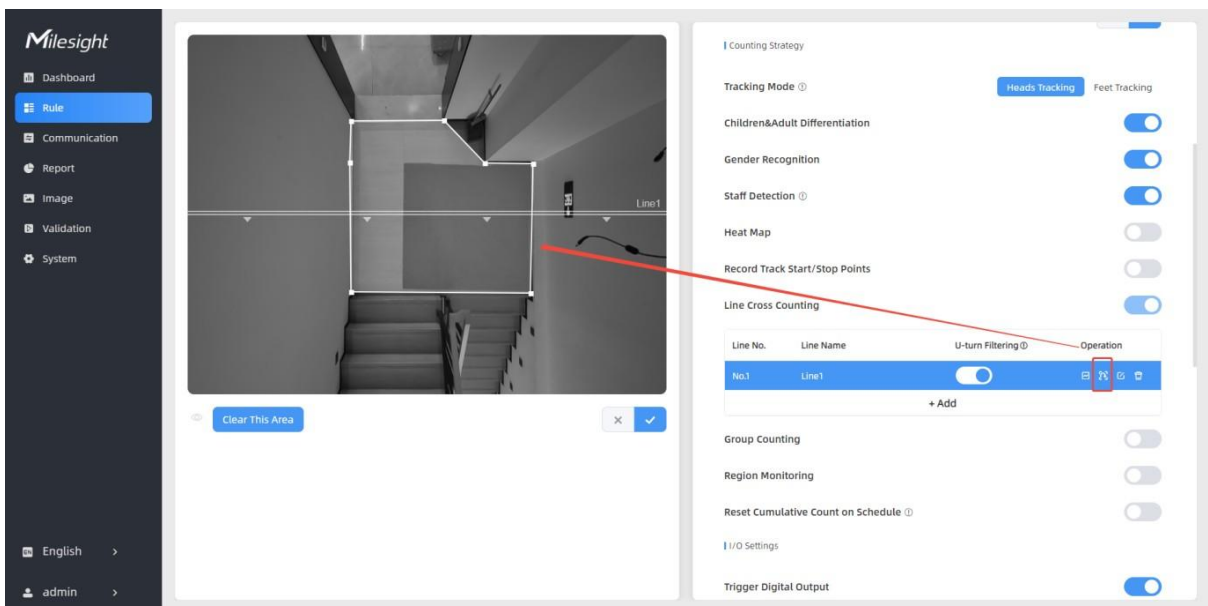
[Rule] ページの **[Line Cross Counting]** エリアに検知ラインが追加されていること。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックしてください。
2. 「Line Cross Counting」エリアで、「U-turn Filtering」を有効にし、重複したカウントを除外します。



3. をクリックして をクリックして、プレビュー内の検出ライン用にUターン領域を描画します。



4. (オプション) 検出ラインの U ターン領域を描画します。最大 4 つの領域を描画でき、各領域につき最大 10 個の線分を使用できます：

- 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
- 左クリックして頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
- 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画してください。
- 右クリックして完了します。
- (任意) ドラッグして領域を調整します。
- (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Area」をクリックします。

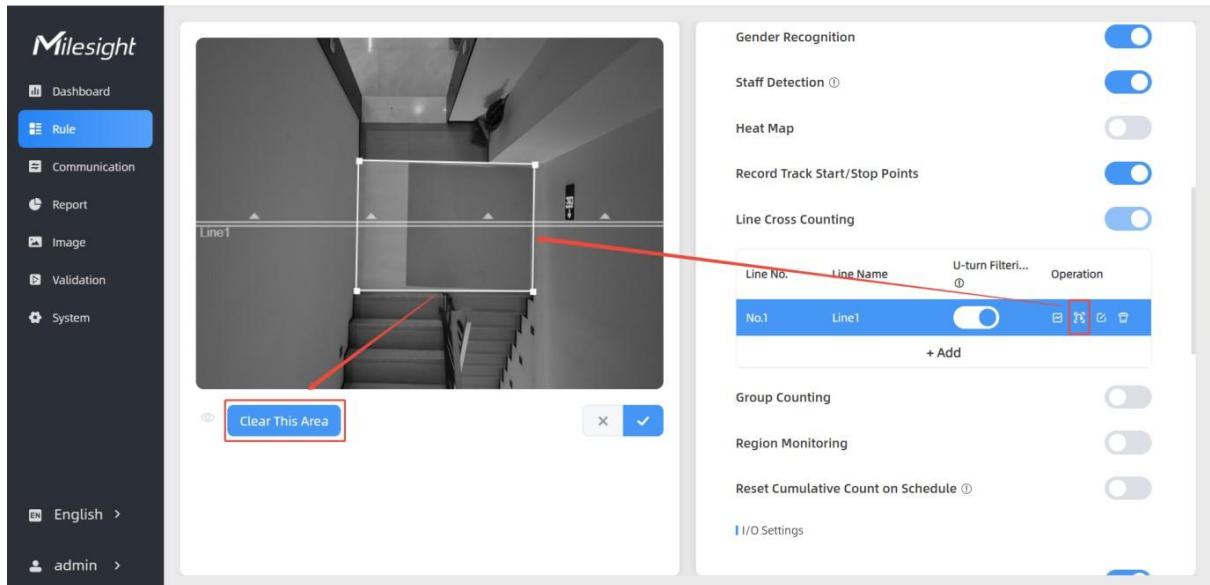
g. [✓] をクリックして をクリックして設定を保存します。



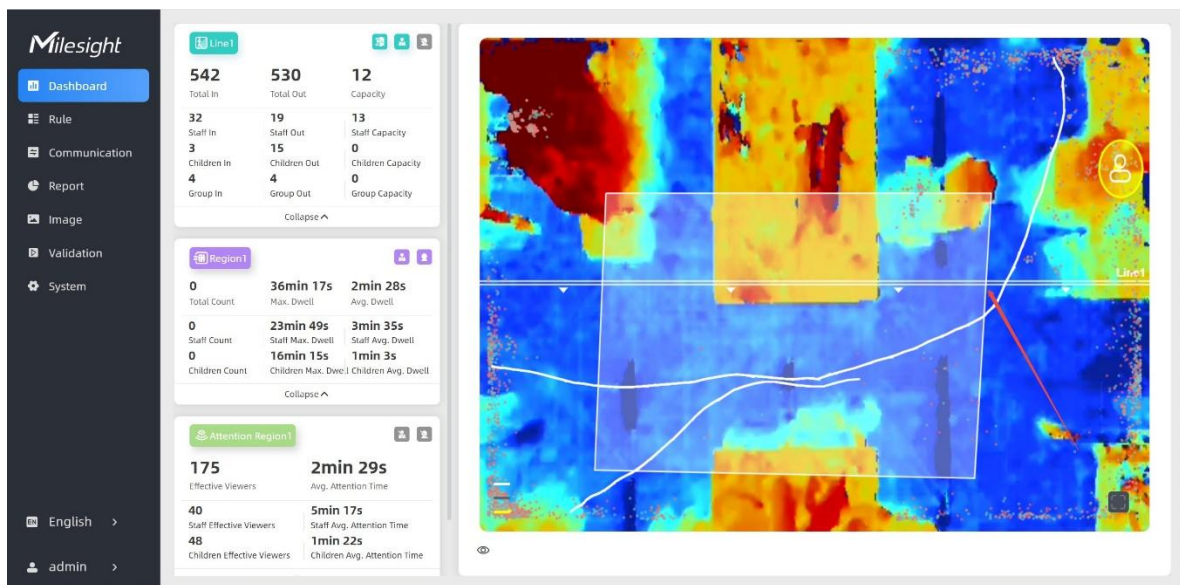
注：

移動経路が完全に含まれていることを確認してください。

5. (オプション) Uターンエリアを削除するには、 をクリックし、「Clear This Area」をクリックします。



6. 視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックします。



エリア監視の設定

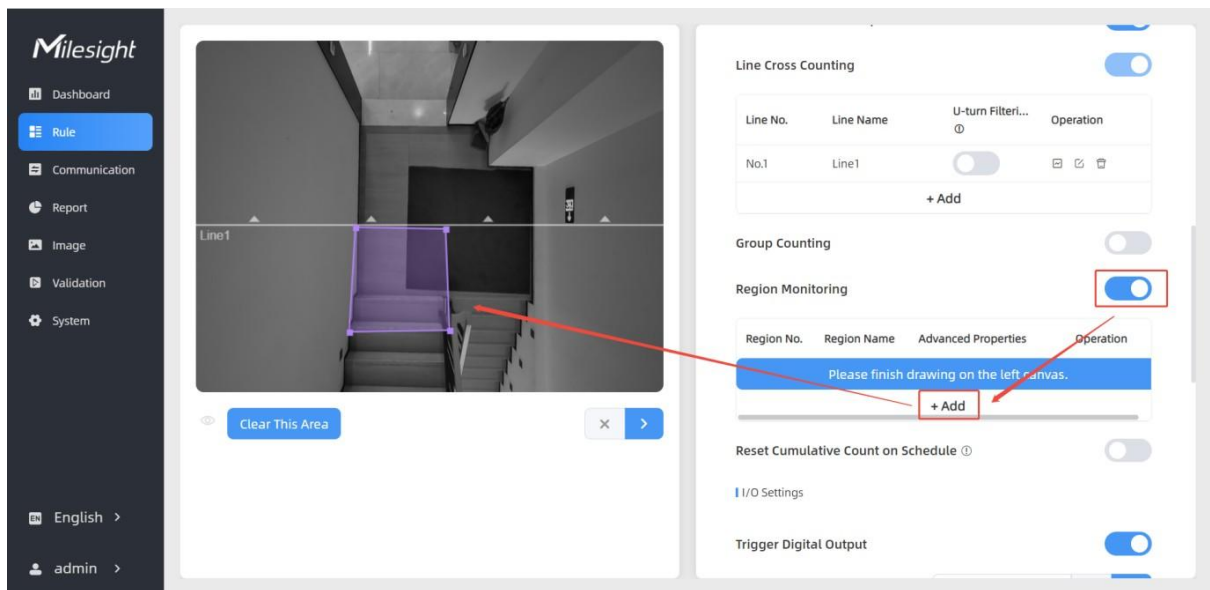
本デバイスは、設定されたエリア内の人数や滞在時間を追跡することでエリア監視に対応し、有益な分析データを生成します。このセクションでは、エリア監視の設定方法について説明します。

前提条件：

デプロイメントパラメータとデバイス戦略が設定済みであること。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。
2. 右側の「**Region Monitoring**」を有効にし、「**+Add**」をクリックします。



3. ライブビュー上で監視する領域を描画します。最大**4**つの領域を描画でき、各領域の最大サイズは以下の通りです：
 - a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
 - b. 左クリックして頂点を追加し、方向を変更してから、ドラッグして別の線分を描画します。
 - c. 必要に応じて、手順 **b** を繰り返して、さらに線分を描画します。
 - d. 右クリックして終了します。
 - e. (オプション) ドラッグして領域を調整します。
 - f. (オプション) 領域を再描画するには、「**Clear This Area**」をクリックします。
4. 「**>**」をクリックします。「**Advanced Properties**」ダイアログボックスが表示されます。

Advanced Properties

Zone Name

Region People Counting

Pass-by Filtering
s(0~3600)

Dwell Time Detection

Min. Dwell Time
s(0~3600)

5. 詳細プロパティのパラメータを設定します。
- a. [Zone name] エリアで、領域名をカスタマイズします。
 - b. 少なくとも 1 つの詳細プロパティを有効にしてください。オプション：「**Region People Counting**」および「**Dwell Time Detection**」です。
 - c. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。





If	Do
If Region People Counting is enabled	[Pass-by Filtering] テキスト ボックスに、必要に応じて値を入力してください。
If Dwell Time Detection is enabled	[Min. Dwell Time] テキストボックスに、必要に応じて値を入力してください。




- d. をクリックして設定を保存します。領域情報が右側のリストに表示されます。

Region Monitoring

No.	Region Name	Advanced Properties	Operation
No.1	Region1	Region People Counting(5s)	✎ ✏ 🗑
+ Add			

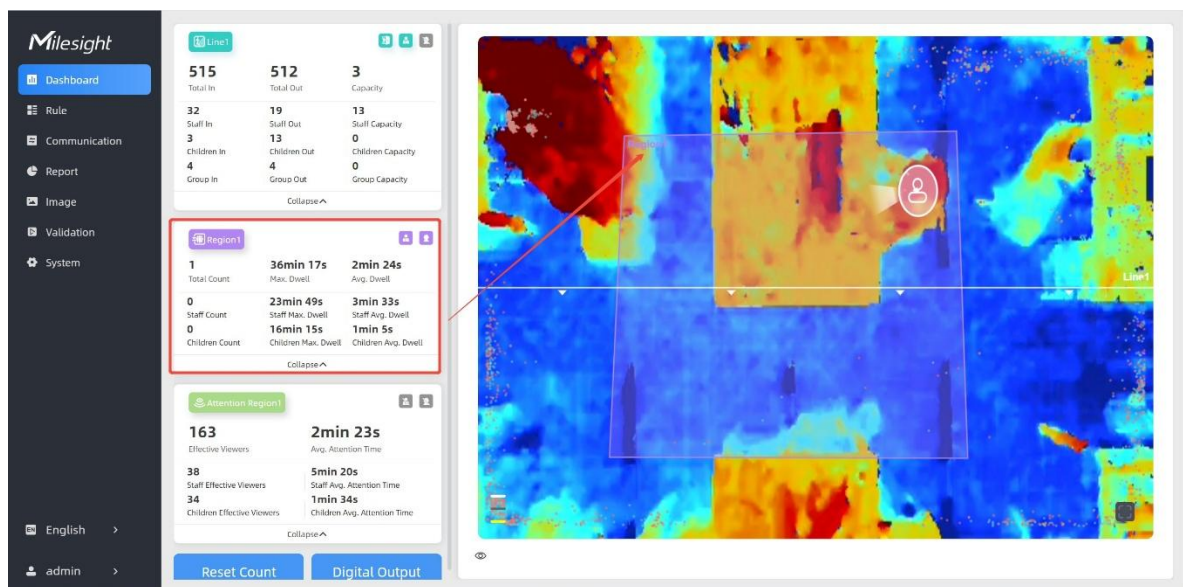
6. (オプション) 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

- 領域を再描画するには、 をクリックしてください。
- 領域の詳細設定を変更するには、**[Advanced Settings]**をクリッしてください  をクリックしてください。
- 領域を削除するには、**[]**をクリックしてください  をクリックしてください。

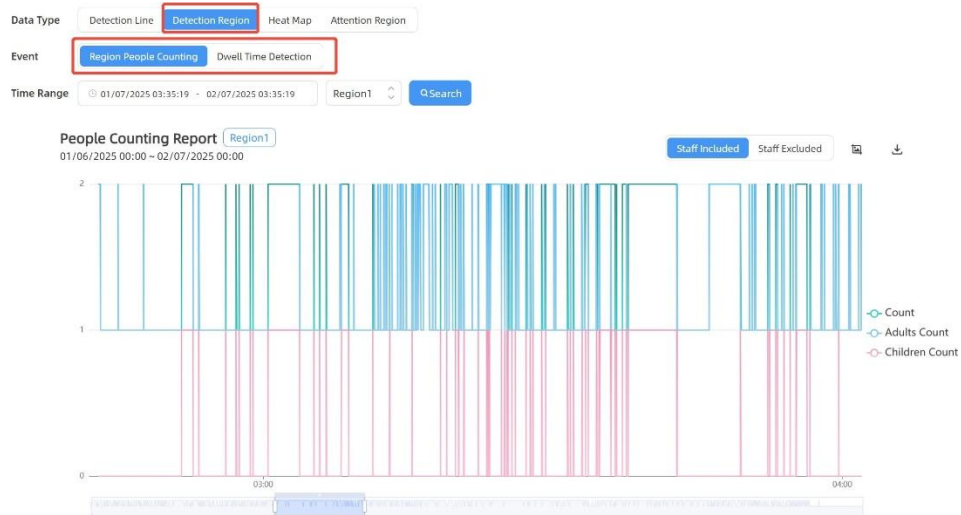
Region Monitoring [Toggle]			
No.	Region Name	Advanced Properties	Operation
No.1	Region1	Region People Counting(5s)	  
+ Add			

7. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 特定の期間の地域データを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「Generate Reports」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。「region_data」については、「[Uplink Data Example for Periodic Reporting](#)」を参照してください。「region_trigger_data」については、「[Uplink Data Examples for Real-Time Reporting](#)」を参照してください。

```

"region_data": {
  "dwell_time_data": [{
    "avg_dwell_time": 308367,
    "children_avg_dwell_time": 0,
    "children_max_dwell_time": 0,
    "female_avg_dwell_time": 0,
    "female_max_dwell_time": 519934,
    "male_avg_dwell_time": 0,
    "male_max_dwell_time": 96799,
    "max_dwell_time": 519934,
    "staff_max_dwell_time": 1522,
    "staff_avg_dwell_time": 1522,
    "region": 1,
    "region_name": "Region1",
    "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
  }
],
  "region_count_data": [{
    "total": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "children": {
      "current_female": 0,

```

```

"region_trigger_data":
{
  "region_count_data":
[
  {
    "total": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "children": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "staff": {
      "current_female": 0,
      "current_male": 1,
      "current_total": 2
    },
    "region": 1,
    "region_name": "Region1",
    "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
  }
]
}

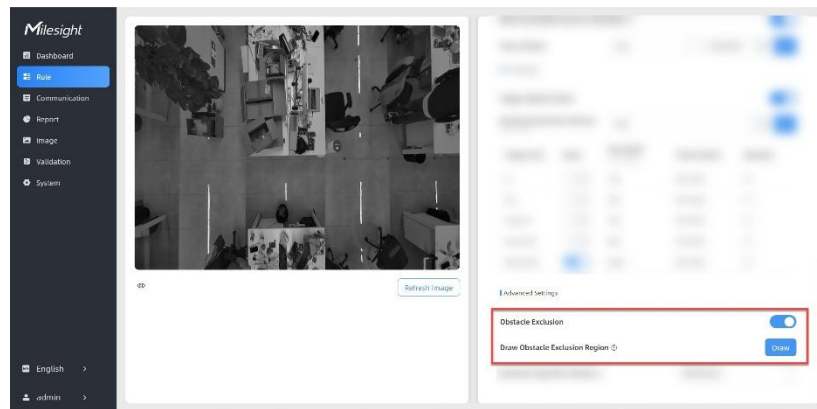
```

障害物除外機能の設定

本デバイスは**Obstacle Exclusion**障害物除外機能に対応しています。検知ラインや検知領域の調整によって回避できない、人間のような静止障害物を検知対象から除外することができます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[Rule]** をクリックします。
2. 右下の「Advanced Settings」エリアで、「Obstacle Exclusion」を有効にし、「Draw」をクリックします。



3. 障害物除外領域を描画します。最大4つの領域を描画でき、各領域につき最大10個のセグメントを設定できます：

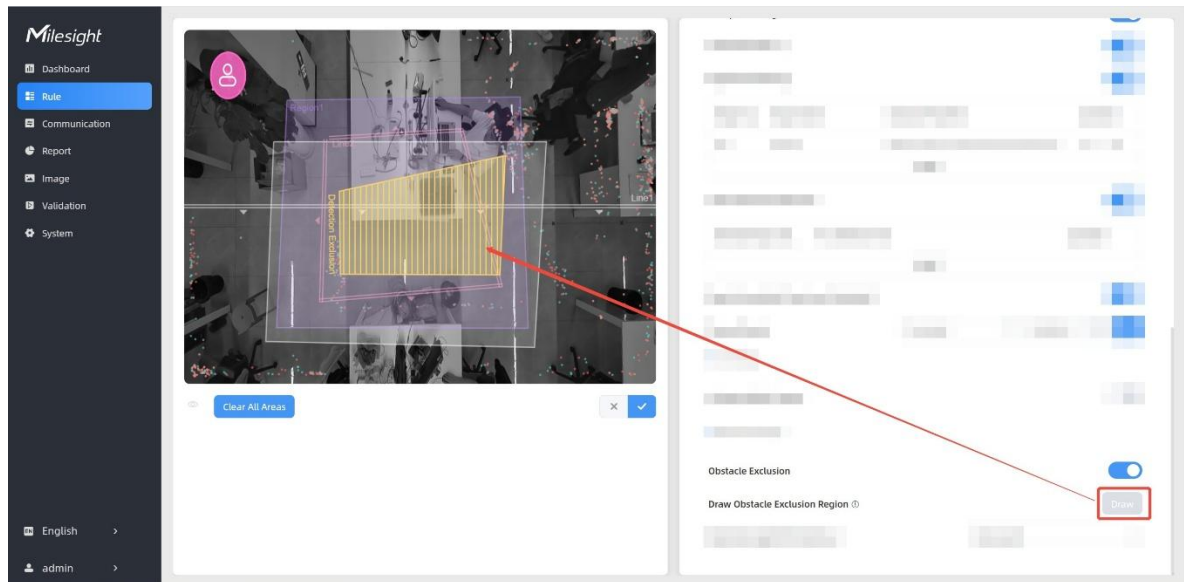
- a. 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
- b. 左クリックして頂点を追加し、方向を変更して、ドラッグして別の線分を描画します。
- c. 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画してください。
- d. 右クリックして完了します。
- e. (任意) ドラッグして領域を調整します。
- f. (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Area」をクリックします。
- g. 除外方法を選択してください：

- **Detection Exclusion** : このエリアを検知したくない場合は、こちらを選択してください。障害物の最も高い部分を描画するだけで結構です。本機はこの最も高い部分を基準として、この特定のエリアを自動的に除外します。

例えば、棚を撮影する場合、棚の上端を枠で囲むだけで、棚が誤って人物として検出されるのを防ぐことができます。

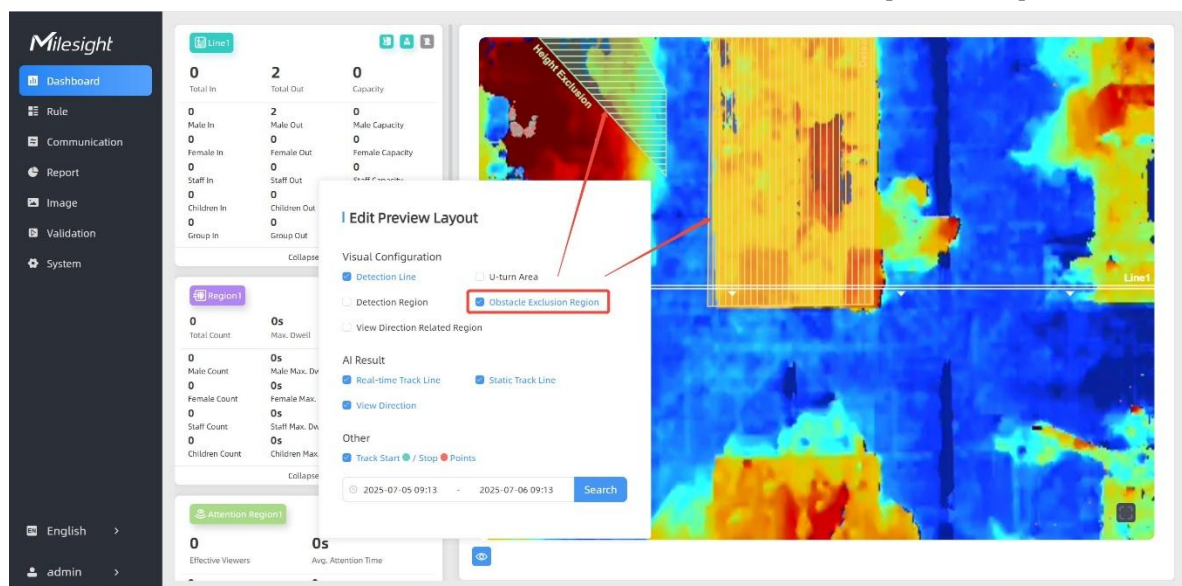
- 「Height Exclusion」：障害物とターゲットが混在することで誤検出が発生するのを防ぎたい場合に選択してください。ターゲットと混同しやすい部分を囲んで除外することができます。

例えば、ゲートを通るシーンでは、誤分類を防ぐためにゲートの構造を輪郭で囲むことができます。これにより、たとえ子供のシルエットがゲートの構造と重なってしまっても、通過する子供が大人として識別されることを防ぐことができます。



4. [Save]をクリックして をクリックして設定を保存します。

5. 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから [Dashboard] をクリックしてくださ



い。

属性認識機能の設定

本デバイスはAI認識機能を活用し、さまざまな対象物の属性をインテリジェントに判別します。これらの機能をご利用になる前に、「Configure Basic Counting Functions」のセクションに従って、基本カウント機能をあらかじめ設定しておく必要があります。

「Children & Adult Differentiation」の設定

本装置は、子供フィルターの閾値を下回る個人を子供として分類します。このセクションでは、子供と大人の判別機能の設定方法について説明します。

制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

以下の子供に関連する状況では、カウント数が過少になる可能性があり、本機能の検出精度に影響を与える場合があります：

- 身長1.1 m未満の子供
- ベビーカーやショッピングカートに乗っている子供
- 抱っこされている子供
- 大人によって視界が遮られている子供

該当設置高さ：1.9～3.3 m

手順：

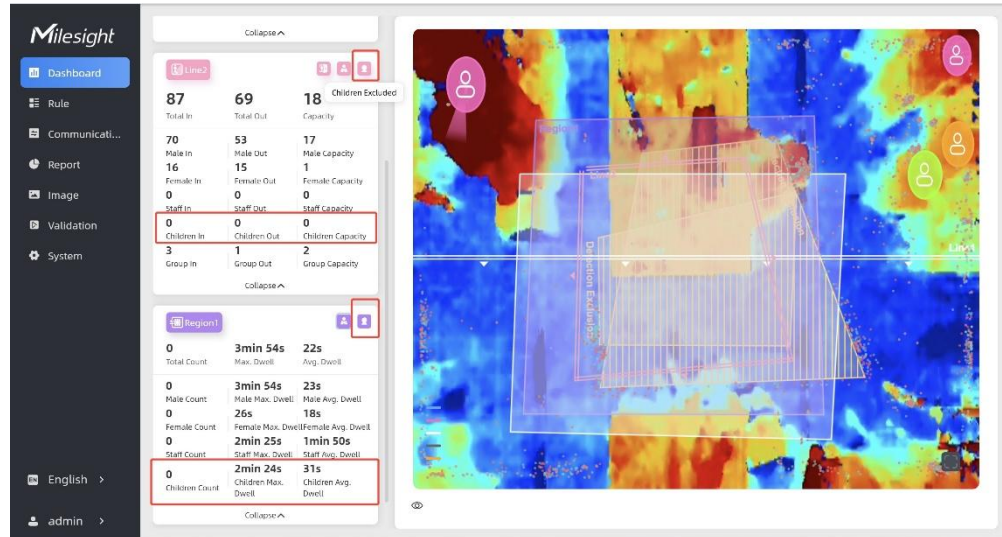
1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Children & Adult Differentiation」を有効にします。「Child Filter Height」パラメータが「Deployment Parameters」エリアに「Child Filter Height」パラメータが表示されます。

The screenshot shows the 'Deployment Parameters' section of a web interface. It contains several input fields for height-related parameters:

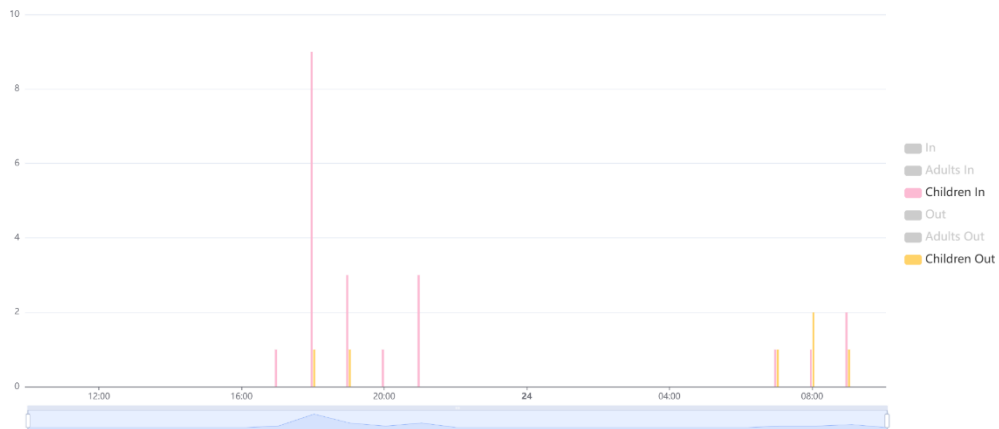
- Installation Height** (mm(2000-6000)): 2459
- Max. Target Height** (mm(500-3000)): 1998
- Min. Target Height** (mm(500-3000)): 1000
- Child Filter Height** (mm(500-3000)): 1500 (highlighted with a red box and a red arrow)

Below these fields is the 'Counting Strategy' section, which includes a 'Tracking Mode' dropdown set to 'Heads Tracking' and a 'Children&Adult Differentiation' toggle switch that is turned on (highlighted with a red box).

3. 「**Child Filter Height**」テキストボックスに閾値を入力し、「」をクリックして設定を保存します。デバイスは、この値未満で検出された個人をすべて子供として分類します。
4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：
 - 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「**Dashboard**」をクリックしてください。



- 特定の期間の子データを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから「**Report**」をクリックしてください。詳細については、「**Generate Reports**」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「[Uplink Data Example for Periodic Reporting](#)」および「[Uplink Data Examples for Real-Time Reporting](#)」を参照してください。

性別認識の設定

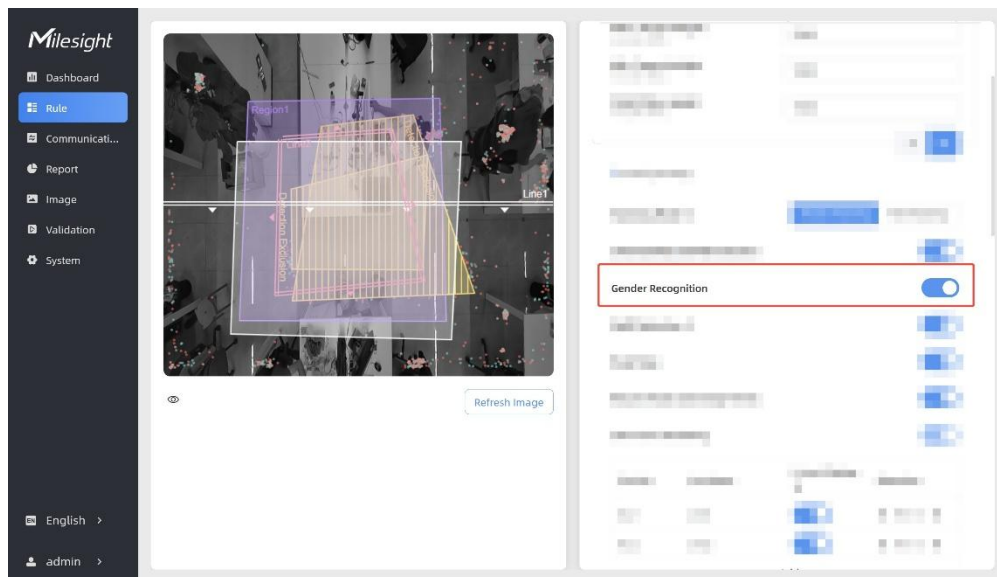
本デバイスは性別認識機能に対応しており、外見や服装のスタイルに基づいて、その人物が男性か女性かを判別することができます。このセクションでは、**Gender Recognition**性別認識機能の設定方法について説明します。

制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

- 標的となる人物の髪型は、一般的な性別のイメージとは対照的です（例：男性の長い髪、女性の短い髪など）。
- 被験者の髪や服の色は、床の色に近いものです。
- 対象者は、大きな覆いとなるアクセサリ（例：ヘッドスカーフなど）を身につけています。
- 通過速度が2.5 m/sを超えると、検知し損ねる可能性があります。

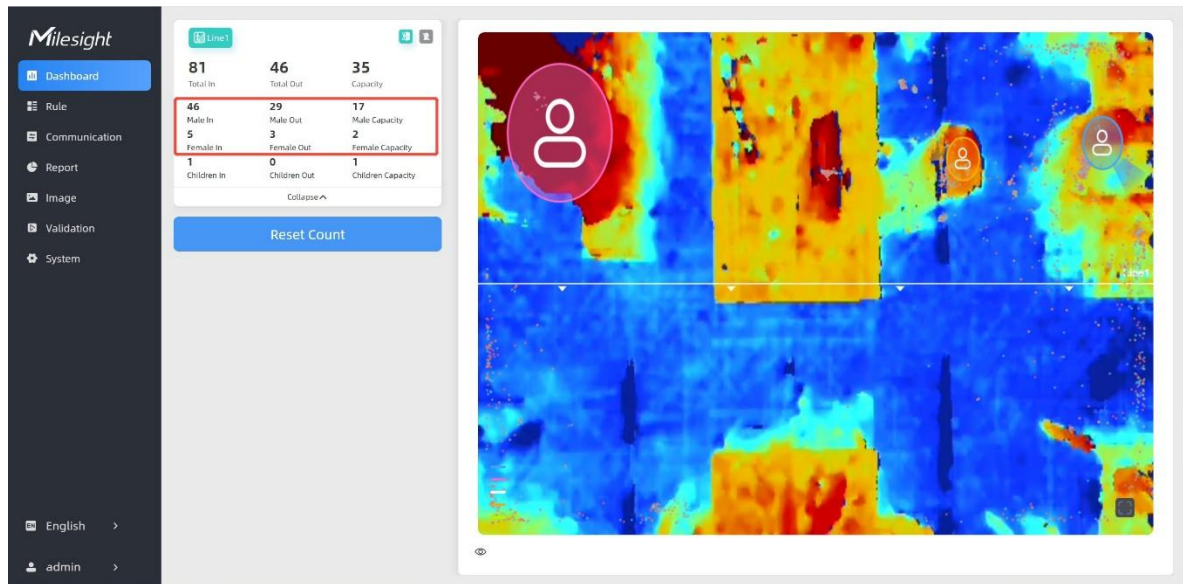
該当設置高さ：1.9～3.3 m**手順：**

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。

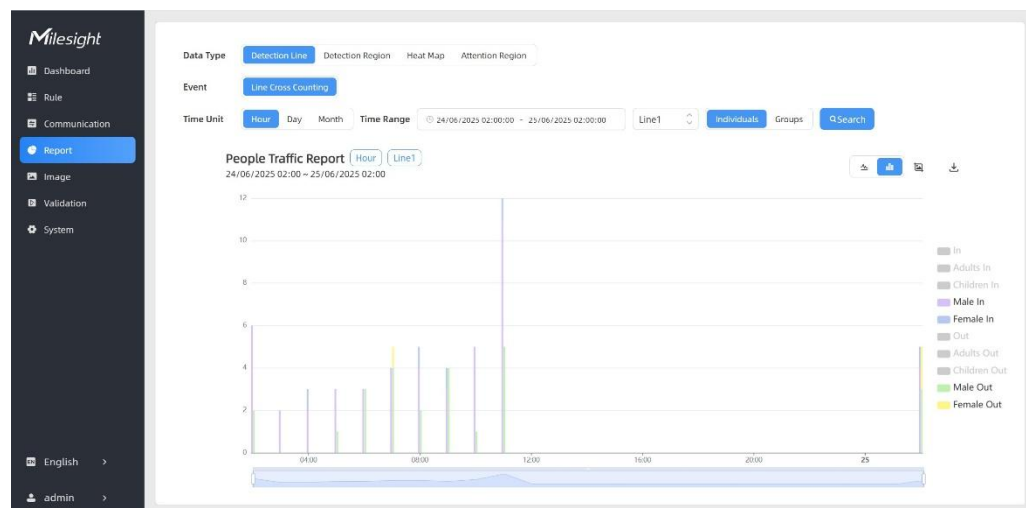


2. 「Gender Recognition」を有効にします。
3. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 特定の期間における性別別のデータを表示し、対応するレポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。詳細については、「Generate Reports」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「Uplink Data Example for Periodic Reporting」および「Uplink Data Examples for Real-Time Reporting」を参照してください。

スタッフ検出の設定

本デバイスは、指定されたアクセサリを装着している要員を識別することで、スタッフ検出に対応しています。このセクションでは、スタッフ検出機能の設定方法について説明します。

制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

- 2人が並んで歩いている場合、この装置は、スタッフ用のアクセサリーを身につけていない人を誤ってスタッフと判定し、一方でアクセサリーを身につけている実際のスタッフを認識できないことがあります。
- スタッフのストラップに似た模様（縞模様など）のある衣類は、誤検知の原因となる可能性があります。
- 通過速度が2.5 m/sを超えると、検知漏れが発生する可能性があります。

スタッフのアクセサリーに関する要件：

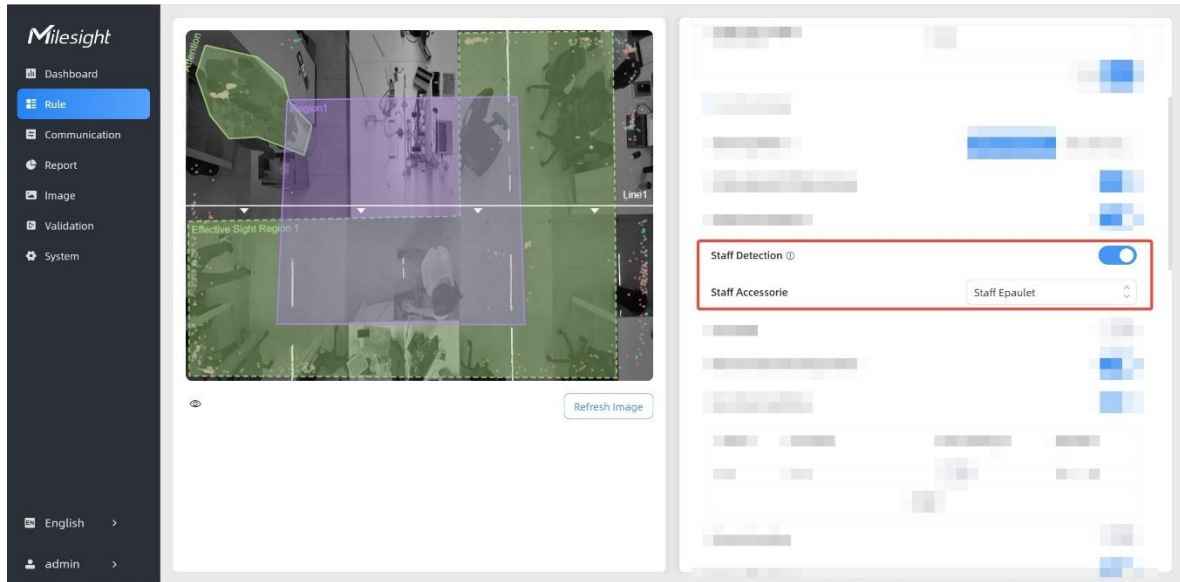
スタッフ用アクセサリーに関する詳細な要件については、以下の表をご参照ください。

Item	要件
Accessory selection	Milesightが提供するスタッフ用アクセサリーの使用をお勧めします。 スタッフ用アクセサリーは、黒と赤の2色をご用意しております。暗い色のスタッフ制服に対して最適な検知を行うため、赤色のアクセサリーの使用をお勧めします。
Usage specifications	スタッフ用アクセサリー（ネクストラップ、バッジ、肩章）は、それぞれ個別にテストを行う必要があり、同時に使用してはなりません。 同一のシーンにおいて、複数の種類のアクセサリーを同時に使用することは禁止されています。
Wearing requirements	アクセサリーを着用する際は、襟、スカーフ、髪、その他の物によって隠れることなく、常に完全に視認できる状態でなければなりません。 スタッフは、指定された場所にこれらのアクセサリーを着用しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> • スタッフ用ネクストラップ：首にかけてご使用ください。

該当設置高さ：1.9～3.3 m

手順：

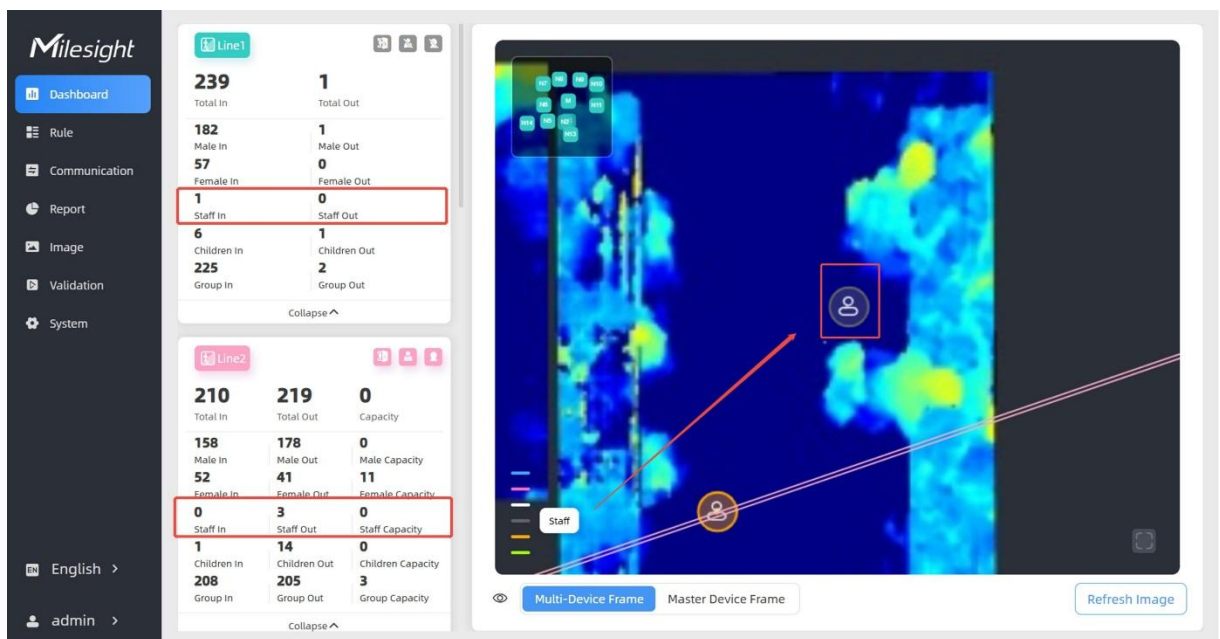
1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Staff Detection」を有効にし、対応するアクセサリーを選択します。



3. 「**Staff Accessories**」 ドロップダウンリストから、スタッフ検知用のアクセサリーを選択します。

4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的な設定の効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。



- 特定の期間のスタッフデータを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから

左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックします。詳細については、「Generate Reports」を参照してください。

Data Type: **Detection Line** | Detection Region | Heat Map | Attention Region

Event: **Line Cross Counting**

Time Unit: **Hour** | Day | Month | Time Range: 22/06/2025 08:00:00 - 23/06/2025 08:00:00 | Line1 | **Individuals** | Groups

Search

People Traffic Report | Hour | Line1 | **Staff Included** | Staff Excluded | [Icons]

22/06/2025 08:00 ~ 23/06/2025 08:00

- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「[Uplink Data Example for Periodic Reporting](#)」および「[Uplink Data Examples for Real-Time Reporting](#)」を参照してください。

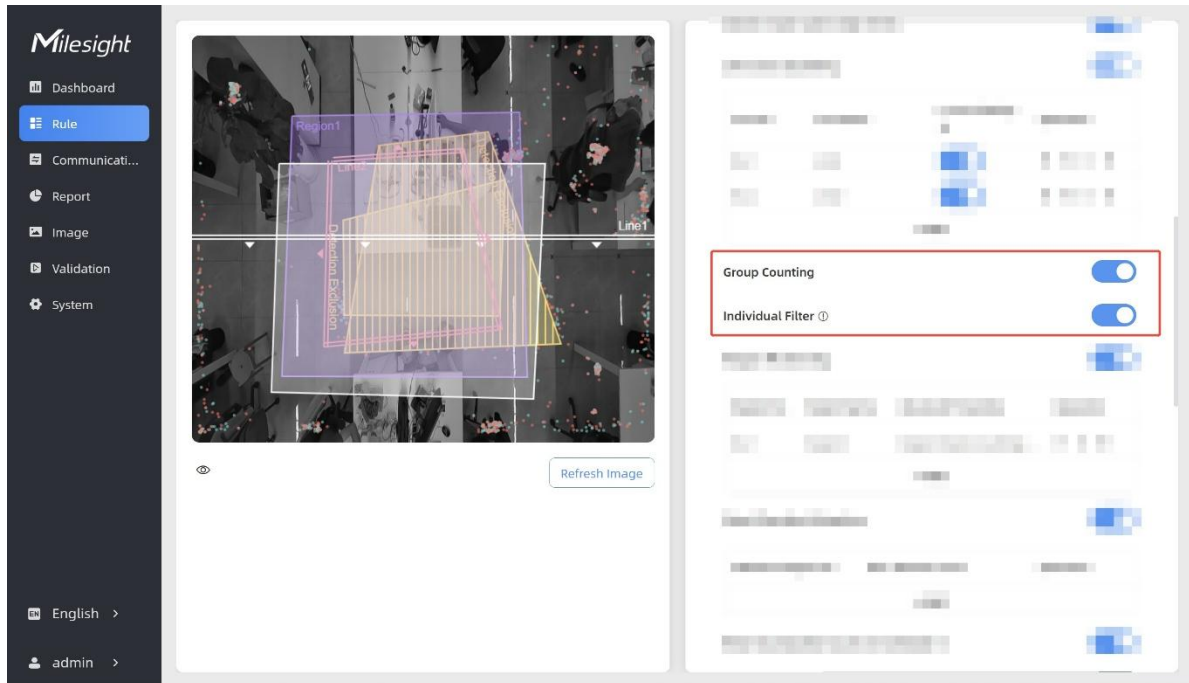
グループ集計の設定

本デバイスは、検知エリア内での複数人の認識およびカウントに対応しています。人の間隔、移動方向、速度の違いを分析することで、高度な顧客行動分析を提供します。グループカウント機能は、ライン横断検知機能に基づいて構築されています。このセクションでは、**グループカウント機能**の設定方法について説明します。

該当設置高さ : 1.9~3.5 m

手順 :

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。



2. 「Group Counting」機能を有効にしてください。本デバイスは、個人および2人以上のグループをすべて「Group」として分類します。
3. (オプション) 2人以上のグループのみをグループとして分類するには、「Individual Filter」を有効にしてください。有効にすると、個人はグループとしてカウントされなくなります。
4. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：
 - ・視覚的な設定効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。

Line2		
171 Total In	136 Total Out	35 Capacity
138 Male In	110 Male Out	28 Male Capacity
32 Female In	25 Female Out	7 Female Capacity
0 Staff In	0 Staff Out	0 Staff Capacity
0 Children In	0 Children Out	0 Children Capacity
10 Group In	2 Group Out	8 Group Capacity

Collapse ^

- 特定の期間のグループデータを表示し、対応するレポートを生成するには、左側のナビゲーションツリーから

左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックしてください。

詳細については、「Generate Reports」を参照してください。

The screenshot shows a reporting interface with the following elements:

- Data Type:** Detection Line (selected), Detection Region, Heat Map, Attention Region
- Event:** Line Cross Counting
- Time Unit:** Hour (selected), Day, Month
- Time Range:** 22/06/2025 07:00:00 - 23/06/2025 07:00:00
- Line:** Line1
- Individuals:** Individuals, **Groups** (highlighted with a red box)
- Search:** Search button

- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。詳細については、「Uplink Data Example for Periodic Reporting」および「Uplink Data Examples for Real-Time Reporting」を参照してください。

受信方向検出の設定

本デバイスは「View Direction Detection」機能を対応しています。ターゲットの視線軌跡を追跡し、広告のリーチ・スルーを効果的に評価します。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

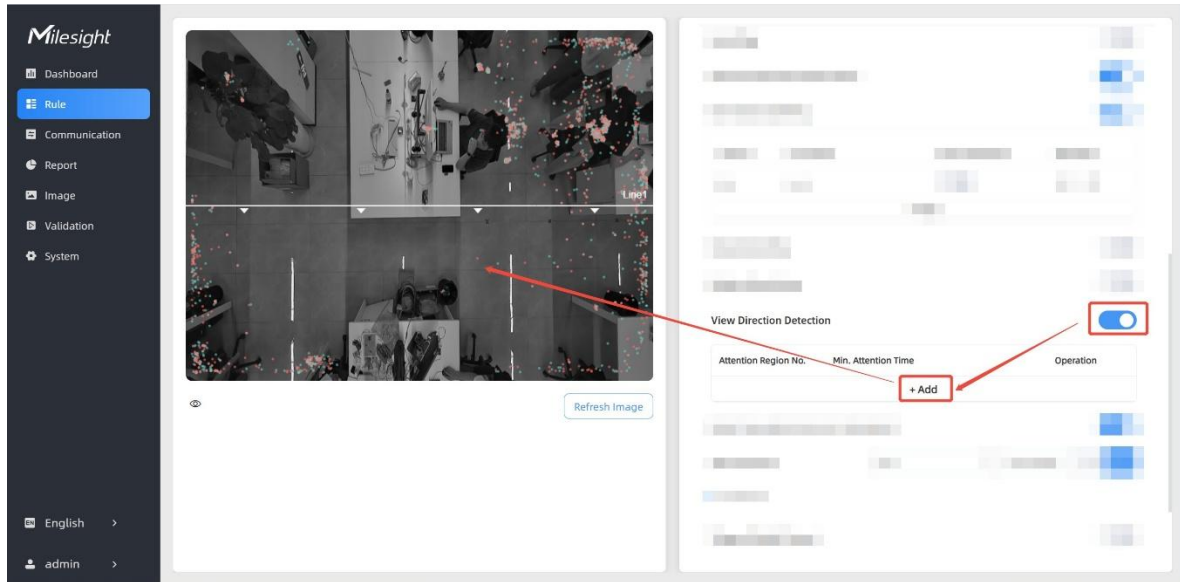
該当設置高さ：1.9～3.3 m

前提条件：

- 追跡モードが「Heads Tracking」に設定されていること。
- 動作モードが「Standalone」に設定されていること。

手順：

- メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
- 右側の「View Direction Detection」を有効にし、「+Add」をクリックします。「How-to Settings」情報ボックスが表示されます。



3. 手順を確認し、クリックしてください をクリックしてください。

| How-to Settings

Step 1

Please draw the Attention Region based on advertisement or shelf shape.



Step 2

Please draw the Effective Sight Region without being blocked by obstacles.



Step 3


Please configure the Min. Attention Time for people to focus on the Attention Region.

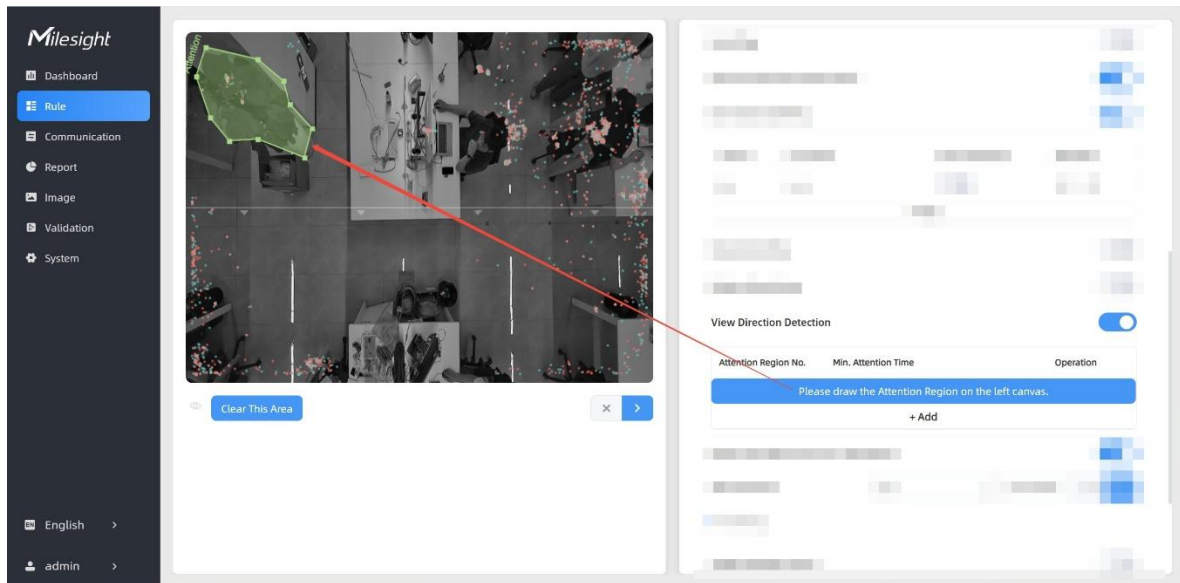


Do not remind me again

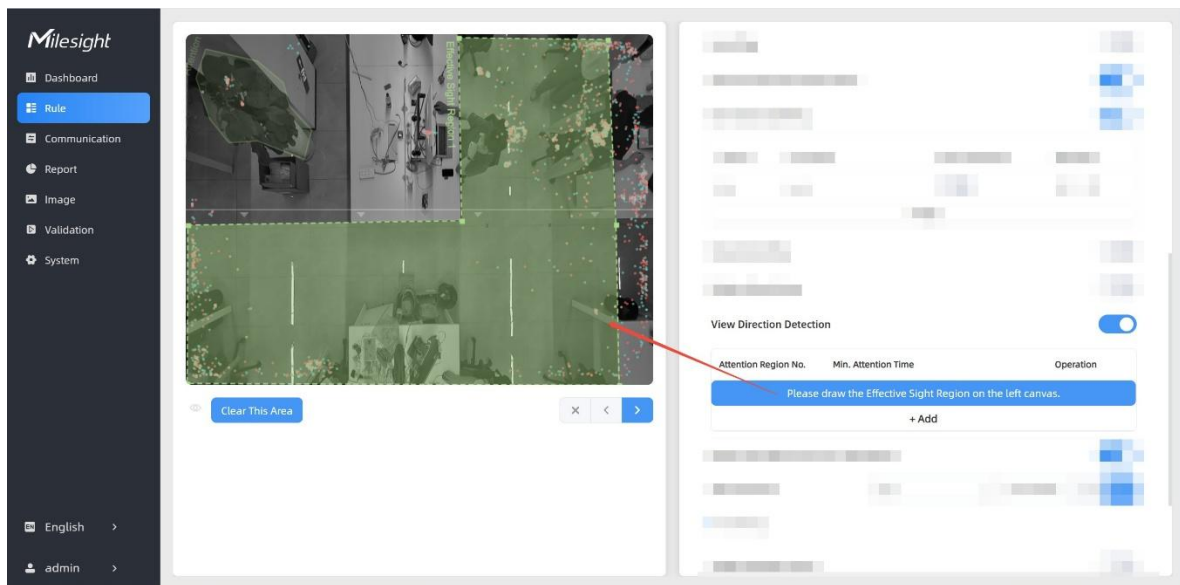


4. 顧客エンゲージメントレベルの分析が必要な注目領域を描画します。最大6つの領域を描画でき、各領域につき最大10本の線分を使用できます：
- 左クリックして開始し、ドラッグして最初の線分を描画します。
 - 左クリックして頂点を追加し、方向を変更してから、ドラッグして別の線分を描画します。
 - 必要に応じて、手順 b を繰り返して、さらに線分を描画します。
 - 右クリックして終了します。
 - (オプション) ドラッグして領域を調整します。

- f. (オプション) 領域を再描画するには、「Clear This Area」をクリックします。
- g.  「」をクリックします。



- 5. ステップ4と同じ手順に従って有効な視認領域を描画すると、最大6つの領域を作成でき、各領域につき最大10本の線分を使用できます：



この領域内の個人は、すべて注目領域を遮るものなく見渡せる必要があります。

設定が完了すると、デバイスは以下のロジックに基づき、有効視界領域内の視線方向を分析します：

- 有効な視聴者：注目時間が「Min. Attention Time」を超えているターゲット
 - 蓄積開始：視線が注目領域と1秒以上重なったとき
 - 蓄積の一時停止：視線が注目領域の外へ移動したとき
6. 「>」をクリックします。「Advanced Properties」ダイアログボックスが表示されます。

Advanced Properties

Min. Attention Time
s(1-60)

7. 「Min. Attention Time」を設定し、「✓」をクリックして設定を保存します。これにより、対象者の視線が指定した値以上、注目領域に留まっている場合、その対象者を有効な視聴者として識別するようになります。

8. 設定を確認するには：

- a. 有効な視線領域内に立ち、注目領域の方を見ます。
- b. ダッシュボード上のリアルタイム追跡を確認します。
- c. 視線の方向が正確に表示されていることを確認してください。
- d. ターゲットを見つめているときに、注視時間が蓄積されることを確認してください。

9. 以下のいずれかの方法でデータを確認してください：

- 視覚的構成効果を確認するには、左側のナビゲーションツリーから「Dashboard」をクリックしてください。

The screenshot displays the Milesight dashboard interface. On the left is a navigation menu with options: Dashboard, Rule, Communication, Report, Image, Validation, and System. The main content area is divided into two sections. The top section shows a summary of viewer counts:

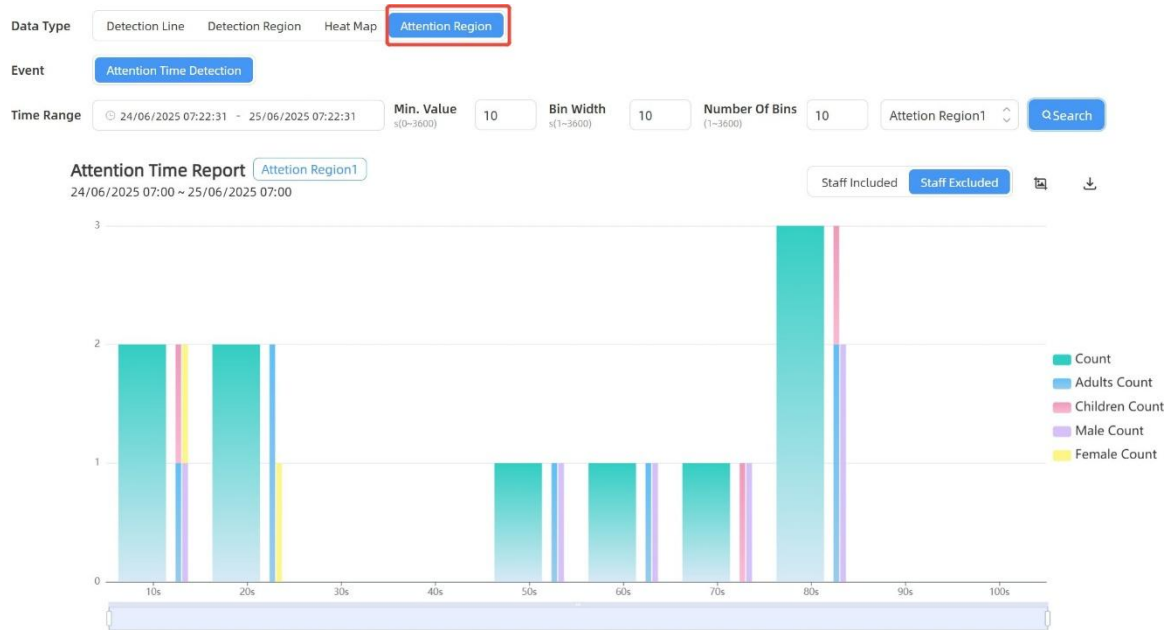
128 Total In	85 Total Out	43 Capacity
85 Male In	65 Male Out	20 Male Capacity
12 Female In	6 Female Out	6 Female Capacity
3 Staff In	1 Staff Out	2 Staff Capacity
2 Children In	3 Children Out	0 Children Capacity

The bottom section, titled 'Attention Region 1', provides detailed statistics for the current attention region:

9 Effective Viewers	6min 14s Avg. Attention Time
9 Male Effective Viewers	6min 14s Male Avg. Attention Time
0 Female Effective Viewers	0s Female Avg. Attention Time
5 Staff Effective Viewers	3min 11s Staff Avg. Attention Time
6 Children Effective Viewers	7min 58s Children Avg. Attention Time

Below these statistics is a 'Reset Count' button. To the right of the statistics is a heatmap visualization of the 'Effective-Sight Region 1', showing a person's gaze path overlaid on a scene. A red box highlights the 'Attention Region' on the heatmap.

- 特定の期間の注目領域データを表示し、対応するレポートを作成するには、左側のナビゲーションツリーから「**Report**」をクリックしてください。詳細については、「**Generate Reports**」を参照してください。



- 受信者が追加された場合は、コマンドラインの出力を確認してください。「`attention_region_total_data`」については、「[Uplink Data Example for Periodic Reporting](#)」を参照してください。「`attention_region_trigger_data`」については、「[Uplink Data Examples for Real-Time Reporting](#)」を参照してください。


デジタル出力トリガーの設定

「**Digital Output Triggering**」機能が有効になっている場合、ターゲットが検出ラインを通過した際に、デバイスはパルス信号を送信できます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

前提条件：




[配線図](#)に従い、マルチインターフェースケーブルを使用して本機を対応する外部機器に接続していること。




手順：

- メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Rule**」をクリックします。
- 右側の「**I/O Settings**」エリアで、「**Trigger Digital Output**」を有効にしてください。
- 「**Synchronized Pulse Interval**」テキストボックスに値を入力し、「」をクリックしてください。

Parameters	説明
Synchronized Pulse Interval	複数の人が通過したり、複数のイベントが同時にトリガーされたりした場合の、複数のパルス間隔です。

4. 特定のトリガーイベントを有効にします。各パラメータの説明については、次の表を参照してください。

-  をクリックしてください。
- イベントについては、[] をクリックしてください。
- パルス幅を設定します。
- [Channel Select]** ドロップダウンリストからチャンネルを選択してください。
-  。デバイスは、マルチインターフェースを介して自動的にハイレベル信号を出力します。

Parameters	説明
Trigger Event	DOがパルス信号を送信するようにトリガーするイベントです。  注： スタッフイベントによってパルス信号がトリガーされた場合、本装置は性別または成人検知イベントに対する同期出力を開始しません。
Status	パルス信号の出力をトリガーするイベントを有効または無効にします。
Pulse Width	パルス信号の持続時間。
Channel Select	パルス信号を出力するDOポートを選択します。
Operation	 クリックして  をクリックして、上記のパラメータを編集してください。

ヒートマップの設定

Heat Map機能は、人の動線や滞在時間のデータを分析し、その結果を色分けした時間軸または空間的な視覚化を通じて表示します。これにより、より良い事業運営のための洞察が得られます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

本デバイスは、**Motion Heatmap**と**Dwell Heatmap**に対応しています。**Motion Heatmap**は、歩行者の通行密度が最も高いエリアを可視化し、**Dwell Heatmap**は、滞在時間が最も長いエリアを可視化します。

手順：

1. **Heat Map**機能を有効にします。
2. 特定の期間のヒートマップデータを表示し、対応するレポートを生成するには、**Report**をクリックしてください
左側のナビゲーションツリーから**レポートを作成します**。詳細については、「**Generate Reports**」を参照してください。

複数のデバイスを結合する

本デバイスはマルチデバイス・ステッチングに対応しており、単一のデバイスでは不可能な範囲まで監視範囲を拡大できます。最大**16**台のデバイスをステッチングできます。このセクションでは、複数のデバイスをステッチングする方法について説明します。

ステッチされたシステムにおけるデバイスの役割：

- **マスターデバイス**：1台のデバイスが**Master**に設定されます。このデバイスは、すべての機能設定、カウント、およびデータ送信を処理します。
- **ノードデバイス**：その他のすべてのデバイスは**Node**として設定されます。その主な機能は、全体の検知範囲を拡大することです。

準備：

- **Installation**：「**Install the Device**」の手順に従って、複数のデバイスをインストールします。
- **Network**：すべてのデバイスは同じサブネット上に配置する必要があります。
- **Firmware**：すべてのデバイスを最新バージョンに更新する必要があります。

設定手順：

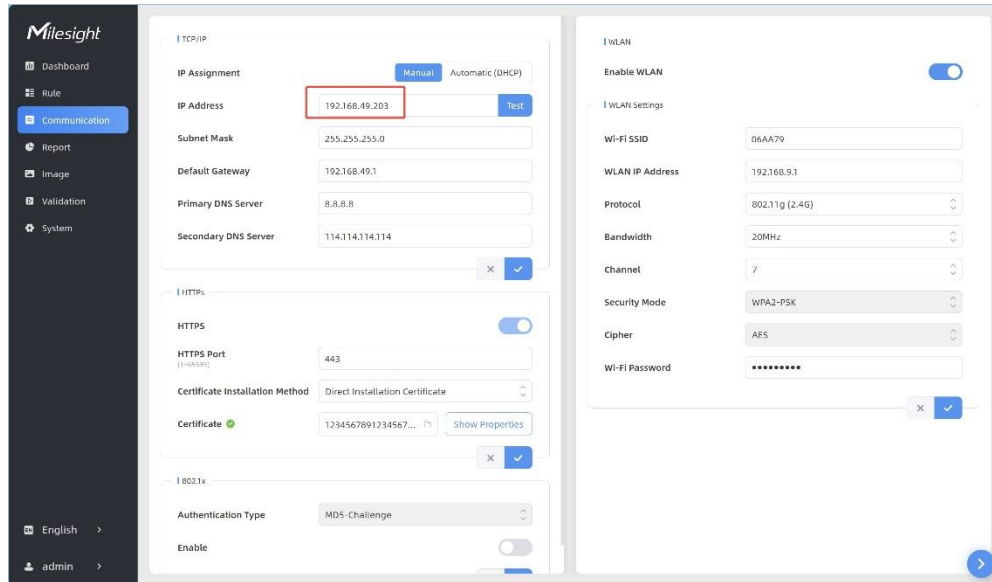
準備が完了したら、1台のデバイスをマスターデバイスとして指定し、残りのデバイスをノードデバイスとして指定し、以下の手順に従ってください。

ノードデバイスの設定

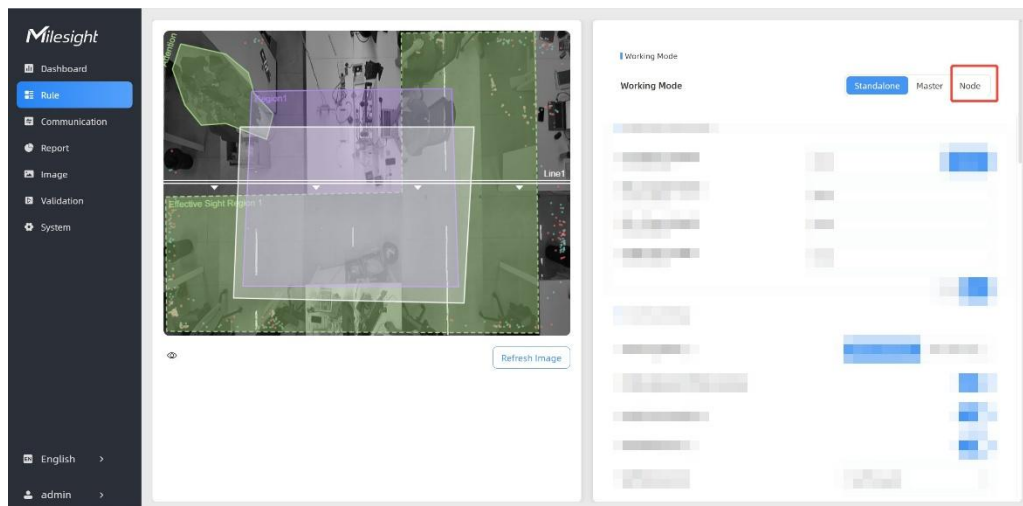
このセクションでは、ノードデバイスの設定方法について説明します。

手順：

1. ノードデバイスの**Web GUI**にログインし、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。
2. 「**TCP/IP**」エリアの「**IP Address**」テキストボックスに、ノードデバイスの**IPアドレス**を入力します。



3. 左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。




4. 右側の「Working Mode」エリアで、「Node」をクリックします。「Tips」情報ボックスが表示されます。

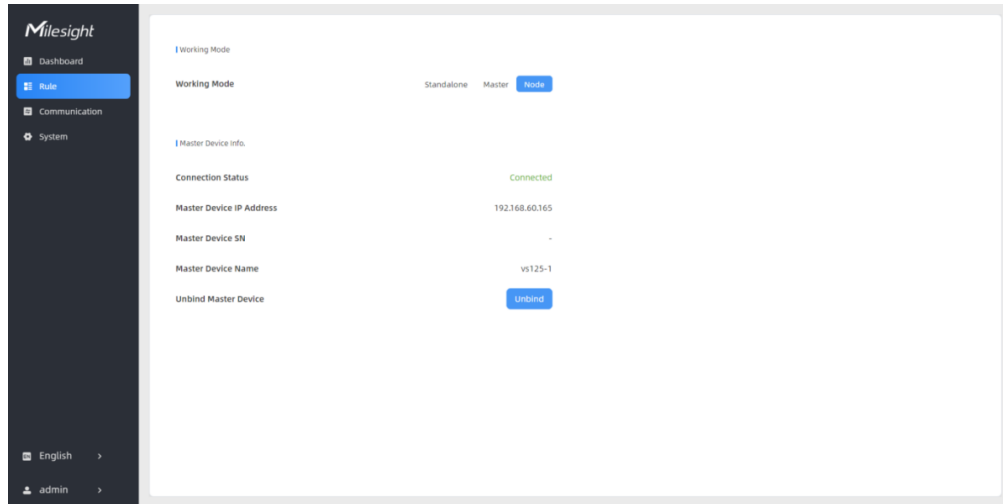
Tips

The device needs to reboot to switch to the new Working Mode.
Continue?



5. 「」をクリックし、デバイスの再起動を待ちます。

ステッチングが正常に完了すると、次のページが表示されます。「**Master Device Info.**」エリアのパラメータの説明については、次の表を参照してください。



Parameters	説明
Connection Status	ノードデバイスとマスターデバイス間の接続ステータスです。
Master Device IP Address	マスターデバイスのIPアドレスです。このIPアドレスがノードデバイスと同じサブネット内にある場合、ノードデバイスをマスターデバイスにバインドできます。
Master Device SN	マスターデバイスのシリアル番号。
Master Device Name	マスターデバイスの名前。
Unbind Master Device	Unbind をクリックして接続を解除します。このデバイスは、マスターデバイスのリストから削除されます。

マスターデバイスとノードデバイスの結合

このセクションでは、マスターデバイスとノードデバイスを結合する方法について説明します。これには、以下の手順が含まれます：


1. **Working Mode**を「**Master**」に設定してください。
2. ノードデバイスを選択してください。
3. ノードデバイスをマスターデバイスにバインドします。

すべてのステッチング設定が完了すると、ユーザーはスタンドアロンデバイスと同じ方法で、ステッチされたプレビュー上に検知ラインやUターンエリアを描画することができます。**Multi-Device**

Frameと**Master**

Dashboardページには、マルチデバイスフレームとマスターデバイスフレームが表示され、それぞれステッチされたマルチデバイスのプレビューとマスターデバイスのプレビューを確認できます。

動作モードを「Master」に設定します

1. マスターデバイスのWeb GUIにログインし、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 右側の「Working Mode」エリアで、「Master」をクリックします。「Tips」情報ボックスが表示されます。
3. 「」をクリックし、デバイスの再起動を待ちます。

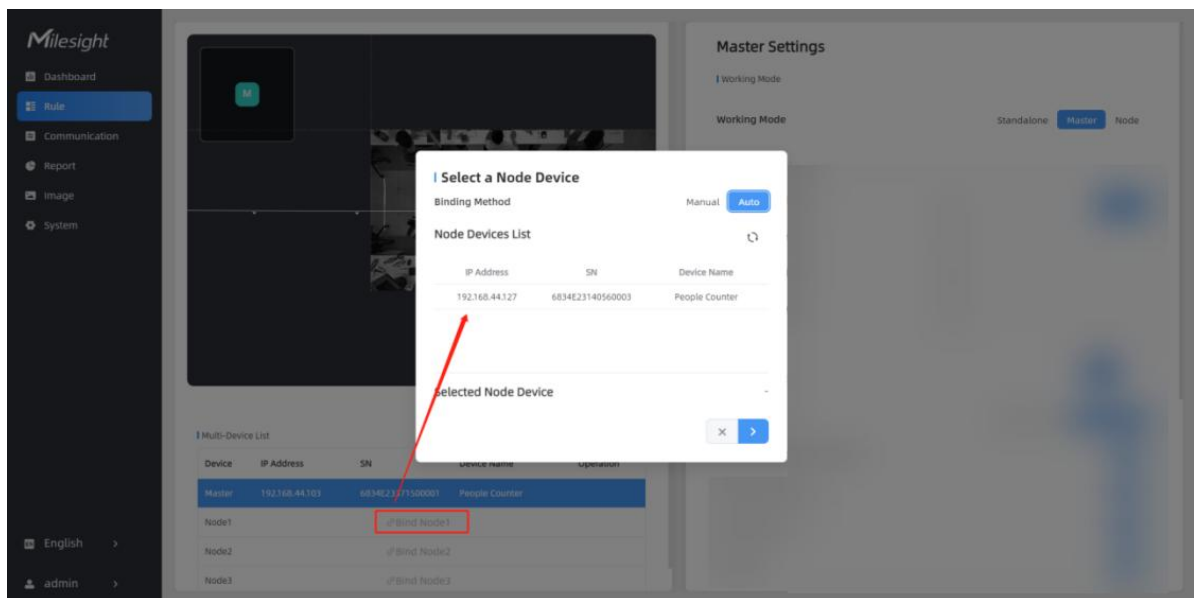
Tips

The device needs to reboot to switch to the new Working Mode.
Continue?




ノードデバイスを選択します

1. 再起動が完了したら、左側のナビゲーションツリーから「Rule」をクリックします。
2. 「Multi-Device List」エリアで、「Bind Node1」をクリックします。「Select a Node Device」ダイアログボックスが表示されます。




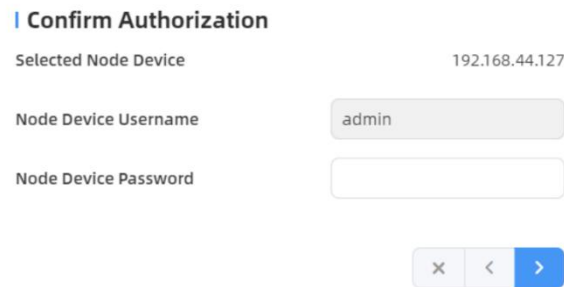
3. 追加するノードデバイスを選択してください。


- ノードデバイスを手動で選択するには：

- a. 「**Manual**」をクリックします。
- b. 対応するテキストボックスに、IPアドレス、HTTPポート、ユーザー名、またはパスワードを入力してください。
- c. 「」をクリックしてください。「**Bind the Node Device**」ページが表示されます。

- ノードデバイスを自動的に選択するには：

- a. **[Auto]** をクリックします。すると、デバイスは自動的にマルチキャストプロトコルを使用して、同じローカルネットワーク内の未バインドのノードデバイスを検出します。検出されたデバイスは **[Node Devices List]** に一覧表示されます。
- b. 追加するノードデバイスを選択し、「」をクリックします。「**Confirm Authorization**」ダイアログボックスが表示されます。




- c. ノードデバイスのログインパスワードを入力し、「」をクリックします。「**Bind the Node Device**」ページが表示されます。

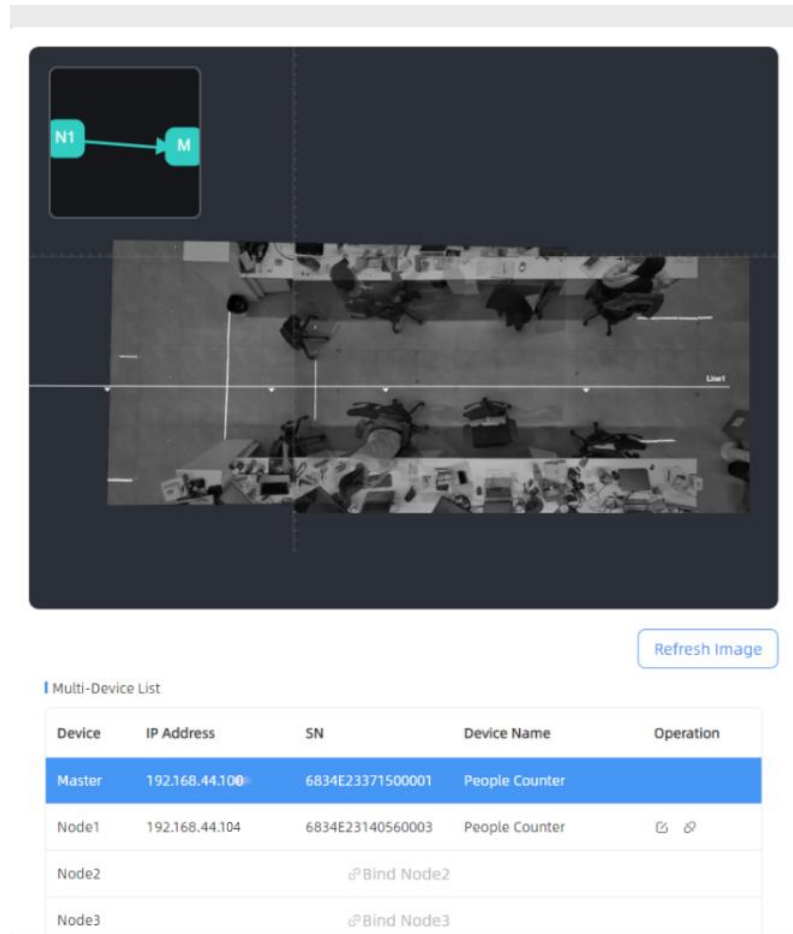
ノードデバイスをマスターデバイスにバインドする

1. **[Installation Height]** エリアに、ノードデバイスの設置高さを入力するか、**[Detect]** をクリックして設置高さを自動的に測定します。
2. 右側のIPアドレスをクリックして、接続されたデバイスのプレビューを表示し、このノードデバイスとカバレッジ領域が重なっているデバイスを選択してください。
3. 両方のデバイスプレビューにおいて、4つの較正ポイントをマークして四角形を形成し、重なり合う範囲を定義してください。その後、システムはこれらのポイントに基づいて自動的に画像のステッチングを行います。

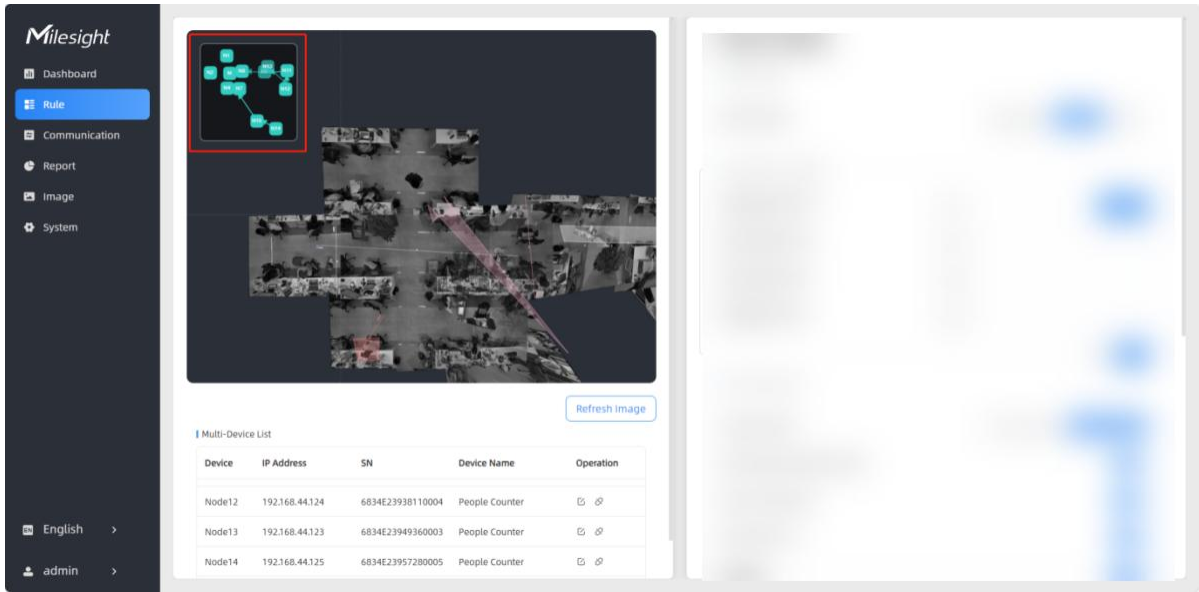
Tip :

重なり合う部分は、人の往来が少ない場所に配置してください。重なり合う部分の床面には、タイルやテーブル、テープなどの物を使って、継ぎ目を目印として示しておくことをお勧めします。

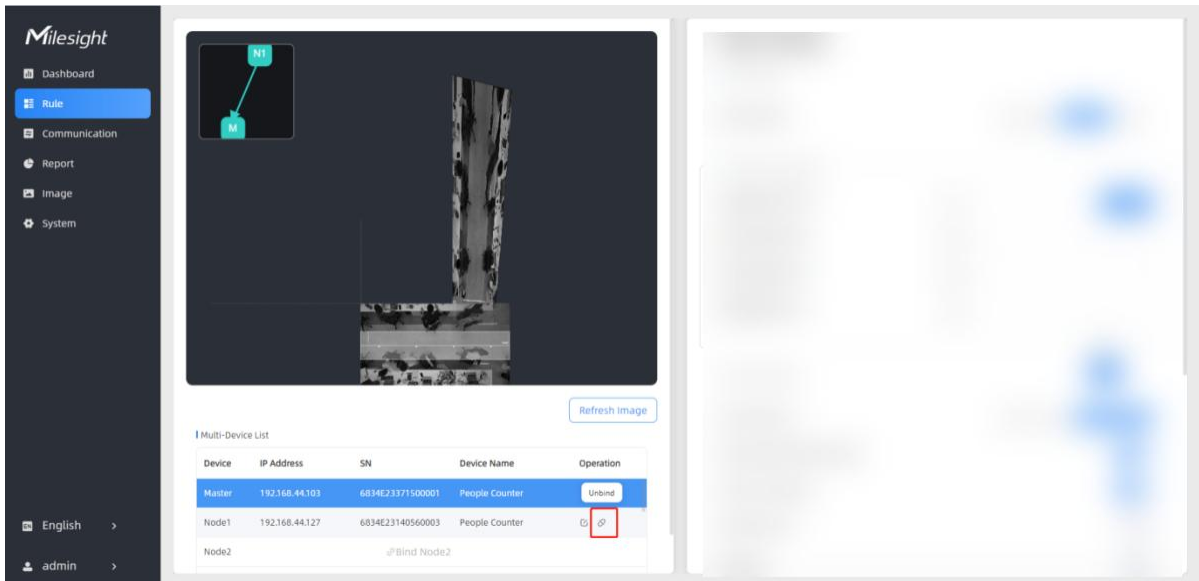
4. (任意) 校正ポイントを変更するには、 をクリックして対応する点を削除し、再度その点をマークしてください。 [Point 1 ×](#) [Point 2 ×](#) [Point 3 ×](#) [Point 4 ×](#)
5. [Save]をクリックして をクリックして設定を保存します。ノードデバイスが「Multi-Device List」に表示されます。次の図は、2つのデバイスがスティッチされた後の状態を示しています。



6. さらにデバイスを追加するには、手順1から5に従って、それらを順番に接続してください。プレビュー画面の左上にある小さなマップには、接続されたデバイスの位置が表示されます。



7. (オプション) ノードデバイスを切断するには、**Operation**動作エリア をクリックします。



通信パラメータの設定

このセクションでは、通信パラメータの設定方法について説明します。これには、セルラーパラメータ、TCP/IPパラメータ、HTTPSパラメータ、802.1xプロトコルパラメータ、WLANパラメータ、受信者パラメータ、およびMQTT APIパラメータが含まれます。

ネットワークパラメータの設定

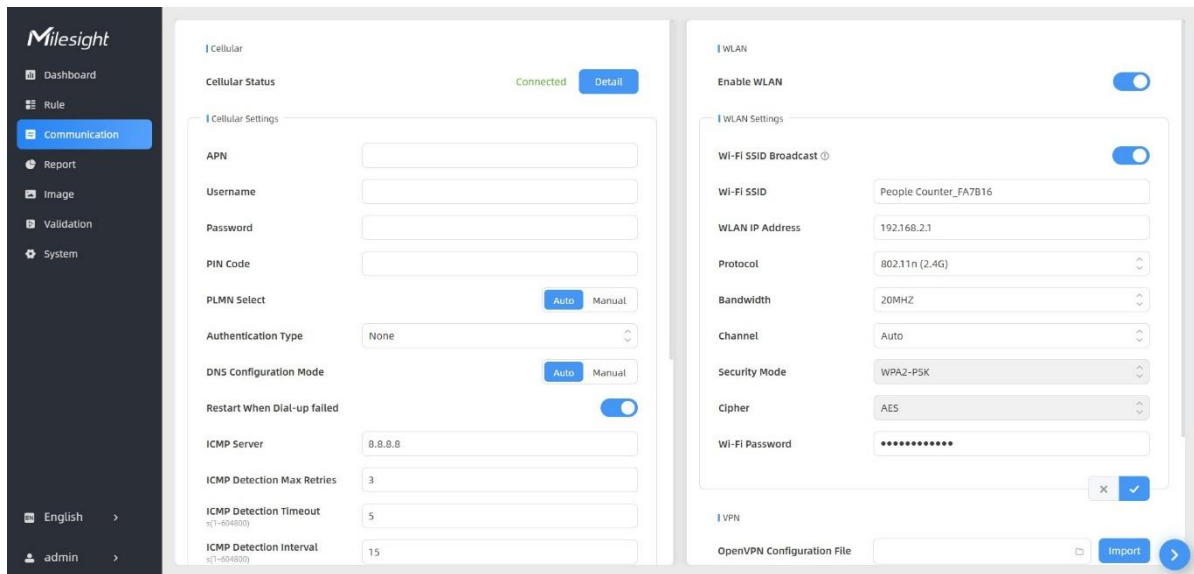
このセクションでは、ネットワークパラメータの設定方法について説明します。これには、セルラーパラメータ（セルラー版のみ）、TCP/IPパラメータ、HTTPSパラメータ、802.1xパラメータ、およびWLANパラメータが含まれます。

セルラーパラメータの設定（セルラー版のみ）

このセクションでは、セルラーパラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. 「Cellular Status」エリアで、「Detail」をクリックし、Cellularステータスの詳細を確認します。
3. 「Cellular Settings」エリアで、必要に応じてセルラーパラメータを設定します。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
APN	ローカルISPが提供する携帯電話ダイヤルアップ接続用のアクセスポイント名です。最大文字数：31文字。
Username	ローカルISPが提供する携帯電話ダイヤルアップ接続用のユーザー名です。最大文字数：31文字。
Password	地域のISPが提供する携帯電話ダイヤルアップ接続用のパスワードです。最大文字数：31文字。
PIN Code	SIMのロックを解除するためのPINコードです。文字数：4～8文字。

Parameters	説明
PLMN Select	PLMNの設定方法を選択してください。
PLMN ID	PLMN ID を手動で入力してください。
Authentication Type	オプション : None、PAP、CHAP、PAP および CHAP。
Roaming	Roaming機能を有効にします。
DNS Configuration Mode	<p>オプション : Auto、Manual。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ DNSConfigurationに設定されている場合、本機は通信事業者から割り当てられたDNSを自動的に取得します。 ◦ DNS AutoDNSConfigurationに設定されている場合、プライマリおよびセカンダリ DNS サーバーのアドレスを両方とも入力する必要があります。
Restart When Dial-up Failed	ダイヤルアップが複数回フェイルした場合に、デバイスを自動的に再起動します。
ICMP Server	ICMP 検出サーバーの IP アドレスを設定します。
ICMP Detection Max Retries	ICMP 検出がフェイルした際の再試行の最大回数を設定します。
ICMP Detection Timeout	ICMP 検出のタイムアウト時間を設定します。
ICMP Detection Interval	ICMP 検出の間隔を設定します。

4. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。

TCP/IP パラメータの設定

本デバイスは、データ伝送および複数デバイスのステッチングにイーサネットポートを使用します。このセクションでは、TCP/IP パラメータの設定方法について説明します。

モバイル通信版の場合、データ送信は現在のネットワーク状況に依存します。モバイル通信とイーサネット接続の両方が利用可能な場合、本デバイスはデータ送信においてモバイル通信を優先します。

手順 :

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックしてください。

TCP/IP

IP Assignment Manual Automatic (DHCP)

IP Address Test

Subnet Mask

Default Gateway

Primary DNS Server

Secondary DNS Server

✕ ✓

2. 「TCP/IP」エリアで、必要に応じてTCP/IPパラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
IP Assignment	<p>IP 割り当て方法を設定します。オプション : Manual。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Automatic (DHCP)を選択した場合は、以下のパラメータを手動で設定する必要があります。 - Manualが選択された場合、デバイスには自動的にIPアドレスと設定パラメータが割り当てられます。
IP Address	イーサネットポートの IPv4 アドレスを設定します。デフォルト値 : 192.168.5.220
Test	Test をクリックして、IPアドレスの競合を確認します。
Subnet Mask	イーサネットポートのネットマスクを設定します。
Default Gateway	イーサネットポートの IPv4 アドレスのゲートウェイを設定します。
Primary DNS Server	プライマリ IPv4 DNS サーバーを設定します。

Parameters	説明
Secondary DNS Server	セカンダリ IPv4 DNS サーバーを設定します。

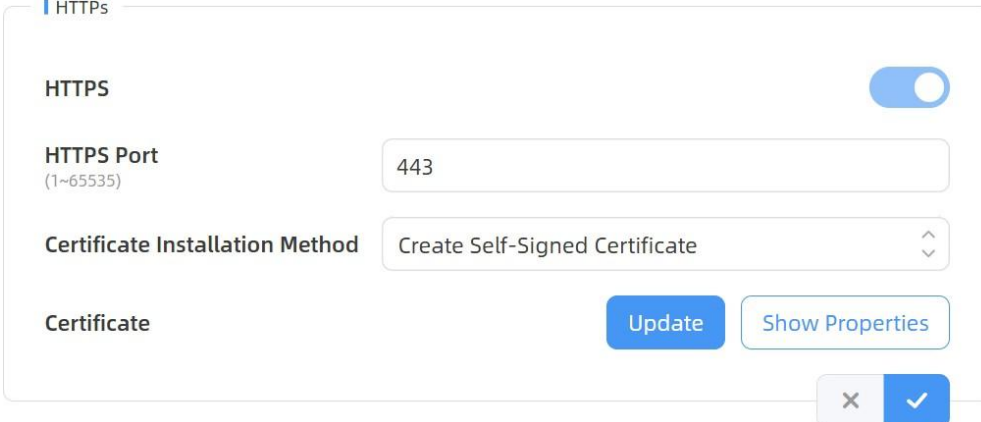
3. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。

HTTPS パラメータの設定 (PoE バージョンのみ)

HTTPSは、ウェブブラウザとサーバーの間でやり取りされるデータを暗号化します。これにより、機密性が確保され、サーバーの真正性が確認され、データの改ざんから完全性が保護されます。このセクションでは、安全な通信を確保するためのHTTPSパラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



The screenshot shows the 'HTTPS' configuration panel. At the top, there is a blue header with 'HTTPS'. Below it, the 'HTTPS' toggle switch is turned on. The 'HTTPS Port' field is set to '443' with a range of '(1~65535)'. The 'Certificate Installation Method' dropdown menu is set to 'Create Self-Signed Certificate'. At the bottom, there are two buttons: 'Update' and 'Show Properties'. A close button with a checkmark is located at the bottom right.

2. [HTTPS] エリアで、[HTTPS] を有効にします。
3. 「HTTPS Port」を設定して、Web GUIのログインポートを指定します。デフォルトは**443**です。
4. **Certificate Installation Method**証明書のインストール方法を選択してください。Options : **Create Self-Signed Certificate**自己署名証明書の作成、**Direct Installation Certificate**証明書の直接インストール。
5. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

If	Do
<p>- If Certificate Installation Method is set to Create Self-Signed Certificate</p>	<p>a. [Update] をクリックします。 [Update Certificate Information] ダイアログボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="873 373 1250 745"> <p>Update Certificate Information</p> <p>Country (C) <small>Two-letter Country Code</small> <input type="text" value="US"/></p> <p>State (ST) <input type="text" value="Some State"/></p> <p>Locality (L) <input type="text" value="Some Location"/></p> <p>Organization (O) <input type="text" value="Internet Widgits Pty Ltd"/></p> <p>Organization Unit (OU) <input type="text" value="Internet Widgits Pty Ltd"/></p> <p>Common Name (CN) <input type="text" value="People Counter"/></p> <p>Validity Period <small>days(1-825)</small> <input type="text" value="397"/></p> <p><input type="button" value="x"/> <input checked="" type="button" value="✓"/></p> </div> <p>b. 必要に応じて証明書情報を更新し、「」をクリックします。証明書がアップロードされます。</p> <p>c. (任意) 証明書のプロパティを確認するには、「Show Properties」情報ボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="873 1018 1258 1375"> <p>Certificate Properties</p> <p>Issued To <input type="text" value="CN = People Counter"/> <input type="text" value="O = Internet Widgits Pty Ltd"/> <input type="text" value="OU = Internet Widgits Pty Ltd"/></p> <p>Issued From <input type="text" value="CN = People Counter"/> <input type="text" value="O = Internet Widgits Pty Ltd"/> <input type="text" value="OU = Internet Widgits Pty Ltd"/></p> <p>Validity Period <input type="text" value="Jan 17 05:47:37 1970 GMT"/> <input type="text" value="Feb 18 05:47:37 1971 GMT"/></p> <p><input type="button" value="x"/></p> </div>

If	Do
<p>- If Certificate Installation Method is set to Direct Installation Certificate</p>	<p>a. File をクリックして、CA 証明書ファイルをアップロードします。</p> <p>b. (任意) 証明書のプロパティを確認するには、「Show Properties」情報ボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="868 436 1258 793" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Certificate Properties</p> <p>Issued To: CN = People Counter O = Internet Widgits Pty Ltd OU = Internet Widgits Pty Ltd</p> <p>Issued From: CN = People Counter O = Internet Widgits Pty Ltd OU = Internet Widgits Pty Ltd</p> <p>Validity Period: Jan 17 05:47:37 1970 GMT Feb 18 05:47:37 1971 GMT</p> <p style="text-align: right;">✕</p> </div>

6. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。

802.1x プロトコルパラメータの設定 (PoE バージョンのみ)

IEEE 802.1x は、RADIUS サーバーを使用してネットワークへのアクセスを許可する認証プロトコルです。このセクションでは、802.1x プロトコルのパラメータを設定する方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。

802.1x

Enable

Authentication Type MD5-Challenge

EAPOL Protocol Version 802.1x-2001

Identity

Password

Confirm Password

✕

2. 「**802.1x**」エリアで、必要に応じて**802.1x**パラメータを設定してください。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。


Parameters	説明
Authentication Type	固定値 : MD5-Challenge
Enable	802.1x 認証を有効または無効にします。
EAPOL Protocol Version	オプション : 802.1x-2001、802.1x-2004。
Username	802.1x 認証のユーザー名を設定します。
Password	802.1x 認証のパスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードをもう一度入力してください。

WLAN パラメータの設定

このセクションでは、WLAN パラメータの設定方法について説明します。

手順 :

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。

2. WLAN エリアで、「」をクリックし、Wi-Fi 機能を有効にします。

3. 「**WLAN Settings**」エリアで、必要に応じてWLANパラメータを設定します。パラメータの説明については、以下の表を参照してください。

Parameters	説明
Wi-Fi SSID Broadcast	無効にすると、Wi-FiのSSIDは自動的に検出されなくなりますが、SSIDを手動で入力すれば接続することは可能です。
Wi-Fi SSID	このデバイスの固有のWi-Fiアクセスポイント識別子です。形式： People Counter_xxxxxx 。デバイスのラベルに記載されています。
WLAN IP Address	Webアクセス用のWLAN IPアドレスです。デフォルト値： 192.168.1.1 。
Protocol	オプション： 802.11b (2.4G) 、 802.11n (2.4G) 、および 802.11n (2.4G) 。
Bandwidth	オプション： 20MHz 、 40MHz 。
Channel	無線チャンネル。範囲：自動、1～11。
Security Mode	固定値： WPA2-PSK 。
Cipher	固定値： AES 。
Wi-Fi Password	パスワードをカスタマイズしてください。数字、小文字、大文字、および特殊文字を含める必要があります。範囲は 8～63 文字です。

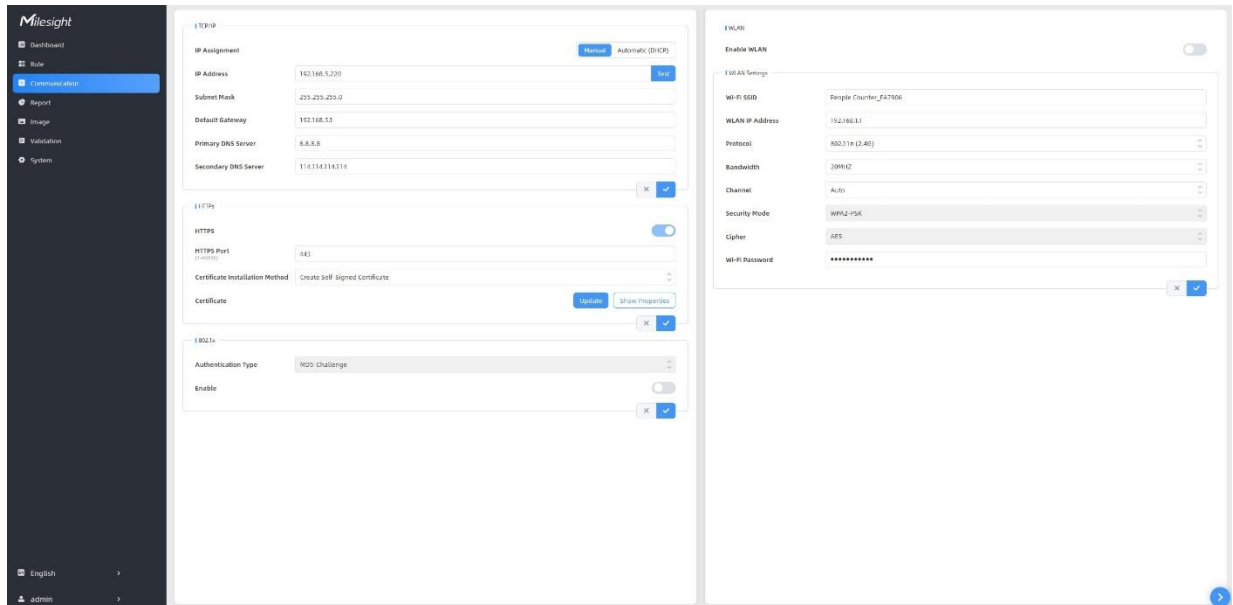
4. 「」をクリックして設定を保存してください。

データ受信者を追加する

本デバイスは、HTTP(s) または MQTT(s) プロトコルを使用したデータ受信先の追加に対応しています。指定されたレポート形式に従い、設定された受信先へデータを能動的に送信します。データ形式の詳細については、「[Uplink Data](#)」をご参照ください。また、CGI インターフェースを通じて、デバイスの設定やピープルカウンティングデータの取得を行うことができます。詳細については、「[Milesight AI Stereo Vision People Counting Sensor API Specification](#)」をご参照ください。このセクションでは、データ受信先の追加方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Communication」をクリックします。



2. 右下隅にある「>」をクリックします。「Recipient」ページが表示されます。

Recipient

Recipient Name	URL/Host	Protocol	Status	Operation
+ Add				

3. 「+Add」をクリックします。「Recipient Settings」ダイアログボックスが表示されます。最大8名の受信者を追加できます。

Recipient Settings

Recipient Name	<input type="text" value="Recipient"/>
Report Protocol	<input type="text" value="MQTT"/>
Host	<input type="text"/>
Port (1~65535)	<input type="text"/>
ClientID	<input type="text"/>
Username	<input type="text"/>
Password	<input type="text"/>
Topic ①	<input type="text"/>
QoS	<input type="text" value="QoS 0"/>
TLS	<input checked="" type="checkbox"/>

4. 必要に応じて受信者のパラメータを設定します。


- a. **[Recipient Name]** テキストボックスに、受信者の名前を入力します。
- b. 必要に応じて、「**Report Protocol**」を「**HTTP(s)**」または「**MQTT**」に設定します。
- c. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。


- 「**Report Protocol**」が **HTTP(s)** に設定されている場合は、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
URL	<p>データ受信先URL。JSON形式のピープルカウンティングデータを受信する宛先URLを設定します。</p> <p>本デバイスは複数のサードパーティ製プラットフォームに対応しています。対応プラットフォームについては、Milesightの公式ウェブサイトをご参照ください。</p>
Connection Test	Test をクリックして、URLにテストメッセージを送信し、接続を確認します。
Username	認証に使用するユーザー名です。
Password	認証に使用するパスワードです。

- 「Report Protocol」がMQTTに設定されている場合は、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Host	<p>データを受信するMQTTブローカーのアドレスです。</p> <p>本デバイスは、複数のサードパーティ製プラットフォームに対応しています。対応プラットフォームについては、Milesightの公式ウェブサイトをご参照ください。</p>
Port	データを受信するために使用するMQTTブローカーのポートです。
Client ID	MQTTサーバーに対する一意のクライアント識別子です。同じサーバーへのすべての接続において一意である必要があり、QoSレベル1および2でのメッセージ配信を管理するために不可欠です。
Username	MQTTブローカー認証用のユーザー名です。
Password	MQTTブローカー認証用のパスワードです。
Topic	<p>メッセージの送信に使用するトピック名です。トピック名の例は以下の通りです：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Topic <input type="text" value="device/report/\$devsn"/></p> </div> <p>以下のプレースホルダーは、サブスクリプション時にデバイス情報に動的に置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - \$devsn: デバイス SN \$prmd: 製品モデル \$devid: カスタマイズされたデバイス ID \$siteid: カスタマイズされたサイト ID
QoS	オプション：QoS 0、QoS 1、および QoS 2。
TLS	MQTT 通信で TLS 暗号化を有効にします。
Certificate Type	オプション：CA Signed ServerまたはSelf Signed。

Parameters	説明
	<p>CertificateType が [CA SignedServer] に設定されている場合、デバイスにブ リインストールされている CA 証明書 を使用してサーバーの検証が行われま す。</p> <p> CertificateTypeが「SelfSigned」に設定されている場合は、 CA File し て、本人確認用の対応するファイルをアップロードします。</p>

5. **[Save]** をクリックして  をクリックして設定を保存します。「**Report Strategy**」ダイアログボックスが
表示されます。

Report Strategy

Trigger Report

Trigger Report Cooldown

Trigger Report Schedule

Periodic Report

Periodic Report Scheme On the Dot From Now On

Period

Real-time Data Report

Data Retransmission


Customize Report Content




× < ✓



6. 必要に応じてレポート戦略のパラメータを設定してください。パラメータの説明について
は、以下の表をご参照ください。

Parameter	説明
Trigger Report	ライン越え回数または領域数が変化した場合に、リアルタイムレポートを有効に します。
Periodic Report	ライン横断および領域カウントデータの定期的なレポート機能を有効にしま す。
Periodic Report Scheme	オプション : On the Dot または「 From Now On 。

Parameter	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Periodic Report Scheme On the Dot設定されている場合は、必要に応じて「Interval」ドロップダウンリストから間隔を選択してください。そうすると、デバイスは毎時0分に通報を行います。例： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 1時間間隔：報告は毎時（00:00、01:00、02:00...）に行われます ▪ 10分間隔：報告は10分刻み（00:10、00:20、00:30...）に行われます <p>「Periodic Report Scheme」が「From Now On」に設定されている場合は、必要に応じてNowテキストボックスに間隔の値を入力してください。その後、デバイスは有効化と同時に定期レポートを開始し、設定された間隔で定期的にレポートを送信します。</p>
Data Retransmission	<p>この機能を有効にすると、ネットワーク接続が回復した時点で、オフライン期間中にバッファに蓄積されたすべてのデータパケットが自動的に送信されます。各受信エンドポイントは、最大50,000件のデータレコードに対応しています。</p>
Customize Report Content	<p>レポート内容のカスタマイズを有効にします。データの重複を避けるため、必要な内容を選択してください。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: right;">Customize Report Content <input checked="" type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ <input checked="" type="checkbox"/> Device Info <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Device Name <input checked="" type="checkbox"/> IP Address <input checked="" type="checkbox"/> Running Time <input checked="" type="checkbox"/> Device SN <input checked="" type="checkbox"/> Custom Device ID <input checked="" type="checkbox"/> Firmware Version <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Device MAC <input checked="" type="checkbox"/> Custom Site ID <input checked="" type="checkbox"/> Hardware Version ▼ <input checked="" type="checkbox"/> Time Info <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Trigger Time <input checked="" type="checkbox"/> Time Zone <input checked="" type="checkbox"/> Start Time <input checked="" type="checkbox"/> DST Enable <input checked="" type="checkbox"/> End Time <input checked="" type="checkbox"/> DST Status <input checked="" type="checkbox"/> Line Trigger Data ▼ <input checked="" type="checkbox"/> Region Trigger Data <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Region Count Data <input checked="" type="checkbox"/> Dwell Time Data <input checked="" type="checkbox"/> Dwell Start Time <input checked="" type="checkbox"/> Line Periodic Data ▼ <input checked="" type="checkbox"/> Line Total Data <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Line Count Data <input checked="" type="checkbox"/> Capacity Counted <input checked="" type="checkbox"/> Region Periodic Data <input checked="" type="checkbox"/> Line/Region Name <input checked="" type="checkbox"/> Line/Region/Attention Region UUID </div>

7. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。追加された受信者は、「Recipients」ページに表示されます。

Recipient Name	URL/Host	Protocol	Status	Operation
Recipient	https://webhook.site/f44e61bc-d755-4a4d-...	HTTP	Disconnect	 
Recipient	192.168.44.125	MQTT	Disconnect	 
+ Add				

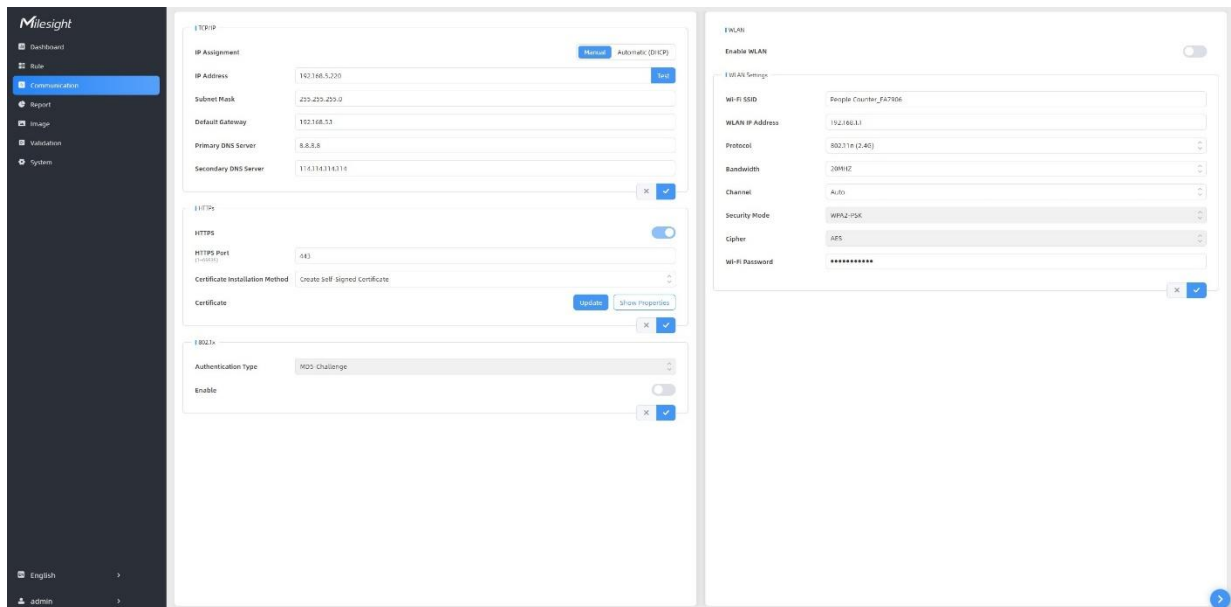
8. (オプション) 受信者を編集または削除するには、 または  をクリックします。

MQTT API パラメータの設定（セルラー版のみ）

本デバイスは、ピープルカウンティングデータの取得やデバイス設定の変更を行うための[ダウンロードコマンド](#)を受信するMQTT APIを提供しています。このセクションでは、MQTT APIのパラメータ設定方法について説明します。これはセルラー版にのみ適用されます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**Communication**」をクリックします。



2. 右下隅にある「」をクリックします。MQTT APIページが表示されます。

MQTT API

Status Disconnected

Host

Port
(1~65535)

Topic

Client ID

Username

Password

QoS

TLS

3. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。パラメータの説明については、次の表を参照してください。

Parameters	説明
Status	デバイスとMQTTブローカー間の接続状態です。
Host	データを受信するMQTTブローカーのアドレスです。
Port	データを受信するMQTTブローカーのポート番号です。
Topic	<p>メッセージの配信に使用されるトピック名です。トピック名の例は以下の通りです：</p> <p>Topic ① <input type="text" value="device/downlink_config"/></p> <p>以下のプレースホルダーは、サブスクリプション時にデバイス情報に動的に置き換えられます。</p> <p>- \$devsn: デバイスのシリアル番号</p>

Parameters	説明
	- \$sprdmd: 製品モデル \$devid: カスタマイズされたデバイスID \$siteid: カスタマイズされたサイトID
Client ID	MQTTサーバー用の固有のクライアント識別子です。同じサーバーへのすべての接続において一意である必要があります、QoSレベル1および2でのメッセージ配信を管理するために不可欠です。
Username	MQTTブローカー認証用のユーザー名です。
Password	MQTTブローカー認証用のパスワードです。
QoS	オプション: QoS 0 、 QoS 1 、および QoS 2 。
TLS	MQTT通信でTLS暗号化を有効にします。
Certificate Type	このパラメータは、 TLS が有効になった後にのみ表示されます。オプション: CA Signed Server または SelfSigned 。 CertificateType が「 CA SignedServer 」に設定されている場合、デバイスにプリインストールされている CA 証明書を使用してサーバーの検証が行われます。 CertificateType が「 SelfSigned 」に設定されている場合は、 CA し、本人確認用の対応するファイルをアップロードしてください。

4. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。






レポートを生成する




基本的なカウント機能と高度なAI再コロニー化機能の両方を設定すると、本デバイスはダッシュボード、レポート、コマンドライン出力など、複数のデータ表示オプションを提供します。

本端末では、人の往来を表示するための視覚的な折れ線グラフや棒グラフの作成に対応しており、レポートのエクспортも可能です。この機能をご利用になる前に、必ず「System」ページで端末の時刻が正しいことをご確認ください。

手順:

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Report」をクリックします。
2. レポート生成用のデータタイプを選択します。オプション：**Detection Line**検知ライン、**Detection Region**検知エリア、**Heat Map**ヒートマップ、**Attention Region**注目エリア。
3. 必要に応じて、以下の動作のいずれかを行ってください。

If	Do
<p>If Data Type is set to Detection Line</p>	<p>a. Time UnitとTimeRangeを設定してください。</p> <p>b. ドロップダウンリストから行を選択してください。</p> <p>c. 必要に応じて「Individualsまたは「Groupsを選択してください。</p> <p>d. SearchPeopleします。それに応じて、TrafficReportが表示されます。</p> <p>に設定されている場合は、 または  をクリックして、対応する形式でレポートを表示します。</p> <p>f.  をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>g. ここをクリックして  をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートしてください。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</p> <p>h. 次の図の任意のカテゴリをクリックすると、チャートからそのカテゴリを非表示にできます。</p>
<p>If Data Type is set to Detection Region</p>	<p>a. イベントを選択してください。オプション：エリアピープルカウンティング、滞留時間検出必要に応じて、いずれかの動作を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ EventがRegionPeopleに設定されている場合：Countingを設定し、ドロップダウンリストからエリアを選択してください。 ▪ Time Range「Eventに設定されている場合：Dwell Time Detection、Time Range、Min.、Value設定し、ドロップダウンリストから地域を選択してください。 <p>b. Bin をクリックします。それに応じて、「WidthNumberOfまたは「BinsSearchが表示されます。</p> <p>c. 「」をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p>

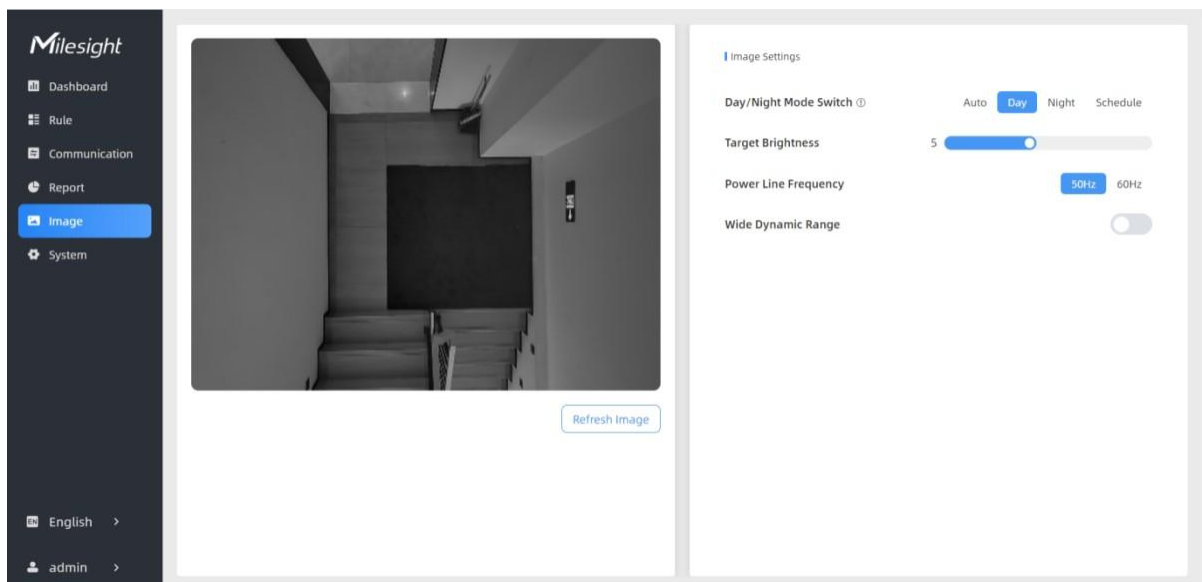
If	Do
	<p>e. ここをクリックして  をクリックして、過去のトラフィックデータをCSVファイルにエクスポートしてください。システムでは、1つのCSVファイルにつき最大1,000,000件のデータレコードのエクスポートに対応しています。</p> <p>f. 次の図の任意のカテゴリをクリックすると、チャートからそのカテゴリを非表示にできます。</p>
<p>If Data Type is set to Heat Map</p>	<p>a. イベントを選択してください。オプション : MotionHeatmap、DwellHeatmap。</p> <p>b. TimeRangeを設定します。</p> <p>c. Searchをクリックしてください。それに応じて、「MotionHeatmapReport」または「DwellHeatmap Report」が表示されます。</p> <p>d. 「」をクリックして、チャートのスクリーンショットをダウンロードします。</p> <p>e.  をクリックして画像を更新します。</p>

画像パラメータの設定

本デバイスは優れた照明適応性を備えており、低照度環境や完全な暗闇でも正常に動作します。非感光方式に基づく昼夜モードの切り替えに対応しています。このセクションでは、画像パラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Image」をクリックします。



2. 右側の「Image Settings」エリアで、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Day/Night Mode Switch	<p>画像モードを設定します。オプション：Auto、Day、Night、Schedule。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Auto：画像の明るさに応じて、昼モードと夜モードを自動的に切り替えます。 - Day：白黒モード。 - Night：赤外線を利用した白黒モードです。 - Schedule：設定されたスケジュールに基づいて、昼モードと夜モードを切り替えます。
Sensitivity	自動昼夜モード切替の感度を設定します。感度が高いほど、昼モードと夜モードの切り替えが容易になります。
Night Mode Duration	夜間モードの継続時間を設定します。
Target Brightness	対象物の明るさを設定して、画像を鮮明にします。明るさを高く設定するほど、対象物の明るさが増します。
Power Line Frequency	画像のちらつきを防ぐために周波数を選択してください。オプション： 50Hz 、 60Hz 。
Wide Dynamic Range	WideDynamic を有効または無効にします。有効にすると、光の条件が大きく異なるシーンでも、より詳細な情報を捉えることができます。

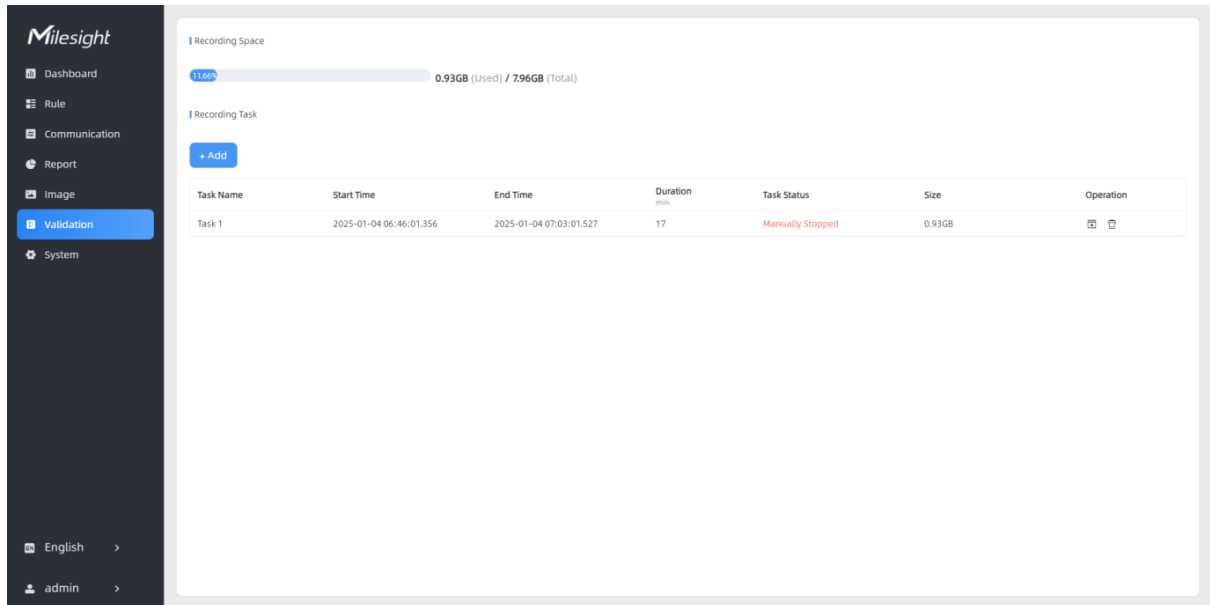
3. 「Refresh Image」をクリックして、画像の変化を確認してください。

ビデオ検証の設定

動画検証機能を使用すると、記録された動画と結果を比較することで、ピープルカウンティングの精度を確認することができます。このセクションでは、この機能の設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「Verification」をクリックします。



2. 右側の「Recording Task」エリアで、「+Add」をクリックします。「Recording Task Settings」ダイアログボックスが表示されます。このデバイスでは、最大 50 件のタスクを追加できます。

| Set a Task of Recording

Task Name

Recording Mode Record Now Setting Time

Start Time

Duration
min(1~60)

×
✓

3. 必要に応じて、以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Task Name	タスク名をカスタマイズします。
Recording Mode	オプション：「Record Now」または「Setting Time。」

Parameters	説明
Start Time	このパラメータは、 Recording ModeSetting Time に設定されている場合にのみ表示されます。録音開始時刻を設定します。
Duration	録画時間を設定します。範囲：60分以下。



注：

異なるタスクで設定された範囲が重複しないようにしてください。

4. クリックしてください。タスクは「Recording Task」エリアに表示されます。

**Limitations :**

記録処理中は、検出ルールを変更することはできません。

5. 記録が完了したら、 **Operation**動作エリアのページです。次のページが表示されます。

The screenshot displays the Milsight web interface. On the left is a navigation menu with options: Dashboard, Rule, Communication, Report, Image, Validation (highlighted), and System. The main area shows a video feed of a room with a heatmap overlay and several person icons. On the right, there is a 'Recording Task' summary for 'Task 1', which is 'Manually Stopped'. Below this is a 'Counting Data' table with four lines (Line1 to Line4). Each line has columns for Total In, Total Out, Staff In, Staff Out, Group In, and Group Out, all showing zero counts.

Counting Data					
Line1					
Total In	0	Total Out	0	Staff In	0
Staff In	0	Staff Out	0	Group In	0
Group In	0	Group Out	0		
Line2					
Total In	0	Total Out	0	Staff In	0
Staff In	0	Staff Out	0	Group In	0
Group In	0	Group Out	0		
Line3					
Total In	0	Total Out	0	Staff In	0
Staff In	0	Staff Out	0	Group In	0
Group In	0	Group Out	0		
Line4					
Total In	0	Total Out	0		

6. 「」をクリックして、プレビューのレイアウトを編集します。詳細については、次の表を参照してください。

Edit Preview Layout

Visual Configuration

- Detection Line U-turn Area
 Detection Region Obstacle Exclusion Region


AI Result

- Real-time Track Line Static Track Line

Other

- Track Start ● / Stop ● Points


Parameters	説明
Visual Configuration	対応するルールをクリックすると、ビデオ内でそのルールを表示または非表示にできます。
AI Result	<p>対応する行をクリックすると、動画内でその行を表示または非表示にできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - - Real-time Track Line : ターゲットのリアルタイムの軌跡線 - - Static Track Line : ターゲットの過去の軌跡線
Other	<p> をクリックすると、動画内の追跡ポイントを表示または非表示にできます。</p>

7. クリック  をクリックして動画を再生し、ピープルカウンティングの精度を確認してください。



注：

下部の再生プログレスバーは、データに変化が生じた動画フレームをハイライト表示します。

8. (オプション)  をクリックして動画をダウンロードし、専用の **Milesight VS Player** を使用してローカル再生を行ってください。

システムパラメータの設定

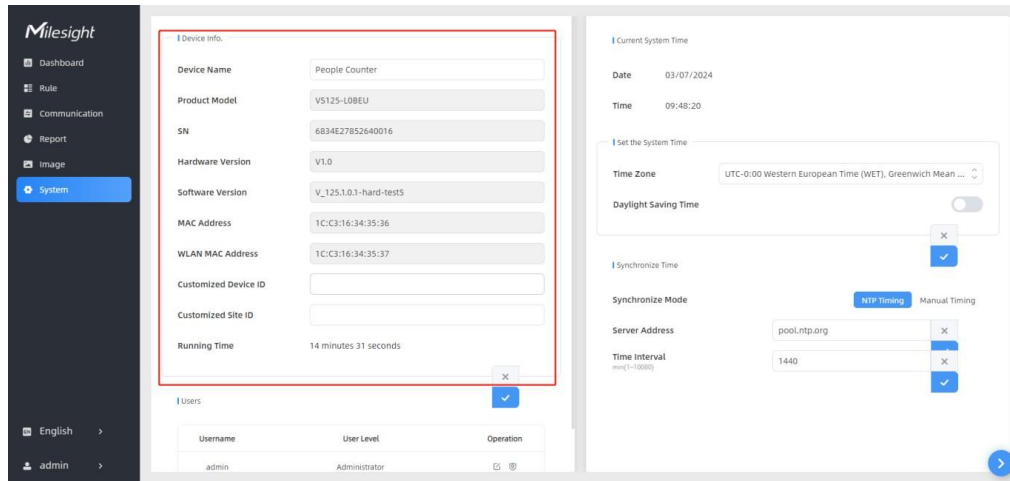
このセクションでは、システムパラメータの設定方法について説明します。


デバイスパラメータの設定

デバイスのハードウェアおよびソフトウェア情報は、「**System**」ページで確認できます。また、ユーザーは、複数デバイスの管理のために、デバイス名、デバイスID、およびサイトIDをカスタマイズすることができます。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「System」をクリックします。



2. 「Device Information」エリアで、デバイス情報を確認し、必要に応じてデバイス名、デバイスID、サイトIDを設定します。
3. 「」をクリックして設定を保存します。

ユーザーパラメータの設定


このセクションでは、ユーザーパラメータの設定方法について説明します。

ユーザーロール：

- 管理者：すべてのウェブページ設定にアクセスできる、システム全体の権限を持っています
- 閲覧者：DashboardとReportページにのみアクセスできます

管理者のパラメータを変更する

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「System」をクリックします。
2. デバイスのログインパスワードを変更するには：


- a. 「Users」 エリアで、 をOperation列でクリックします。「Modify User」ダイアログボックスが表示されます。


Users modify

Username	<input type="text" value="admin"/>
User Level	<input type="text" value="Administrator"/>
Administrator Password	<input type="password"/>
New Password	<input type="password"/>
Confirm Password	<input type="password"/>




At least

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters


- b. 「Admin Password」 エリアに、デバイスのログインパスワードを入力します。
- c. 「New Password」 の欄に、新しいパスワードを入力してください。
- d. 「Confirm Password」 欄に、新しいパスワードをもう一度入力してください。
- e. 「」 をクリックして設定を保存してください。
3. セキュリティの質問を設定するには：

- a.  をクリックします。「Set Security Questions」ダイアログボックスが表示されます。

Secure Question Settings Already Set

Password	<input type="text"/>
Security Question1	What is your lucky number? 
Answer1	<input type="text"/>
Security Question2	What is your favorite sport? 
Answer2	<input type="text"/>
Security Question3	What is your favorite color? 
Answer3	<input type="text"/>



- b. ログインパスワードを入力し、3つのセキュリティの質問に対する回答を入力してください。
- c.  をクリックして設定を保存します。



Troubleshooting :

パスワードをお忘れの場合は、ログインページの「**Forget Password**」をクリックし、3つのセキュリティの質問に答えることでパスワードをリセットできます。

閲覧者の追加

1. 「+ Add User」をクリックします。「Add User」ダイアログボックスが表示されます。

Add User

Username

User Level





Password


Confirm Password

At least

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters

2. 「Password」欄に、新しいパスワードを入力してください。
3. 「Confirm Password」欄に、新しいパスワードをもう一度入力してください。
4. [] をクリックして設定を保存します。ユーザーが **[Users]** エリアに表示されます。

Username	User Level	Operation
admin	Administrator	 
viewer	Viewer	 

5. (オプション)  をクリックして、ビューアのパスワードを変更します。

Users modify

Username

User Level

Administrator Password

New Password

Confirm Password

At least

- 8 characters
- Must contain uppercase letters, lowercase letters, numbers, and special characters



時間パラメータの設定

このセクションでは、時間パラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから **[System]** をクリックします。
2. 「Set System Time」エリアで、必要に応じて以下のパラメータを設定します。

Parameters	説明
Time Zone	システム同期用のタイムゾーンを選択してください。
Daylight Saving Time	夏時間 (DST) を有効または無効にします。 Start Time : 夏時間の範囲の開始時刻です。 End Time : DST 範囲の終了時刻です。

Parameters	説明
	DST Bias : 夏時間期間中に時計の時刻を早めるためのオフセット値を指定します。

3. 「**Sync Time**」エリアで、必要に応じて以下の動作を行ってください。
- 必要に応じて、「**Synchronization Mode**」を「**NTP Timing**」または「**Manual Timing**」に設定してください。
 - 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

If	Do
If Synchronize Mode is set to NTP Timing	<ol style="list-style-type: none"> [Server Address] フィールドに NTP サーバーのアドレスを入力し、<input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。 「Time Interval」エリア <input checked="" type="checkbox"/> デバイスとNTPサーバー間の時刻同期間隔を入力し、「<input checked="" type="checkbox"/>」をクリックしてください。
If Synchronize Mode is set to Manual Timing	<ol style="list-style-type: none"> [Setting Time] エリアで、デバイスの時刻を設定し、<input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。 [withyourcomputer] エリアで、Synchronize をクリックして、デバイスの時刻をコンピュータのシステム時刻と同期させます。

リモート管理パラメータの設定

Milesightは、[Milesight DeviceHubプラットフォーム](#)および[Milesight Development Platform](#)を通じて、本デバイスのリモート管理サービスを提供しています。接続を確立するには、デバイスがネットワークに接続されており、インターネット接続が安定している必要があります。このセクションでは、リモート管理の設定方法について説明します。

手順：

- メインページで、左側のナビゲーションツリーから「**System**」をクリックします。
- 右下隅の「」をクリックします。次のページが表示されます。
- 「**Remote Management**」エリアで、「**Remote Management**」を有効にしてください。

Remote Management

Remote Management

Platform IoT Development Platform

Status **Disconnected**

Platform Settings

Remote Management Service

Auto Provisioning ^①

Data Transfer Service


Security Service

SSH

4. 必要に応じて、プラットフォームを「**DeviceHub2.0**」または「**IoT Development Platform**」に設定してください。プラットフォームの詳細については、それぞれ「**DeviceHub**」および「**Milesight Development Platform**」を参照してください。
5. 必要に応じて、以下の動作を行ってください。

If	Do
If Platform is to DeviceHub2.0 (PoE Version Only)	<ol style="list-style-type: none"> a. 「Server Address」欄に、DeviceHub 2.0 管理サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。 b. Synchronize Device Nameを有効にすると、デバイス名がDevicehub 2.0と同期されます。 c. Synchronize Customized IDを有効にすると、デバイスIDとサイトIDがDevicehub 2.0と同期されます。 d. Connectをクリックします。
If Platform is set to IoT Development Platform	<ol style="list-style-type: none"> a. RemoteManagementServiceを有効にすると、Milesight Development Platform を通じてデバイス設定を変更できます。 b. AutoProvisioningを有効にしてください。これにより、デバイスは、初回起動時、またはリセット後にインターネットに接続した際に、IoT Development Platform サーバーから事前設定ファイルを取得します。 c. 指定した間隔でピープルカウンティングデータをMilesight Developmentプラットフォームに送信するように、データ転送パラメータを設定します。

If	Do
	<ul style="list-style-type: none"> i. DataTransferService有効にしてください。 PeriodicReport自動的に有効になります。 ii. 必要に応じて、PeriodicReportSchemeをOn the DotまたはFrom Now Onに設定します。 iii. Periodを設定します。 iv. 必要に応じて、Trigger Report有効にしてください。


6. [Save]をクリックして  をクリックして設定を保存します。

7. [Security Service] エリアで、**SSH** を有効にして **SSH** アクセスを許可します。SSH ポートは **22** に固定されています。



システムメンテナンスパラメータの設定

このセクションでは、システムメンテナンスパラメータの設定方法について説明します。

手順：

1. メインページで、左側のナビゲーションツリーから「System」をクリックしてください。
2. 右下隅にある「」をクリックします。次のページが表示されます。
3. 右側のページで、必要に応じて以下のパラメータを設定してください。

Parameters	説明
Hardware Settings	LED IndicatorSwitch : デバイスが通常動作しているときに、LED インジケータを有効または無効にします。
Reset	<p>Recovery device basic configuration : Basic Recoveryをクリックすると、IP設定とユーザー情報を保持したままデバイスをリセットします。</p> <p>Recovery device to factory settings :</p> <ul style="list-style-type: none"> a. AllRecoveryをクリックすると、デバイスが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。「Tips」ダイアログボックスが表示されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Tips</p> <p>Administrator Password <input type="text"/></p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="x"/> <input checked="" type="button" value="✓"/></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> b. デバイスのログインパスワードを入力してください。
Reboot	Reboot the Device : 「Reboot」をクリックすると、デバイスが直ちに再起動します。

Parameters	説明
Upgrade	<p>Upgrade Image : アップグレード用ファイル  をクリックしてアップロードし、「Upgrade」をクリックしてデバイスをアップグレードしてください。アップグレード処理には1~10分ほどかかります。処理中は電源を切らないでください。アップグレードが完了すると、デバイスは自動的に再起動します。</p>
Backup and Restore	<p>Export Config File : Export をクリックして、設定ファイルをエクスポートします。</p>
	<p>Import Config Import のインポート File :  をクリックして設定ファイルをアップロードし、「Import」をクリックして設定ファイルをインポートします。</p>
Diagnostics	<p>System Log : Download をクリックして、トラブルシューティング用のログファイルをダウンロードします。</p>
	<p>Logging Level Settings : デフォルトでは、システムログにはデバッグ情報は含まれません。トラブルシューティングのために、より詳細なデバッグログを取得するには、「Include Debug」に切り替えてください。</p>
	<p>IP Ping :</p> <ol style="list-style-type: none"> Open PingTool をクリックしてください。「Ping Tool」ダイアログボックスが表示されます。 [Host] エリアに、ネットワーク接続をテストする IP アドレスまたは URL を入力してください。 Ping をクリックします。 <div data-bbox="620 1197 1222 1661" style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>Ping Tool</p> <p>Host <input type="text" value="www.google.com"/> Ping Stop</p> <pre> PING www.google.com (142.250.196.228): 56 data bytes 64 bytes from 142.250.196.228: seq=0 ttl=113 time=31.403 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=1 ttl=113 time=30.818 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=2 ttl=113 time=34.176 ms 64 bytes from 142.250.196.228: seq=3 ttl=113 time=30.537 ms --- www.google.com ping statistics --- 4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss round-trip min/avg/max = 30.537/31.733/34.176 ms </pre> <p style="text-align: right;">×</p> </div>

第5章 アップリンクデータとダウンリンクコマンド

この章では、本デバイスが対応するアップリンクデータパケットおよびダウンリンクコマンドについて説明します。

アップリンクデータ

本デバイスは、ピープルカウンティングデータをJSON形式でHTTP URLまたはMQTTブローカーに送信することができます。設定の詳細については、「Add Data Recipients」をご参照ください。このセクションでは、リアルタイムおよび定期的なレポート作成のためのアップリンクデータの例をご紹介します。

リアルタイムレポート用のアップリンクデータ例

レポート戦略が「Trigger Report」（リアルタイムレポートが有効）に設定されている場合、デバイスはデータが変更されるとアップリンクデータを報告します。このセクションでは、リアルタイムレポートにおけるアップリンクデータの例をご紹介します。

ライン通過者ピープルカウンティングのデータ例

```
{
  "device_info":
  {
    "cus_device_id": "123456",
    "cus_site_id": "789123",
    "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
    "device_name": "People Counter",
    "device_sn": "6384E16179950009",
    "firmware_version": "V_125-lw.1.0.1",
    "hardware_version": "V1.0",
    "ip_address": "192.168.60.183",
    "running_time": 58,
    "wlan_mac": "24:E1:24:54:23:0A"
  },
  "network_info": //Cellular version only
  {
    "network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
    "iccid": "89860117838009934120",
    "imei": "860425047368939",
    "cell_id": "340db80",
    "lac": "5299"
  },
}
```



```

"time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}

```

地域のピープルカウンティングに関するデータ例

```

{
"device_info":
{
"cus_device_id": "123456",
"cus_site_id": "789123",
"device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
"device_name": "People Counter",
"device_sn": "6384E16179950009",
"firmware_version": "V_125-lw.1.0.1",
"hardware_version": "V1.0",
"ip_address": "192.168.60.183",
"running_time": 105,
"wlan_mac": 24:E1:24:54:23:0A
},
"network_info": //Cellular version only
{
"network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
"iccid": "89860117838009934120",
"imei": "860425047368939",
"cell_id": "340db80",
"lac": "5299"
},
"region_trigger_data":
{
"region_count_data":
[
{
"total":
{
"current_female": 0,
"current_male": 1,

```

```

    "current_total": 2
  },
  "children":
  {
    "current_female": 0,
    "current_male": 1,
    "current_total": 2
  },
  "staff":
  {
    "current_female": 0,
    "current_male": 1,
    "current_total": 2
  },
  "region": 1,
  "region_name": "Region1",
  "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac"
}
]
},
"time_info":
{
  "dst_status": false,
  "enable_dst": true,
  "time": "2024-05-30T20:12:20+08:00",
  "time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}

```

滞留時間検出のデータ例

```

{
  "device_info":
  {
    "cus_device_id": "123456",
    "cus_site_id": "789123",
    "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C", //PoE version only
    "device_name": "People Counter",
    "device_sn": "6384E16179950009",
    "firmware_version": "V_125-lw.1.0.1",
  }
}

```

```
"hardware_version": "V1.0",
"ip_address": "192.168.60.183",
"running_time": 106,
"wlan_mac": "24:E1:24:54:23:0A"
},
"network_info": //Cellular version only
{
  "network_status": "1", //1 is connected, 0 is disconnected
  "iccid": "89860117838009934120",
  "imei": "860425047368939",
  "cell_id": "340db80",
  "lac": "5299"
},
"region_trigger_data":
{
  "dwell_time_data":
[
{
  "children": false,
  "duration": 96799,
  "dwell_end_time": "2024-05-30T20:12:20+08:00",
  "dwell_start_time": "2024-05-30T20:10:43+08:00",
  "people_id": 5,
  "region": 1,
  "region_name": "Region1",
  "region_uuid": "bd1e6ce2-e113-4ce4-a9b6-0633f7083cac",
  "gender": "male",
  "staff": true
}
]
},
"time_info":
{
  "dst_status": false,
  "enable_dst": true,
  "time": "2024-05-30T20:12:20+08:00",
```

```

"time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}

```

有効なビューアトラックが消失した場合のデータ例

```

{
  "device_info":
  { "cus_device_id": "123456",
    "cus_site_id": "789123",
    "device_mac": "24:E1:24:FA:0C:6C",
    "device_name": "People Counter11",
    "device_sn": "6384E16179950009",
    "firmware_version": "V_125-lw.1.0.1",
    "hardware_version": "V1.0",
    "ip_address": "192.168.60.183",
    "running_time": 58
  },
  "network_info":
  { "network_status":
    "1",
    "iccid": "89860117838009934120",
    "imei": "860425047368939",
    "cell_id": "340db80",
    "lac": "5299"
  },
  "attention_region_trigger_data":{
    "region_attention_time_data": [
      {
        "region": 1,
        "region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9",
        "children": false,
        "attention_time_ms": 96799,
        "people_id": 5,
        "gender": "male",
        "staff": true
      }
    ]
  }
}

```

```

"region_uuid": "c2cff789-8311-4a73-8ff3-9348cf4fa0d9",
"children": false,
"attention_time_ms": 96799,
"people_id": 5,
"gender": "male",
"staff": true
}
],
"time_info":
{ "dst_status":
false,
"enable_dst": true,
"time": "2024-05-30T20:11:32+08:00",
"time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
}
}

```

定期レポート用のアップリンクデータ例

レポート戦略が「**Periodic Report**」に設定されている場合、デバイスは設定された間隔でデータが変更された際に、アップリンクデータを報告します。このセクションでは、定期レポートにおけるアップリンクデータの例をご紹介します。

アラーム報告のためのアップリンクデータの例

デバイスが異常な状況に遭遇した場合、アラームを報告します。このセクションでは、アラーム報告に関するアップリンクデータの例を示します。

デバイスの異常な傾きに関するデータ例

```

{
  "device_abnormal_tilt_alarm": [
    {
      "alarm_status": "alarm",
      "device_sn": "6834E23009150005"
    }
  ],
  "device_info":
  { "cpu": {

```

```
    "cpu_temperature": 60,  
    "cpu_usage": 54  
  },  
  "device_mac": "24:E1:24:FA:77:49",  
  "device_name": "66",  
  "device_sn": "6834E23009150005",  
  "device_tilt_pitch_roll":  
    { "pitch": 105,  
      "roll": -153  
    },  
  "firmware_version": "V_125.1.0.5-a1",  
  "hardware_version": "V1.1",  
  "ip_address": "192.168.49.152",  
  "ram": {  
    "memory_usage": 36.01,  
    "total_memory_mb": 480.62,  
    "used_memory_mb": 173.05  
  },  
  "running_time": 7362,  
  "storage": {  
    "storage_usage": 0.04,  
    "total_space_gb": 11.71,  
    "used_space_gb": 0  
  },  
  "wlan_mac": "24:E1:24:FA:77:4A"  
},  
"isRetransmission": false,  
"time_info": {  
  "dst_status": false,  
  "enable_dst": false,  
  "time": "2026-01-13T19:49:58+08:00",  
  "time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"  
}  
}
```

デバイスのオクルージョンに関するデータ例

```
{
  "device_info":
  { "cpu": {
    "cpu_temperature": 60,
    "cpu_usage": 76
  },
    "device_mac": "24:E1:24:FA:77:49",
    "device_name": "66",
    "device_sn": "6834E23009150005",
    "device_tilt_pitch_roll":
    { "pitch": 129.5,
      "roll": 142.1
    },
    "firmware_version": "V_125.1.0.5-a2",
    "hardware_version": "V1.1",
    "ip_address": "192.168.49.152",
    "ram": {
      "memory_usage": 36.89,
      "total_memory_mb": 480.62,
      "used_memory_mb": 177.28
    },
    "running_time": 2682,
    "storage": {
      "storage_usage": 21.59,
      "total_space_gb": 11.71,
      "used_space_gb": 2.53
    },
    "wlan_mac": "24:E1:24:FA:77:4A"
  },
  "device_occlusion_alarm": [
    {
      "alarm_status": "alarm",
      "device_sn": "6834E23009150005"
    }
  ],
  "isRetransmission": false
}
```

```

"time_info":
  { "dst_status":
    false, "enable_dst":
    false,
    "time": "2026-01-27T16:09:03+08:00",
    "time_zone": "UTC+8:00 China Standard Time (CT/CST)"
  }

```

MQTT API コマンド

このセクションでは、本デバイスが対応するMQTT APIコマンドの例をご紹介します。MQTT APIパラメータの設定方法については、「[Configure MQTT API Parameters \(Cellular Version Only\)](#)」をご参照ください。

レポート検索コマンド

リクエスト例：

```

{
  "dst": "all",
  "type": 0,
  "command": "/api/v1/system/searchReport",
  "msgId": "1",
  "requestData": { "event":
    0,
    "startTime": "2025-01-22T08:00:00.000",
    "endTime": "2025-01-23T08:00:00.000",
    "lineParam": {
      "lineId": 0,
      "timeUnit": 0,
      "mode": 0
    },
    "regionCount": { "reg
      ionId": 0
    },
    "dwellDetect": {
      "regionId": 0,
      "timeMin": 10,
      "timeBinWidth": 10,
      "numOfBins": 10
    }
  }
}

```

```

    },
    "heatMap":{
      "type":0
    },
    "uuid":"1d4f62b5-37f0-4bda-80f8-a5625613fc6e"
  }
}

```

リクエストのパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	Type	Description
dst	string	all: MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 SN: 特定の受信者に送信します。
type	number	0: リクエスト、 1: レスポンス。
msgId	number	リクエスト識別子。
requestData	object	
event	number	0: ライン越えカウント 1: エリア内の人数ピープルカウンティング 2: 滞留時間の検出 3: ヒートマップ 4: 履歴ポイント
startTime		
endTime		
lineParam		
regionCount		
dwelldetct		
heatMap		
uuid	string	ユーザーが定義したランダムな一意のID

応答例：成功

```
{
  "code":0,
  "message":"ok",
  "msgld":"1",
  "src":"6834E16184430017",
  "transmitTime":2,
  "type":1
}
```

応答例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	Type	Description
code	integer	
message	string	
msgld	number	応答識別子
src	string	Response SN
type	number	0 : リクエスト、 1 : レスポンス

レポート結果取得コマンド

リクエストの例：

```
{
  "dst": "all",
  "type":0,
  "command":"/api/v1/system/getReportResult",
  "msgld":"1",
  "requestData":{
    "uuid":"1d4f62b5-37f0-4bda-80f8-a5625613fc6e",
    "event":0
  }
}
```

リクエスト例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	Type	Description
dst	string	all: MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 SN: 特定の受信者に送信します。
type	number	0: リクエスト、 1: レスポンス。
msgId	number	リクエスト識別子。
requestData	object	
uuid	string	ユーザーが定義したランダムな一意のIDです。
event	number	0: ライン越えカウント。 1: エリア内でのピープルカウンティング。 2: 滞在時間の検出。 3: ヒートマップ。

応答例：

```
{
  "code": 0,
  "data": {
    "event": 0,
    "isReady": true,
    "line": [
      "group": {
        "in": 9,
        "out": 3
      },
      "time": "2024-08-15T09:00:00.000",
      "total": {
        "in": 9,
        "out": 3
      }
    ]
  }
}
```

```

},
"message": "ok",
"transmitTime": 1
}

```

応答例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	型	Description
code	integer	
data	object []	Return data
event	number	0: ライン横断カウント 1: エリア内の人数ピープルカウンティング 2: 滞留時間の検出 3: ヒートマップ
isReady	boolean	
line,region	object	グループを含む、合計
group ,dwell , total	object	イン、アウトを含む
heatmap	object	
height	number	ヒートマップデータグリッドの高さ
width	number	数値ヒートマップデータグリッドの幅
max	number	ヒートマップの最大値
min	number	ヒートマップの最小値
values	object[]	
X	number	
Y	number	
value	number	
historyPoints		

Parameter	型	数値履歴ポイントパラメータ型
values	object[]	軌跡ポイントのタイプ： 0 : 軌跡の開始点 1 : 軌跡の終了点
X	number	
Y	number	
message	string	情報
transmitTime	number	Processing time

検索ログコマンド

リクエスト例：

```
{
  "dst": "all",
  "type": 0,
  "command": "/api/v1/system/searchLog",
  "msgId": 12345678,
  "requestData": {
    "startTime": "0",
    "endTime": "1800211081920",
    "logType": 0,
    "admin": true
  }
}
```

リクエストのパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	Type	Description
dst	string	all : MQTT API トピックを購読しているすべての受信者に送信します。 SN : 特定の受信者に送信します。

Parameter	Type	Description
type	number	0: リクエスト、 1: レスポンス。
msgId	number	リクエスト識別子。
requestData	object	
startTime	string	開始タイムスタンプ。単位：ミリ秒。
endTime	string	以上タイムスタンプ。単位：ミリ秒。
logType	number	0: 起動ログ。
admin	boolean	true: 応答パラメータ rebootCode を表示します。 false: 応答パラメータ rebootCode を非表示にします。

応答例：

```
{
  "code": 0,
  "data": {
    "log": [
      {
        "PowerOnTime": "2024-07-22T09:34:27+08:00",
        "ShutdownTime": "2024-07-22T09:41:59+08:00",
        "rebootCode": 1,
        "rebootMessage": "normal",
        "runningTime": 451
      },
      {
        "PowerOnTime": "2024-07-22T09:42:05+08:00",
        "ShutdownTime": "2024-07-22T09:54:47+08:00",
        "rebootCode": 3,
        "rebootMessage": "upgrade success",
        "runningTime": 761
      }
    ],
    "recordCount": 5
  },
  "message": "ok",
}
```

```
"transmitTime": 3
}
```

応答例のパラメータの説明については、以下の表をご参照ください。

Parameter	型	Description
code	integer	
data	object	
log	object[]	アイテムタイプ: オブジェクト
PowerOnTime	string	Boot time
ShutdownTime	string	電源オフ時刻
rebootCode	string	<ul style="list-style-type: none"> -1: 稼働中 0: 不明な理由による再起動 1: 手動再起動 2: ネットワーク設定変更による再起動 3: Webアップグレードによる再起動 4: ソフトウェアリセットによる再起動 5: ハードウェアリセットによる再起動 6: 設定インポートによる再起動 7: リモート管理設定インポート 8: リモート管理アップグレード 9: アップグレードフェイルによる再起動 10: マルチキャストネットワーク設定変更による再起動 11: mssserverのクラッシュ 12: avserverのクラッシュ 13: lighttpdのクラッシュ

Parameter	Type	Description
		14: マルチデバイス・スッチング・モードの変更 15: 複数の 4G ダイアルアップのフェイル
runningTime	integer	
runningTime	string	
recordCount	integer	再起動回数。最大表示値は1000です。
message	string	
transmitTime	number	Processing time

第6章 サービス

Milesightは、お客様に迅速かつ包括的なテクニカルサポートサービスを提供しています。エンドユーザー様は、お近くの販売代理店にご連絡いただければ、テクニカルサポートを受けることができます。販売代理店および再販業者様は、Milesightに直接ご連絡いただければ、テクニカルサポートを受けることができます。

テクニカルサポートのメールアドレス：iot.support@milesight.com

オンラインサポートポータル：<https://support.milesight-iot.com>

リソースダウンロードセンター：<https://www.milesight.com/iot/resources/download-center/>

MILESIGHT CHINA

TEL：+86-592-5085280

FAX：+86-592-5023065

住所：Building C09, Software Park Phase III, Xiamen 361024, Fujian, China

販売代理店
ウェーブクレスト株式会社
<https://wavecrestkk.co.jp/ms/>